

令和 7 年度（2 0 2 5 年度）以降使用

教科用図書選定の資料

中 学 校 用

令和 6 年 6 月

佐賀県教育委員会

は じ め に

令和6年度は、令和7年度（2025年度）以降使用の中学校用教科用図書の採択年度である。教科用図書の採択にあたっては、特に慎重な調査研究に基づいて、その適正を期することがきわめて大切である。

県教育委員会は、中学校用教科用図書の採択に資するため、教科用図書選定審議会に諮問してこの資料を作成した。

各関係機関におかれては、この資料を十分活用し、教科用図書の調査研究を行っていただきたい。

1 選定資料作成について

本資料は、次の要領で作成した。

- (1) 教科用図書の調査研究は、学習指導要領に基づいた各教科（種目）共通の五つの「基本的観点」及び、教科用図書の分量・構成等を客観的な数値で表す「データの観点」に沿って行った。
- (2) 調査の対象となった教科用図書は、「中学校用教科書目録（令和7年度使用）令和6年4月 文部科学省」に記載されたもの全てを対象とし、収録の順序は発行者番号順とした。
- (3) 本選定の資料は、最初の1ページに各教科（種目）名を示し、その裏面に観点項目を掲げた。次いで、調査研究の結果を1ページに1発行者分としてまとめたもの及び、データの観点研究の結果を掲載した。
- (4) 調査研究の結果は、観点項目に応じて、特長的な内容について簡潔適切な文章表現による方法で表現した。

目 次

国 語	3
書 写	1 1
社 会（地理的分野）	1 9
社 会（歴史的分野）	2 7
社 会（公民的分野）	3 9
地 図	4 9
数 学	5 5
理 科	6 5
音 楽（一般）	7 3
音 楽（器楽合奏）	7 9
美 術	8 5
保健体育	9 1
技術・家庭（技術分野）	9 9
技術・家庭（家庭分野）	1 0 5
英 語	1 1 1
道 徳	1 2 1

国語

観 点 国 語

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまずきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにすることについて、どのように示しているか。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことについて、どのように示しているか。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うことについて、どのように示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

- (1) 教材が、各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度を育成することをねらいとし、生徒の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的にどのように取り上げられているか。
- (2) 各学年の内容の〔思考力・判断力・表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の(2)に掲げられている言語活動が十分行われるよう、どのように示しているか。
- (3) 教材が次のような観点に配慮されているか。
 - ① 国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ② 伝え合う力、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにするのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ③ 公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ④ 科学的、論理的に物事を捉え考察し、視野を広げるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ⑤ 人生について考えを深め、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を育てるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ⑥ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ⑦ 我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つことについて、どのように示しているか。
 - ⑧ 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を養うのに役立つことについて、どのように示しているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	国語	2	東書	新編 新しい国語
一 【基礎・基本の習得】	○ 各单元には「広がる言葉」があり、作品中の表現と関連する言葉を学ぶことができるとともに、身近な言葉に注目するきっかけとなり、語感を磨き、語彙力を高めることができるようにされている。また、他学年の語句も見ることができるようにされている。 ○ 「読むこと」单元にあるデジタル資料「言葉を広げよう」には、各学年で身に付けたい「心情を表す言葉」や「慣用句」などの語句が収録されている。また、二次元コードを読み取り、言葉をタップすると、意味や例文が表示され、語彙を増やすための工夫がされている。 ○ 二次元コードを読み取って使用する文法の「練習問題」は一问一答式で、タップすると答えが表示され、繰り返し復習することができるようになっている。			
二 【活用する力の育成】	○ 各单元で育成する資質・能力を「言葉の力」にまとめ、解説文や図解で視覚的に整理しやすいように工夫されている。 ○ 国語の学習を通して未来について考える手掛かりとして「未来を考えるための九つのテーマ」を設け、単元の最後に「未来への扉」として関連するテーマを提示し、国語の学習が他教科や生活につながることを意識させる工夫がある。 ○ 二次元コードを読み取って使用する「デジタル資料室」中にある「思考のヒント一覧」には、端末上で操作できるコンテンツが収録されており、実際に端末上で作成して、考えの整理や話し合い活動などで活用することができるようにされている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ キャラクターによる生徒目線の「問いかけ」が導入で示されており、生徒が「何を学ぶのか」を意識し、自分ごととして教材に向き合うための工夫がある。 ○ 「読むこと」や「古典」单元に「てびき」として、単元の学習の流れ（見通す→つかむ→読み深める→考えをもつ→振り返る）が見開き1ページの上段に掲載され、学習の見通しをもって主体的に学ぶことができるようにされている。 ○ 「読むこと」では、「作者の言葉」「作者の紹介」など書き手の声が紹介され、「話すこと・聞くこと」では、発表や話し合いのモデル動画や解説アニメーションがあり、視聴することで、学習内容をイメージしやすくする工夫があるとともに、文字のみによる理解が困難な生徒にとって、視覚的に学習内容を理解しやすくなるよう配慮されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 「文学の学び」「情報と論理の学び」「対話の学び」の見出しには、前後の教材名を挙げて「～と併せて学ぼう」と提示し、系統立てて学習することができるようにされている。 ○ 第1学年の最初の教材では、小学校で学ぶ物語を音読の題材に入れたり、行間や字間を広くとったりして、文章を読みやすくするための配慮がされている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 文字やインデックスの色を「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域、「学び方」を示す項目、「基礎・基本」を示す項目など5色に分類し、領域が視認しやすいように配慮されている。 ○ 巻末の文法解説では、例文の文字が大きく、働きごとに色掛けがされており、注目したい言葉が分かりやすいように工夫されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	国語	15	三省堂	現代の国語
一【基礎・基本の習得】	○ 各単元の「語彙を豊かに」において、単元に関連した語句を示すことで、語彙を増やし、言葉に注目して学ぶことができるようにされている。また、巻末資料「語彙の広がり」において、接頭語・接尾語や慣用句等が意味とともに整理され、より多くの言葉を習得できたり、関連付けたりできるようにされている。 ○ 巻末資料「学習用語辞典」は索引としての役割だけでなく、用語の意味や注釈をつけることで、学習用語について、自主的な学習ができるようにされている。 ○ 二次元コードを読み取って使用する「デジタル漢字ドリル」「デジタル文法ドリル」はランダムに出題されるモードが選べ、学習の仕上げに力試しすることができるようにされている。			
二【活用する力の育成】	○ 単元で身に付けたい資質・能力を、巻頭とじ込み資料「思考の方法」一覧に提示し、国語科のみならず、他教科や日常生活・社会生活に活用できる力や思考ツールを身に付けられるように図解・解説されている。 ○ 「読むこと」に併設されている「読み方を学ぼう」では、文章読解のポイントが整理されており、ほかの文章を読む際に生かすことができるようにされている。 ○ 単元の終わりには「学びを広げる」と題して、発展的問いや関連する教科が提示され、身に付けた力を次の課題や他教科につなげる工夫がある。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 単元のはじめには「目標」が◎と○で提示され、学びの焦点化へとつなげる工夫がある。また、学習に必要なキーワードが太字や色掛けで示され、見通しをもって学習できるようにされている。「振り返り」にもキーワードがヒントで提示され、何を学んだのかを振り返りやすい工夫がある。 ○ 「読むこと」「古典」単元に「学びの道しるべ」として、単元の学習の流れ（構造や内容を捉える→読みを深める→自分の考えを深める→学びを振り返る）が見開き1ページの上段部分に掲載され、学習の見通しをもって主体的に学ぶことができるようにされている。 ○ 「読書活動」では、二次元コード「小さなデジタル図書館」にデジタルテキストが60編以上掲載されており、関心をもった作品を、自由に読むことができるようにされている。			
四【説明の平明さ】	○ 全学年で第1単元において「グループディスカッション」が設定され、国語科の学びを他教科や行事などで活用できるように、系統立てた単元構成がされている。 ○ 第1学年時においては、詩、児童文学作家が書いた物語、グループディスカッションと小学校からの発展として、比較的平易な教材から配置され、徐々に難解な文章へと移行するなどの配慮がされている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 「話すこと」「聞くこと」では、グループディスカッションの役割（提案・質問・確認・促し）に応じて、せりふが4色で色分けされ、活動のイメージをもちやすいように工夫されている。 ○ 第3学年のとじ込み資料「読み方を学ぼう」には、3年間で学習した22の「読み方」の技やこつが整理され、学んだことを復習しやすくする工夫がある。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	国語	17	教出	伝え合う言葉 中学国語
一 【基礎・基本の習得】	○ 单元ごとに「言葉・情報」があり、言葉に注目して本文を読み深められるような問いが設定されていたり、実生活で取り入れたい表現が取り上げられたりして、語彙を増やすための工夫がある。 ○ 巻末に「理解に役立つ言葉」「表現に役立つ言葉」が設けられており、文章読解や表現活動の場面で役立つ語彙を増やすことができるよう工夫されている。 ○ 各单元にある新出漢字や巻末資料の新出漢字一覧は、点画の線が太いことで、字体を正しく視認しやすい工夫がされている。また、「小学六年生で学習した漢字」には筆順が掲載され復習しやすいようにされている。			
二 【活用する力の育成】	○ 单元のはじめには「学びナビ」において、身に付けたい力が示された後に、教材が提示されるため、何を学び、何を身に付ける必要があるのかを生徒が理解して学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 各学年に、全国学力・学習状況調査の問題やPISA問題を踏まえた演習問題「学びのチャレンジ」が設定され、文章や資料を読んで考える力や、目的に応じて判断する力、表現する力を試すことができるようにされている。 ○ 二次元コードを読み取って使用する「まなびリンク」には、古典の「口語訳」など学年に応じた補足資料が掲載されており、個別最適な学びを進めるための工夫がある。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の導入前には「学びナビ」が設けられ、学習テーマのキーワードを取り上げて「何を学ぶか」が解説文で説明されている。また、同学年で関連する教材を時系列で図示し、学びのつながりを把握して、復習や次の単元に生かすための手立てがとられている。図説や箇条書きによる要点整理も掲載され、理解を助ける工夫がある。 ○ 「読むこと」「古典」単元に「みちしるべ」として、単元の学習の流れ（内容を捉えよう→読み深めよう→自分の考えを伝え合おう→言葉・情報→振り返り）が掲載され、学習の見通しをもって主体的に学ぶことができるようにされている。 ○ 各单元後、「広がる本の世界」として、関連する本の表紙がカラーで10冊紹介され、興味・関心をもたせるとともに、学びを広げ深める工夫がある。			
四 【説明の平明さ】	○ 「学びナビ」では既習事項の導入文があり、学びの連続性を意識させる工夫がある。また、順序立てた文章での説明にすることで、学習のポイントが理解しやすいようにされている。 ○ 第1学年時においては、児童文学作家の言葉を引用した随筆や小学校の教材を解説文に取り入れ、中学校の学習内容に移行しやすいように配慮がされている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 「振り返り」にはチェックマークを付ける箇所があり、学びをメタ認知し、書き込んで確認できるよう工夫されている。 ○ 本文の黒字以外の、強調したい箇所には、オレンジと緑色の薄い二色を使い、集中して読むための工夫がある。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	国語	38	光村	国語
一【基礎・基本の習得】	○ 各單元には、「言の葉ポケット」があり、語句や定型文が整理され、語彙を増やし、語感を磨くための工夫がされている。 ○ とじ込み資料「語彙ブック」があり、情景・心情・思考等のテーマごとに、語句が紹介され、語彙を増やすための工夫がある。また、その語句の理解を助けるために、行動や心情イラストが挿入されている。 ○ 二次元コードを読み取って使用する「漢字の練習」はテスト形式で、問題と解答が掲載されており、問題を見ながら、ノート等へ書き、答え合わせをすることができる。			
二【活用する力の育成】	○ 単元で身に付けたい資質・能力を「学びのカギ」に整理して示されている。また、巻末に一覧で掲載し、単元ごとに学習したことのつながりを確認し、復習できるようにされている。 ○ 「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」において、情報の整理方法や図表の活用の仕方を示し、その後、言語活動が設定されているため、身に付けた言語スキルを実際に活用する方法を学ぶことができるようにされている。 ○ 二次元コードを読み取って使用する「国語の力試し」(CBT形式問題)は、解答してすぐに答え合わせをことができ、学習の振り返り、学習の進め方を自ら調整していくことができるよう工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 各單元に関連した文章資料が掲載されており、コラムや資料を通して、興味・関心を広げ深めるための仕組みが施されている。 ○ 「読むこと」「古典」単元に「学びへの扉」として、単元の学習の流れ（見通しをもつ→目標→捉える→読み深める→考えをもつ→振り返る）が掲載され、学習の見通しをもって主体的に学ぶことができるようにされている。 ○ 単元末の「振り返る」では「知る」「話す・聞く・読む」「つなぐ」の3観点で評価でき、身に付けた力や足りない力を見つけて、次の学習や復習につなぐことができるようにされている。			
四【説明の平明さ】	○ 「学びのカギ」のページでは、基礎的・基本的な読みの方法、話したり、聞いたり、書いたりするための観点がまとめられており、ページ上部のインデックス型のマークには他単元との関連や系統、ページ数が記載されており、復習や見通しをもつための工夫がある。 ○ 第1学年時においては、児童文学作家が書いた詩、音読資料、同学年を題材とした小説教材と比較的平易な教材から設定され、徐々に難解な文章へと移行する配慮がされている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ デジタルコンテンツ「書くことのミニレッスン」では「ふりがなモード」が選べ、問題文が読めないために、問題に挑戦できないことがないように配慮されている。 ○ 生徒タブレットやパソコンの使用が効果的と思われる場面には、「ICT活用のヒント」のアイコン表示があり、「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の言語活動の際に、活用できる工夫がある。また、巻末には「ICT活用のヒント 一覧」があり、領域別に整理されることで、見やすい工夫がある。			

種目 国語

※「データの観点」の数値は、国語で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目			発行者番号・略称	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村	
共通データ	①総ページ数			310	366	373	344	
	②単元数		大単元	8	9	9	8	
	③1ページの標準文字数			800	800	756	820	
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数		19	18	21	24	
		ページ数		44	44	37	48	
		ページ割合(%)		14.2	12.0	9.9	14.0	
	⑤佐賀県に関する項目			0	0	1	0	
	⑥写真等の数	写真		37	35	49	39	
		図表		36	43	31	33	
		文章資料		41	22	16	21	
⑦指導者用デジタル教科書の有無			有	有	有	有		
⑧ウェブサイト等へのリンクの有無			有	有	有	有		
種目別データ	知識及び技能	⑨「言葉の特徴や使い方に関する事項」の教材数と割合(%)		14	18	10	13	
				30.4	37.5	22.2	20.6	
		⑩「情報の扱い方に関する事項」の教材数と割合(%)	3	0	2	5		
			6.5	0	4.4	7.9		
			⑪「我が国の言語文化に関する事項」の教材数と割合(%)	4	11	9	12	
				8.7	22.9	20	19.0	
	思考力・判断力・表現力等	⑫「話すこと・聞くこと」の教材数と割合(%)		4	4	6	6	
				8.7	8.3	13.3	9.5	
		⑬「書くこと」の教材数と割合(%)	5	6	7	10		
			10.9	12.5	15.6	15.9		
		⑭「読むこと」の教材数と割合(%)	15	15	11	17		
			32.6	31.3	24.4	27		
		⑮教材の合計数			46	48	45	53

※調査対象は、各発行者の第2学年の教科書。

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。

※③（標準文字数）：全発行者に掲載の第2学年の教材「走れメロス」を基準教材とし、一番文字が多いページの文字数。

※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。

※⑥（写真等の数）：大きさの大小は問わず1つと数えた、内容の理解を助けるための写真、図表、文章資料の数。

書 写

観 点 書 写

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまずきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

書写に関する指導事項（我が国の言語文化に関する事項）について、その特質を理解し適切に使うことができるようにすることについてどのように示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

(1) 第1学年において育成することを目指す知識及び技能に関する内容との関連

- 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くことについてどのように示しているか。また、このことを理解し使うことについて、どのように示しているか。
- 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くことについて、どのように示しているか。

(2) 第2学年において育成することを目指す知識及び技能に関する内容との関連

- 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くことを理解し使うことについて、どのように示しているか。
- 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くことを理解し使うことについて、どのように示しているか。

(3) 第3学年において育成することを目指す知識及び技能に関する内容との関連

- 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことを理解し使うことについて、どのように示しているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	書写	2	東書	新編 新しい書写
一【基礎・基本の習得】	○ 普段書いている硬筆の文字から課題を発見し、その課題をより特徴を実感できる毛筆で確かめ、確認したことを生かして他の文字を書くという学習の流れをとることで、知識・技能の定着を図ることができるよう構成されている。 ○ 文字を整えて書くためのポイントを「書写のかぎ」として各単元に1事項ずつ配置し、学習の基礎・基本やその単元で学ぶことを確実に習得できるよう工夫されている。 ○ 学年ごとの「書写テストに挑戦！」では、生徒自身が学習したことを振り返り、その学年で学習した書写の知識・技能を確かめることができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 「生活に広げよう」では、職場訪問の手紙や本のポップなど身近な題材の例を示すことで、生徒に書写の活用を場を具体的に想起させ、話し合いを通して思考力・判断力・表現力等を高める工夫がある。 ○ 巻末の「書写活用ブック」には、原稿用紙やのし袋、硬筆文字の漢字表などが掲載され、生徒が普段の生活で活用できるようになっている。 ○ 「文字といっしょに」では、文字文化への興味を喚起するコラムや活動が掲載され、生徒が身の回りにある文字について、新たな視点で考えることができるように工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 巻頭の「文字を『書く』ってなんだろう」では、生徒にとって身近な「書く」場面を想起させ、生徒が生活体験をもとに書くことを振り返ることで、自分の文字をよりよくしていこうとする主体的な態度を育めるよう工夫されている。 ○ 単元ごとに目標と振り返りを設定し、生徒自身が学習のねらいを意識し、どんな力を身に付けたのか振り返ることができるように工夫されている。 ○ 教科書紙面上に動画の二次元コードを掲載し、生徒自身が判断して利用することで、自主的な学習やタブレットによる個別学習ができるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 行書の特徴的な「動き」のパターンの中から、使用頻度の高い4つの動きを示すことで、生徒が行書の動きについて理解しやすいよう配慮されている。 ○ 「書写のかぎ」を全学年通して段階的に配列し、螺旋的・反復的に学習を積み重ねられるよう工夫されている。 ○ 第1学年の冒頭に「はじめに」を設け、小学校で学習したことを振り返った上で、中学校での学びをスタートすることができるよう配慮されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 配置を固定化することで、学習過程が統一され、スムーズに学習に取り組めるよう工夫されている。 ○ 学習内容によって、「楷書」の学習ページはオレンジ、「行書」は緑、「使い分け」は青と異なる色を使用することで、視覚的に学習内容を捉えることができるように考慮されている。 ○ 紙面上の色の数や文字量を抑制したり、読み仮名などの小さな文字でも読みやすいUDフォントを使用したりと配慮されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	書写	15	三省堂	現代の書写
一 【基礎・基本の習得】	○ 毛筆学習のあとには硬筆で確かめる「書いて身につけよう」を設け、学習したことを身近な硬筆で確認できるように工夫されている。 ○ 「書き方を学ぼう」では、正しく整った文字を書くためのポイントを整理し、言葉だけでなく図で補足することで理解を深める工夫がある。また、巻末には「書き方を学ぼう」を一覧で示し、3年間の学びを見通し、振り返ることができるよう工夫されている。 ○ 「振り返り」の課題は、全国学力・学習状況調査を踏まえて設定されている。また、第2学年の教材の末尾には「学力テスト問題」を取り上げ、これまでに学んだ書写の学習の内容を確認することができ、知識・技能の定着につながるよう工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 「やってみよう」や「書いて身につけよう」では、国語の「書くこと」に関わる言語活動を取り上げることで、書写の学習内容を活用できるように工夫されている。 ○ 「日常の書式」として、送り状やのし袋、入学願書の書き方など、日常生活に必要な資料を掲載することで、生徒が日常生活とのつながりを意識し、学んだことを活用できるよう工夫されている。 ○ 「文字の変遷」や「文房四宝（毛筆の四つの道具）」、文字に関わり世界で活躍する人々を紹介することで、生徒が文字文化や書写を学ぶ意義を考えることができるよう工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 巻頭に「この教科書の使い方」として、教科書の構成や学習の流れを示すことで、生徒が学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○ 各教材に示す課題や、学年末教材の「やってみよう」では、生徒が対話をしながら書写の学習を進められるよう工夫されている。 ○ 教科書紙面上及び巻末に、「参考資料」や「国語」などコンテンツの内容が分かる形で二次元コードを掲載し、生徒自身が判断して利用することで、自主的な学習やタブレットによる個別学習ができるよう工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 「書き方を学ぼう」では、具体的な書き方のポイントを言葉と図で取り上げ、各教材で学習すべき内容がひと目で分かるように工夫されている。 ○ 毛筆では、朱墨を用いたり、筆の移動を示すマークなどを用いたりして、筆脈を視覚的に理解できるよう工夫されている。 ○ 小学校の学習内容を確認したり、高等学校の書道学習につながる内容を取り上げたりと学習の系統性が意識できるよう工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 各教材を見開きでまとめ、どの教材も同じ構成とすることで学習の流れがひと目で分かるよう工夫されている。 ○ 毛筆では、楷書と行書の手本を並べて提示し、書体の違いを確かめ、特徴を捉えることができるよう工夫されている。 ○ 読みやすさ、学びやすさを追求した独自の明朝体・ゴシック体を使用したり、色の濃淡や罫線の使い分けを工夫したりと見やすく、学びやすい配色になっている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	書写	17	教出	中学書写
一【基礎・基本の習得】	○ 学習のはじめに、硬筆の「試し書き」で自分の課題に気付き、「考えよう」で毛筆を中心に知識や運筆について学び、「生かそう」では再度硬筆で確かめるという流れをとり、知識・技能の定着が図れるようになっている。 ○ 「楷書」「行書」とともに漢字やひらがなの筆順を明記することで、生徒が字形を理解し、整った字を書くことができるよう工夫されている。 ○ 学習したことを生かして書く「まとめ書き」や「書写テストで確認（第3学年）」を設け、学習の定着度を生徒が確かめることができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」では、学んだ知識・技能と他教科や日常生活とのつながりが感じられる教材を取り上げることで、身に付けたことを実践で生かすことができるような工夫がある。 ○ 生徒にとって最も身近なノートの書き方を、縦書き・横書きともに取り上げ、学んだことを日常生活に生かせるよう工夫されている。 ○ 「文字の変遷」「活字について知ろう」など文字に関するコラムを設け、生徒が文字の大切さを考えることができるようになっている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 巻頭の「学習の進め方」で学習の流れや学び方を示すことで、どのように学ぶのか見通しをもつことができ、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○ 課題選択教材や補充教材集を設け、課題解決に向けて主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 教科書紙面上に動画の二次元コードを掲載し、生徒自身が判断して利用することで、自主的な学習やタブレットによる個別学習ができるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 始筆、字形、筆圧などの書写の学習用語を太字や赤字で示し、学習で意識すべき事項が視認しやすいよう工夫されている。 ○ 毛筆では、穂先の通道を朱墨で示したり、具体的な言葉や写真で運筆や筆の向きを示したりすることで、筆使いが理解しやすくなるよう工夫されている。 ○ 小学校での既習事項を図版で示したり、「発展」ページを設け、高等学校で学習する内容を示したりすることで、学習の系統性を意識できるよう工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 各教材を見開きでまとめ、毛筆基本紙面は、右側の紙面で文字をよく見てから、左側の紙面で学習ステップを追いながらポイントを確かめることができる構成となっている。 ○ 毛筆では、半紙形を維持した紙面、中心線を引ける「・」によって、書き始めの位置やバランス、文字の大きさと余白のとり方などが実感できるよう工夫されている。 ○ 手書き文字と近い形で学習できるUDフォントを用いたり、判読しやすい配色やレイアウトを工夫したりされている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	書写	38	光村	中学書写
一【基礎・基本の習得】	○ 全教材に学習のポイントがひと目でわかる「学びのカギ」を設け、他の文字を書くときにも普遍的に活用できる書写の基礎・基本が明確に示されている。 ○ 巻頭の「中学書写スタートブック」では、書写の基礎・基本が分かりやすく示されている。また、問いかけを用いることで書写学習の目的について考えられるよう工夫されている。 ○ 別冊の硬筆練習帳「書写ブック」を設け、毛筆教材の文字と同じ学習要素をもつ硬筆課題に取り組むことで、毛筆での学習を硬筆に生かすことができるようになっている。また、第3学年の「書写テスト」でこれまでの知識・技能を確かめることができるようになっている。			
二【活用する力の育成】	○ 「日常に役立つ書式」では、手紙やはがき、原稿用紙、通信文等の書式を整理して示し、身に付けた知識・技能を生徒が日常生活に生かすことができるよう工夫されている。 ○ 「SDGs」や「防災」などの問題を教材として取り上げることで、書写と現代社会とのつながりを考えられるように工夫されている。 ○ 「書き初めマスターブック」や「全国フォント見つけ隊」「全国文字マップ」などを通して多様な文字に触れ、文字や文字文化への理解・関心を高める工夫がされている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 各教材は「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という展開で構成され、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 教材冒頭の「考えよう」では、観察や比較を通して、文字の整え方の決まりなどを生徒が発見し、「確かめよう」で確かめることができるようになっている。 ○ 教科書紙面上に、「参考資料」や「動画」などコンテンツの内容が分かる形で二次元コードを掲載し、生徒自身が判断して利用することで、自主的な学習やタブレットによる個別学習ができるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 毛筆教材では、朱墨や筆使いを示す写真を用いて、筆脈や穂先の動きを把握しやすいように工夫されている。 ○ 第1、2学年では、行書の4つの特徴を「行書スイッチ」として掲載することで、行書のポイントがひと目で分かるような工夫がある。 ○ 巻頭の「中学書写スタートブック」で小学校での既習事項を振り返ることができるようになっている。また、コラムや巻末では、高等学校での学習内容との関連を意識させる資料を掲載し、円滑な接続が図られている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 重要なことを大きく、その他の事例を小さく掲載するなど、大切なことがひと目で分かる紙面構成で、生徒の理解を助ける工夫がある。 ○ 「書写ブック」を別冊として切り離して使えるようにすることで、毛筆と硬筆の教材を整理し、見やすい紙面になるよう工夫されている。 ○ 複数の色を用いる文字や図表などは、明確に識別できる色で組み合わせ、単元名や目次には、UDフォントを用いる配慮がなされている。			

種目 書写

※「データの観点」の数値は、書写で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目			2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
共通データ	①総ページ数		146	122	146	166
	②単元数	大単元	5	7	8	6
	③言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	6	3	9	7
		ページ数	15	12	21	14
		ページ割合(%)	10.3	10.0	15.4	8.4
	④佐賀県に関する項目		2	1	2	2
	⑤写真等の数	写真	180	92	295	185
		図表	20	23	17	18
		文章資料	1	3	1	2
	⑥指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有	有
	⑦ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有	有	有
種目別データ	⑧硬筆の教材数と割合(%)		17	9	19	20
			40.5	25.8	32.8	44.4
	⑨毛筆の教材数と割合(%)		25	26	39	25
			59.5	74.2	67.2	55.6
	⑩硬筆と毛筆の教材数の総数		42	35	58	45
	⑪楷書の教材数と割合(%)		12	13	16	17
			28.6	37.0	27.5	37.8
	⑫行書の教材数と割合(%)		30	22	42	28
			71.4	63.0	72.4	62.2
	⑬楷書と行書の教材数の総数		42	35	58	45

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。

※③（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。

※⑤（写真）：大小は問わずに、数えた写真の数。手書きの作品の写真を含む。連写写真は全部で1つ、写真の一部を拡大して掲載したものは元の写真と合わせて1つと数えた。また、朱墨の手本については筆と一緒に写っているもののみを数えた。

※⑤（図表）：ひとまとまりの内容になっているものを1つと数えた図や表、グラフの数。手本の解説は除く。

※⑤（文章資料）：ひとまとまりの文章教材（歌詞や詩など）。図表等に付けられたキャプションは除く。

※⑧～⑬（教材数）：補助資料も含めて、掲載されている手本の数。手本として示された作品を含む。

社 会

(地理的分野)

観 点

社 会（地理的分野）

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまずきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データの観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるために、どのような活動を示しているか。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことについて、どのように示しているか。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めることについて、どのように示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

地理的分野において身に付けることを目指す知識及び技能や思考力・判断力・表現力等を育成するために、どのような課題を追究したり解決したりする活動を示しているか。

(1) 世界と日本の地域構成

位置や分布などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動を通して学習する地域構成についてどのように示しているか。

(2) 世界の様々な地域

場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動を通して学習する世界各地の人々の生活と環境、空間的相互依存作用や地域などに着目し、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習する世界の諸地域についてどのように示しているか。

(3) 日本の様々な地域

場所などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動を通して学習する地域調査の手法、分布や地域などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動を通して学習する日本の地域的特色と地域区分、考察の仕方を基に、空間的相互依存作用や地域などに着目し主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習する日本の諸地域及び地域の在り方について、どのように示しているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (地理的分野)	2	東書	新編 新しい社会 地理
一 【基礎・基本の習得】	○ 全小単元（1単位時間）に、「学習課題」を設け、その解決に必要な資料を生徒の思考過程に沿って配置することで、生徒が学習の流れをつかみ、学習内容を習得できるように工夫されている。 ○ 「スキル・アップ」（31か所）を設け、地図やグラフなどを読み取る基礎的な技能を確実に身に付けることができるように工夫されている。 ○ 全小単元に「チェック」を設け、学習内容の定着を図ることができる工夫がある。 ○ 各章、節末に「確かめよう」や「ワードチェック」を設け、生徒が学習内容を繰り返し学習できるように工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 「資料から発見」（6か所）を設け、学習内容に応じて写真やグラフ、地図などを読み取る力を身に付け、その力を活用することができるように工夫されている。 ○ 全小単元に「トライ」を設け、思考力・判断力・表現力等を高めることができるように工夫されている。 ○ 各節の「まとめの活動」において、「ウェビング」や「マトリックス（表）」などの思考ツールを提示し、学びを深めることができるように考慮されている。 ○ 「スキル・アップ」で身に付けた技能を活用する「整理された活動コーナー」を設け、「見方・考え方」を明示し、資料を読み取ったり、考えたりできるように工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 世界・日本の諸地域の導入では、単元を見通すコーナーと世界・日本各地の中学生が地域を語るコラムを設け、興味・関心をもつことができる工夫がされている。 ○ 各節の導入で、単元を貫く「探究課題」と全小単元に「学習課題」、生徒が興味・関心をもつような「サブタイトル」を設け、単元全体の学習に見通しをもち、課題解決を意識しながら、主体的に学習を進めることができるように工夫されている。 ○ 随時、対話的な活動を効果的に実践できるよう「みんなでチャレンジコーナー」が設けられており、対話を通して、他者の考えを取り入れ、自分の意見を調整していくことができるように工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 編や章のはじめに、「小学校の社会で習ったことば」や小学校で学んだ内容に関連する写真を掲載し、小学校の学習内容との関連を図り、探究課題をつかみやすくする工夫がある。 ○ 同一章では、見開き1ページの写真や図表、資料などが同一の構成となっているため、学習の流れが分かりやすくなっている。 ○ 巻頭に「地理を学ぶ5つのミカタ」が設けられており、社会的事象の地理的な見方・考え方を理解しやすくなるように工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 資料の背景に薄い色を付けて本文との区別を明確にしたり、立体感や不要な陰影を省いたフラットデザインを採用したりして、読み取りやすくなるように考慮されている。 ○ カラーユニバーサルデザインに対応し、写真や挿絵、図表が鮮明に見やすくなるよう考慮されている。 ○ 字形を判別し、読みやすくなるようUDフォントが全ての文字に採用されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (地理的分野)	17	教出	中学社会 地理 地域にまなぶ
一【基礎・基本の習得】	○ 全小単元に学習課題が設定されており、学習の見通しをもつことや学習内容を整理しながらまとめる活動として、「確認！」のコーナーが設けられており、学習内容の確実な定着を図る工夫がある。 ○ 「地理の技」(8ヶ所)を設け、二次元コードを活用し動画を視聴することで、技能の習得を助けるよう工夫されている。 ○ 各章末に「学習のまとめと表現」を設け、「ワードチェック」を示すなどして、学習内容の定着を図る工夫がされている。			
二【活用する力の育成】	○ 「THINK！」において資料を読み解きながら考察する学習に取り組む問いを提示し、思考力・判断力・表現力等の習得を図る工夫がされている。 ○ 「特設・クロスロード」の「TRY!」や章末の「学習のまとめと表現」に、資料や作業を基に言語活動に取り組む問いが設けられており、思考力・判断力・表現力等を高めることができるように工夫されている。 ○ 「関連」において、他ページでの学習との関連と歴史的分野・公民的分野との関連について示し、学びがつながっていることを意識できるように考慮されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 世界・日本の諸地域の学習を見通す導入ページには、学習する内容に関する地域の写真や資料を掲載し、学習テーマや地球的課題を提示することで、興味・関心をもって学習を始めることができるように工夫されている。 ○ 小単元によっては、導入資料の解説で、追究のきっかけとなる視点を提示した「LOOK!」が設けられており、生徒の自主的な学習に役立つよう工夫されている。 ○ 「特設・クロスロード」では、世界や日本の事例を基に、歴史的分野や公民的分野と関連する話題や、より多面的・多角的に考察できる話題を取り上げ、本時とは異なる観点から学習を深められるように工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 難解な用語や補足が必要な箇所には、巻末に丁寧な用語解説があり、生徒の理解を助けるための工夫がされている。 ○ 本文と資料の関連が番号で示されており、本文を資料と照らし合わせながら読むことができるよう配慮されている。 ○ 随時、「地理の窓」や「声」を設けることで、学習内容との関連性を具体的に示し、学習内容の理解を深めることができるような工夫がされている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 7ページにわたる、大きく広げることができる折り込み資料が設けられており、世界・日本両方の学習に役立てることができるようになっている。 ○ 写真や図版の資料の背景に色を付け、本文と資料の区別が明確にされている。 ○ 文章には、見やすく読み間違えにくいUDフォントが使用されている。 ○ 図やグラフなどには、カラーユニバーサルデザインが取り入れられている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (地理的分野)	46	帝国	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土
一 【基礎・基本の習得】	○ 全小単元に学習課題が設定されており、学習の見通しをもつことができ、「確認しよう」のコーナーで、学習内容の定着ができるようになっている。 ○ 章末、節末の「学習を振り返ろう」の「振り返り1」では、白地図で学習内容の確認ができるようになっており、節の重要語句のチェックもでき、学習内容の定着を図る工夫がある。 ○ 「技能をみがく」(21ヶ所)を設け、写真や地図、グラフの読み取りに関する技能を身に付けることができるように工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 全小単元に「説明しよう」を設け、生徒が学習活動を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につなげる問いを提示し、思考力・判断力・表現力等の育成を促す工夫がされている。 ○ 「章・節の問い」を設置し、「単元を貫く問い」を明示することで、見通しをもって学習し取り組むことができるように工夫されている。 ○ 節末の「学習を振り返ろう」の「振り返り2」では、地域的特色を思考ツールにまとめ、対話を通して自分の考えを表現することで思考力・判断力・表現力等を高めることができるように工夫されている。 ○ 「地図帳活用」を設け、地図帳との連携を図り、学習をより深めるための工夫がある。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 世界・日本の諸地域の学習では、導入「写真で眺める〇〇州・〇〇地方」が設けられており、地域の姿を実感できるようになっている。また、大きく鮮やかな写真を掲載することで、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。 ○ 国内外での現地取材で人々の暮らしが見えるような写真を撮影し、掲載することで社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせることができるような工夫がされている。 ○ 特設「アクティブ地理」において、対話を通して課題に向き合う姿勢や、他者との意見交換を通して合意形成を目指す態度を身に付けられるように工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 日本の諸地域の冒頭部分に、親しみやすいイラスト地図を掲載し、各地域の特色を端的に捉えられるように工夫されている。 ○ 巻頭に、「地理的な見方・考え方」について、端的に理解できるよう事例が示されている。 ○ 随時、「解説」で分かりにくい用語の解説をしたり、コラム（「未来に向けて」や「地理プラス」）を掲載し、学習内容との関連性を具体的に示したりして、理解を深められるように工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 見通し・振り返りがしやすいよう、「導入資料、学習課題（見通し）→本文→確認しよう、説明しよう（振り返り）」で見開き1ページでの展開が統一されていて、学習が進めやすくなるように工夫されている。 ○ 本文、図版タイトルには、UDフォントが使用されており、カラーユニバーサルデザインに配慮した色調で、見やすく分かりやすくなるよう配慮されている。 ○ 資料の背景の色、線の種類や太さ、囲み線の色などで、インクルーシブ教育に配慮した表現になっている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (地理的分野)	116	日文	中学社会 地理的分野
一 【基礎・基本の習得】	○ 全小単元に「学習課題」、その解決の手掛かりとなる「見方・考え方」を明確に示し、終末の「確認」と「表現」で、学習内容の定着ができるように工夫されている。 ○ 「スキルUP」(27か所)を設け、写真やグラフなどの読み取りに関する技能の定着が図れるように工夫されている。 ○ 全小単元に二次元コードが掲載されており、ICTを活用して「ポートフォリオ」や「確認小テスト」を設定し、知識の定着が確認できるようになっている。 ○ 世界・日本の諸地域の節末では、「まとめと振り返り」が設けられており、繰り返し学習することで知識を習得できるように工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 全小単元に「表現」が設けられており、文章や地図を活用して、まとめることができるように工夫されている。 ○ 世界・日本の諸地域の各節のまとめにおいて、思考ツールを活用して考えをまとめることで、思考力・判断力・表現力等を高めることができるように考慮されている。 ○ 「議論してみよう」では、現代の諸問題について調べたり、議論したりする活動を行うことで、実生活と関連付け、深い学びが実現できるよう工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 編や章のはじめに「単元を貫く問い」や学習を見通す内容を設けたり、世界と日本の諸地域の冒頭では、見開き1ページに渡り、写真を掲載したりすることで、興味・関心を喚起する構成の工夫がされている。 ○ 最新のトピックス、多様性の尊重、環境問題・環境保全など具体的な事例の紹介や地域の人々の「声コーナー」を設けることで、多様な地理的事象に対する興味・関心を高める工夫がされている。 ○ 巻頭に、具体的な事例を紹介し、随時、持続可能な社会について考えることができるように考慮されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 脚注に、小学校社会科や歴史的分野・公民的分野との関連を示す「連携コーナー」が設けられており、系統性をもたせるように考慮されている。 ○ 巻頭に「地理的な見方・考え方って？」を設け、全小単元ごとに社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせながら学習を進めることができるように工夫されている。 ○ 随時、「地理+α」を設け、学習内容との関連性を具体的に示すことで、生徒の内容理解を深められるように考慮されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 見開き1ページごとに、授業や生徒の思考の流れに沿った構成になっている。 ○ 本文には、UDフォントが使用されており、重要語句については太字で表記し、すべてに振り仮名を付けることで、読みやすくなるよう考慮されている。 ○ カラーユニバーサルデザインの観点から、地図やグラフなどの図版においては、模様や形、線の種類など色以外の情報で読み取りができるように考慮されている。			

種目 社会（地理的分野）

※「データの観点」の数値は、社会（地理的分野）で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目		発行者番号・略称	2 東書	17 教出	46 帝国	116 日文
共通データ	①総ページ数		294	310	310	318
	②単元数	大単元	3	3	4	3
		小単元	87	103	97	91
	③ 1 ページの標準文字数		725	668	472	543
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	111	124	121	136
		ページ数	111	124	121	136
		ページ割合 (%)	37.8	40.0	39.0	42.8
	⑤佐賀県に関する項目		2	2	3	6
	⑥写真等の数	写真	607	591	616	630
		図表	617	526	509	634
		文章資料	84	110	105	72
	⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有	有
	⑧ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有	有	有
種目別データ	⑨作業的・体験的学習の数		165	197	186	175
	⑩作業的・体験的学習の方法等説明数		31	23	28	27
	⑪地理的な見方・考え方に関する項目数		152	164	159	91

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。

※③（1ページの標準文字数）：共通の単元で見開き1ページの本文のみで判断（句読点等含む）。

※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。

※⑥（写真）（図表）：表紙を除いて使用された写真・図表の数。ただし、複数の写真・図表を比較して活用することを目的としている場合は1つと判断。

※⑥（文章資料）：本文中の用語の説明は除く、社会的事象への認識を深めるためのエピソードなどの読み物資料。

※⑧（ウェブサイト等へのリンクの有無）：二次元コードやホームページアドレスが示してあるかで判断。

※⑨（作業的・体験的学習）：レポート作成・討論・フィールドワークなどのほかに教科書への書き込み作業なども含めた作業的・体験的学習の数。

※⑩（作業的・体験的学習の方法等）：レポート作成・討論・フィールドワークなどの具体的な方法の数。

※⑪（地理的な見方・考え方）：社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して具体的に示している数。

社 会

(歷史的分野)

観 点

社 会（歴史的分野）

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。
つまずきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データの観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることについて、どのように示しているか。
- (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことについて、どのように示しているか。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養うことについて、どのように示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

歴史的分野において身に付けることを目指す知識及び技能や思考力・判断力・表現力等を育成するために、どのような課題を追究したり解決したりする活動を示しているか。

(1) 歴史との対話

中学校歴史的分野の導入となる私たちと歴史、身近な地域の歴史についてどのように示しているか。

(2) 近世までの日本とアジア

人類のおこりや文明の発生から 19 世紀前半までの我が国の古代・中世・近世までの各時代の特色を、主としてアジアを中心とした世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習する古代までの日本、中世の日本、近世の日本についてどのように示しているか。

(3) 近現代の日本と世界

19 世紀ごろから 20 世紀末ごろまでの我が国の近代・現代の特色を 18 世紀ごろからの世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習する近代の日本と世界、現代の日本と世界についてどのように示しているか。

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (歴史的分野)	2	東書	新編 新しい社会 歴史
一 【基礎・基本の習得】	○ 小単元（1単位時間）を、興味・関心を引き出す「導入資料」→1単位時間を貫く問いである「学習課題」→丁寧に分かりやすい「本文」→1単位時間の学習課題を解決する「チェック＆トライ」の流れで構造化し、学習内容を定着できるように工夫されている。 ○ 歴史学習の基礎的・基本的な知識・技能を系統的に習得させる「スキル・アップ」を設け、学習に必要な技能を定着できるように工夫されている。 ○ 本文中の学習用語を解説するため、巻末に「用語解説」が設けられており、基礎的・基本的な知識の確実な理解につながるように工夫されている。また、二次元コードでは、社会科で学習する用語が確認できる「社会科用語マスター」が用意されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 第1章2節で「歴史的な見方・考え方」を明示して捉えさせるとともに、学習の過程に適宜「見方・考え方」を働かせるマークを設け、学習を深められるような工夫がされている。 ○ 各小単元には、生徒自身が説明や要約をすることで学習内容をまとめる「チェック＆トライ」が設けられており、思考力・判断力・表現力等を高められるような工夫がされている。 ○ 各章の終結部には「ウェビング」「ステップチャート」といった多様な思考ツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」を設け、思考を整理し、学びを深められるような工夫がされている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 各章の導入で、単元を貫く「探究課題」を設け、単元全体の学習に見通しをもち、生徒の主体的な学習を促すように工夫されている。また、各節のはじめに「探究課題」の解決を補助するための「探究のステップ」や小単元ごとの問い（学習課題）が設けられており、構造化が図られている。 ○ 各章の「導入の活動」「まとめの活動」に「みんなでチャレンジ」が設けられ、グループによる対話的な学習ができるようになっており、主体的な学習につながるような工夫がされている。 ○ 教科書全体を「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の5つのテーマで貫き、現代的な諸課題を意識しながら学習を進められる工夫がある。			
四 【説明の平明さ】	○ 人物資料の説明文にその人物を紹介した見出しがあり、人物の特徴が捉えやすくなるように工夫されている。 ○ 資料に小単元で通し番号が付けてあり、資料と本文とを結び付けて読み取ることができるように考慮されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 教科書の全ての文字に、字形を判別しやすく、読み間違えにくいUDフォントが採用されている。 ○ 資料の不要な陰影をなくしたことで、必要な情報が読み取りやすくなるよう配慮されている。 ○ 資料掲載部分に背景色を入れてあり、本文との区別が明確になっている。 ○ グラフや地図は、見分けが付きやすくなるよう色の組み合わせに配慮されており、カラーユニバーサルデザインに基づく紙面づくりがされている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (歴史的分野)	17	教出	中学社会 歴史 未来をひらく
一 【基礎・基本の習得】	○ 全体のページ数や本文の記述量を充実させ、学習内容を詳しく丁寧に扱うことにより、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得が図られるように配慮されている。 ○ 知識・技能を育成する学習活動への支援として、小単元の最後に、「確認」が設けられており、学習事項の確実な定着が図られるように構成されている。また、本文内に適宜設けられた「歴史の技」コーナーでは、個人やグループでの活動を通じて、歴史の学習で身に付けたい基礎的・基本的な技能を養えるよう配慮されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 小単元の見開き1ページの最後に、学習したことを基に表現する「表現」のコーナーが設けられており、学習事項の定着と活用が図られるように構成されている。また、学習の流れに即して「THINK!」や「Q」のコーナーが適宜設けられており、地図・グラフ・絵・図解などの資料を読み取って考察する学習活動ができるように工夫されている。 ○ 各章末の「学習のまとめと表現」では、時代区分ごとに分け、政治や外国との関係、生活や文化の変化を振り返りやすいように掲載されている。また、年表などに重要語句の書き込みができ、学習内容を活用して時代の特色などを考察できるように考慮されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 小単元のタイトルには、学習内容を象徴する主題と、学習事項を表す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、課題意識を明確にすることができるようになっている。 ○ 小単元の見開き1ページの右下の「確認／表現」や章末の「学習のまとめと表現」に、グループによる学習活動がバランスよく設置されており、協働学習を通して、多角的に理解したり考察を深めたりすることができ、新たな知識の習得や生徒の学習意欲を向上させる工夫がされている。			
四 【説明の平明さ】	○ 小学校で学習した人物の写真にマークを付けることで、既習事項であることが分かり、小学校の学習からの円滑な接続ができるように工夫されている。 ○ 巻末の歴史年表は、原始・古代から現代までの全時代を一覧できる両開きの折り込みページで構成されており、時代の流れや現在からの時間的距離をつかみやすいように工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ カラーユニバーサルデザインに基づく紙面づくりがされており、文字についてはUDフォントによる黒文字を基本とし、白抜き文字や色文字は十分な大きさが確保されている。図版資料については、配色とともに形や模様、吹き出しなどの表示も判読しやすいように配慮されている。 ○ 社会科学学習に不可欠な資料が豊富に掲載され、出典と併せて視覚的に捉えやすく配置されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (歴史的分野)	46	帝国	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き
一【基礎・基本の習得】	○ 各章や節の冒頭にある「タイムトラベル」のイラストや資料から学習内容を見通し、「学習を振り返ろう」で学習内容を振り返る学習活動ができるように工夫されている。 ○ 本文は、歴史的事象の背景や影響がわかるように因果関係を踏まえた上で、具体例を挙げて記述したり、補足するための図解や写真を掲載したりするなど、生徒が本文の内容を理解する助けとなるような工夫がされている。 ○ 「技能をみがく」コーナーが設けられており、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる上で必要な基礎的・基本的な技能が身に付くように工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 小単元の見開き1ページの右下に、生徒が習得事項を確認する問いと学習内容を活用し、自分の考えを表現できる問いが設けられており、学習したことを活用した言語活動に毎時間取り組めるように工夫されている。 ○ 各章末には、習得した知識・技能を生かして社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせつつ、単元を貫く問いに対して課題を設け、活用する力を育成できるように工夫されている。 ○ 学習内容と関連する歴史的事象を題材にした「アクティブ歴史」を設け、資料を活用しながら、理解を深めることができるように工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 小単元の学習内容の展開を、「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」で統一し、生徒の興味・関心から見通しをもって学習を進め、その成果を振り返ることができるように工夫されている。 ○ 単元を貫く問い、小単元の「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、章末の「学習を振り返ろう」のように問いを構造化し、単元のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように構成されている。 ○ 日本の各時代の場面をイラストで表す「タイムトラベル」や同時代の世界の様子をイラストや地図で表す「世界とのつながりを考えよう」を設けることで、生徒が時代の特徴を視覚的に概観し、興味・関心が高まるように工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 小単元の見開き1ページの左下に「小学校・地理・公民・他教科との関連」コーナーを設け、関連用語を提示することで、小学校の学習内容の確認や他分野・教科との関連が意識できるように考慮されている。 ○ 本文と資料の関連する箇所には、図・写真や他ページへの適切な参照指示が記載されており、学習効果を高めるとともに、効率よく資料の活用ができるように考慮されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 本文や図版などは、UDフォントが使用されており、文字をはっきりと読み取ることができるよう配慮されている。 ○ 小単元では、左ページ上段に導入資料、右ページ上段に図版、写真、コラムを配置するなど、配置を統一することで、視認しやすく、必要とする情報を見つけやすくなるよう考慮されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (歴史的分野)	81	山川	中学歴史 日本と世界 改訂版
一 【基礎・基本の習得】	○ 本文中の難しい用語にはページ内に「用語解説」や注釈が付けられており、必要に応じて用語の確認ができるように配慮されている。 ○ 「各章のとびら」では、日本と世界のできごとが帯年表で示されており、視覚的に捉えやすくなっている。 ○ 「各時代の世界」では、各時代の世界の様子を地図やイラストで紹介し、視覚的に時代の特色が理解できるように考慮されている。 ○ 章末の「まとめ」では、学習した時代の特色を考えさせたり、歴史的転換点を捉えさせたりする活動を通して、学習内容の定着を図るような工夫がされている。			
二 【活用する力の育成】	○ 「歴史へのアプローチ」では、時代を通した視点・グローバルな視点でみたテーマやポイントをしばってクローズアップしたテーマなどを取り上げ、多面的・多角的に考察する力を養い、歴史の理解を深めることができるようになっている。 ○ 小単元の見開き1ページの右下「ステップアップ」では、学習した内容を更に深めて、活用する力を身に付けられるように工夫されている。 ○ 「歴史を考えよう」では、課題について歴史的な視点から、図表や写真、資料等をもとに考察したり、話し合ったりする活動ができるようになっている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 小単元の情報量が充実しており、生徒自身で調べながら学習を進めることができるようになっている。 ○ 「人物コラム」や「詳しく調べてみよう」など、生徒が主体的に活動に取り組むことができるように工夫されている。 ○ 章末の「まとめ」では、振り返り、まとめる活動や関連付けて説明する活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着や活用力の育成につながるように工夫されている。 ○ 「身近な地域を調べよう」では、調査の順序やアプローチの手順が示されており、主体的に学習ができるように工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 「です・ます」調ではなく、「である」調で表現されていて、高等学校の教科書への接続がスムーズにいくよう配慮されている。 ○ 叙述が充実しており、政治史や社会の様子・経済史・文化史などの多角的・多面的な考察ができるようになっている。 ○ 高等学校との接続に配慮した、歴史的な事象の原因や背景、社会への影響、世界の歴史に関する内容などが整理されており、生徒自身で学習課題を解決できるように工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 地図やグラフなどの資料は、カラーユニバーサルデザインへの配慮がされており、本文はUDフォントを使用した紙面づくりがされている。 ○ 大きな紙面（AB版）を利用して図版を大きく、見やすくし、どこに注目すべきかが分かりやすくなるように考慮されている。 ○ 資料を豊富に掲載し、「詳しく調べてみよう」では、動画や拡大画像も見ることができるようになっている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (歴史的分野)	116	日文	中学社会 歴史的分野
一 【基礎・基本の習得】	○ 小単元の見開き1ページの右下「確認・表現」では、学習内容の理解を確かにする問いが設けられており、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるように工夫されている。 ○ 学びの手掛かりを示し、学習課題を基にした「見方・考え方」が設けられており、学習内容のどのような部分に着目すべきか分かるようになっている。 ○ 各編（章）末に年表と地図を使った穴埋め形式の問題が設定されており、各編（章）の時代で学んだことを時間軸と空間軸の両面で確認ができるようにし、知識を整理し定着を図ることができるように考慮されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 各編・各章の導入のページで小学校の既習内容を確認し、年表や写真、資料等を基に単元を貫く問いを立て、各時間の「学習課題」の積み重ねによって歴史的事象が社会に与えた影響や意味について考えることができるようになっている。 ○ 「スキルUP」では、調べ学習のポイントや情報を伝える方法、系図の読み取り方など歴史を学ぶ際に必要な技能が示されており、学習活動に応じて活用できるような工夫がある。 ○ 「資料活用」のコーナーが各ページに設けられており、必要な情報を読み取る技能を高めることができるように工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 「人物コラム」「歴史＋α」では、豊富な文章資料を掲載し、生徒の興味・関心を高め、幅広い視点に立って考えることができるように工夫されている。 ○ 「チャレンジ歴史」では、資料を基に歴史について自分で考えたり、対話したりして社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に課題を考えることができるように工夫されている。 ○ 「人権」「平和」「国際関係」「環境・資源・エネルギー」「防災」「伝統・文化」の視点から現代的な諸課題を考えることができるようなテーマが設けられており、歴史を振り返り、よりよい社会の在り方について話し合うことができるように工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 小単元の見開き1ページのタイトルの横にある二次元コードを読み取ると、動画や確認小テスト、関連写真や外部リンク等のコンテンツが用意されており、個別最適な学びの実現や内容のまとまりで学習できるように工夫されている。 ○ 地図を多用し、空間的な見方から世界全体を見て、世界と日本の同時代の歴史的事象を的確に捉えることができるように考慮されている。 ○ 小学校社会科や地理的分野、公民的分野との関連を示し、他教科との連携を図った資料やコラムを掲載するなど多面的・多角的な捉え方ができるように考慮されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ UDフォントを使用した紙面づくりがなされている。 ○ 地図・グラフ等の図版類は、カラーユニバーサルデザインに配慮した配色で、形や模様、線の種類など色以外の情報でも識別できるように配慮されている。 ○ 時代や年代区分に合わせて、色が統一されており、学習している時代について生徒が視認できるように配慮されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (歴史的分野)	225	自由社	新しい歴史教科書
一 【基礎・基本の習得】	○ 各章の導入部では、小学校で学んだ歴史上の人物を中心に紹介し、各章で学ぶ歴史の大まかな流れを示して中学校の学習と関連が図れるように工夫されている。 ○ 小単元の見開き1ページの右下「チャレンジ」では、学習課題に対応した問いが設けられており、学習内容の定着を図ることができるようになっている。 ○ 各章末に一問一答や地図問題が設けられており、各時代で学んだ語句や用語について基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるように工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 各章末に「時代の特徴を考えるページ」が設けられており、時代の流れを整理することや時代比較、人物比較の問題への取り組みを通して、時代の特徴をつかむことができるように工夫されている。 ○ 序章「歴史の捉え方」では、具体的な例を紹介し、「人物カード」や「人物伝記」をつくる活動が設けられており、人物を通して時代を捉えることができるように考慮されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 「人物コラム」「歴史的なできごと」では、本文の記述内容を深めるような豊富な文章資料が掲載されており、興味・関心を高めるような工夫がされている。 ○ 「もっと知りたいコラム」「人物クローズアップ」では、特集ページが設けられており、各時代の中で特に著名な人物や歴史上のできごとの紹介を行い、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることができるように工夫されている。 ○ 欄外に本文中の記述内容を補足する注釈が豊富に設けられており、歴史的事象への関心を高めることができるように考慮されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 図版や資料に番号が付けられており、本文の内容と関連付けて読み取ることができるように考慮されている。 ○ 同じ用語に関連する記事が別のページにあることがわかるように青色の文字で表記されている。 ○ 「知っ得ポイント！」のコーナーでは、本文中の著名人やできごとに関する資料、コラムを掲載するなど、多面的・多角的な捉え方ができるように工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 重要な語句を太字で表示し、視認性を高め、読みやすくする配慮がされている。 ○ 地図や年表、系図やグラフ等の図版類は大きく掲載し、見やすくする配慮がされている。 ○ 小単元の左下に、「歴史モノサシ」が設けられており、どの時代を学習しているのかをその都度確認することができるように配慮されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (歴史的分野)	227	育鵬社	新しい日本の歴史
一【基礎・基本の習得】	○ 各章の導入に設けられている「歴史絵巻」では、イラストや発問を通して小学校の既習事項を生かし、歴史の流れを把握できるように工夫されている。 ○ 小単元の見開き1ページの右下には「確認」が設けられており、学習内容についての理解度を確認することができ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるようになっている。 ○ 各章の「鳥の目で見ると、虫の目で見ると」（〇〇には歴史区分が入る）には、学習への興味・関心を高める資料が掲載されており、その時代の人々の生活の様子を読み取れるような工夫がされている。 ○ 章末の「学習のまとめ」で各時代の特色を振り返ることができるようになっている。			
二【活用する力の育成】	○ 各章末の学習のまとめ「時代を振り返ってみよう」では、複数の資料を比較したり、社会的事象を関連付けて説明したり議論したりする活動を通して、各時代の特色を捉えることができるように工夫されている。 ○ 本文ページで学習した内容について、より深めるための解説をしたり、別の視点からの見方を示すための資料や情報を紹介したりしている特設ページ「歴史ズームイン」が設けられており、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることができるように工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 小単元の終わりに「探究」が設けられ、レポートや論述形式でまとめたり、自分の考えを発表したりと幅広い言語活動につながるように工夫されている。 ○ 「歴史ズームイン」が設けられ、当時の社会背景や国際情勢、現代社会の課題など様々な視点からの見方を示す資料が掲載されており、更に深く学べるように考慮されている。 ○ 身近な地域の歴史に関する調べ学習や文化財資料の掲載が充実しており、我が国の伝統や文化、郷土の歴史への理解が深められるように工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 本文は平易な文章で、丁寧に説明されており、歴史的事象の意味や事象間のつながりが理解しやすいように考慮されている。 ○ 各章ごとに「章の課題」や「各節の見出し」「節の課題」が一覧になっており、学習の見通しをもちやすくなるような工夫がされている。 ○ 掲載されている図表や写真には理解を深めるための解説が示されており、有効に資料活用ができるような工夫がされている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 文字は読みやすく、写真や図表は明るい色彩のデザインで見やすくなるように配慮されている。 ○ ICTを活用した学習を促す二次元コードが設けられている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (歴史的分野)	229	学び舎	ともに学ぶ人間の歴史
一 【基礎・基本の習得】	○ 各部の冒頭に、単元を貫く学習課題が設けられており、生徒が歴史の大きな流れを理解しやすいように工夫されている。 ○ 小単元の冒頭には、興味・関心を高める大きい図版が使用されており、基礎的・基本的な知識・技能の習得がしやすくなるように工夫されている。 ○ 章末に、学習のまとめとなる穴埋め式の問題などがあり、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるように工夫されている。 ○ 巻末の年表には、日本や世界の動きが写真や図とともに詳しく掲載されており、時代の大きな流れや、出来事の関連が捉えやすくなるように考慮されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 各部・各章の終わりに、歴史的事象を比較したり関連させたりしながら、生徒同士で意見交換ができるような問いが設けられており、学習した内容を活用し、深めることができるように考慮されている。 ○ 各部末に、各時代の特色を大きく捉え、政治や社会の様子、人々の生活、制度や文化など他の時代との共通点や相違点に着目して、学習した内容を比較したり関連付けたりするなどの結果を表現できるようなページが設けられている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 各章の冒頭に、世界地図を中心に各テーマに関係する写真資料が掲載されており、生徒の興味・関心を高め、主体的な学びを促すような工夫がされている。 ○ 社会的事象の重要性を判断できるようにあえて重要語句を太字にせず、主体的に時代の枠組みや流れを学習するための工夫がされている。			
四 【説明の平明さ】	○ 文章表現や漢字使用、振り仮名の使用は、学年に即して編集されている。 ○ 索引には、歴史事項や人物の他にも地名や産物名などの用語も掲載されており、その全てに振り仮名が付けられており、利便性を高める工夫がされている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ A4判サイズで、写真や図などの資料が大きく掲載されており、見やすくなるように配慮されている。 ○ カラーユニバーサルデザインに配慮されており、図やグラフが見やすくなるように工夫されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (歴史的分野)	236	令書	国史教科書 第7版
一 【基礎・基本の習得】	○ 序章では中学校で歴史を学ぶために必要な要素である、社会的事象の歴史的な見方・考え方が詳細にまとめてあり、基礎的・基本的な知識・技能の習得のための工夫がされている。 ○ 注釈として本文の語句の説明や、社会的事象に関する文章資料が多く取り入れてあり、本文の内容を理解したり、深めたりできるように考慮されている。 ○ 時代のまとめ学習では、学習した時代の特色をまとめたり、年表を使って学習の振り返りをしたりすることで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるように工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 読み物資料に関連した「考えよう」が設けられており、当時の社会の様子について考察できるように工夫されている。 ○ 各時代の「まとめ学習」では、話し合い活動やレポート、論述の活動・作業が設定されており、学習した内容を活用できるように工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 各章のはじめにその時代の特色を表したイラストがあり、生徒の興味・関心を引き出すような工夫がされている。 ○ 小単元に学習課題が設けられており、主体的に課題解決的な学習ができるように考慮されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 注釈には参照指示が記載されており、学習効果を高めるとともに、効率的に活用できるように考慮されている。 ○ 巻末資料や日本美術図鑑等を含め豊富な資料が掲載されており、文字だけでなく資料等で知識を補足し、理解を深めることができるよう考慮されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 資料の周りに十分な余白が設けられており、資料と本文の区切りを視認しやすくなるよう配慮されている。 ○ A5版サイズで、持ち運び、授業での活用がしやすくなるよう考慮されている。 ○ 本文は縦書きで書かれている。			

種目 社会（歴史的分野）

※「データの観点」の数値は、社会（歴史的分野）で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データの観点

項 目		発行者番号・略称	2	17	46	81	116	225	227	229	236
			東書	教出	帝国	山川	日文	自由社	育鵬社	学び舎	令書
共通データ	①総ページ数		300	317	334	296	324	312	308	308	520
	②単元数	大単元	7	7	7	7	7	7	6	6	7
		小単元	106	98	96	93	99	94	97	113	145
	③1ページの標準文字数		882	941	1012	1241	766	967	1071	1195	1132
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	133	138	128	98	163	87	109	44	64
		ページ数	214	206	277	111	233	115	117	55	75
		ページ割合(%)	70.0	65.0	82.9	37.5	71.9	36.9	37.9	17.9	14.4
	⑤佐賀県に関する項目		10	9	21	8	12	9	9	15	12
	⑥写真等の数	写真	723	818	797	646	850	616	678	812	249
		図表	211	210	292	227	305	178	221	130	137
		文章資料	200	125	229	143	152	219	198	169	125
種目別データ	⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有	有	有	有	有	無	無
	⑧ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有	有	有	有	無	有	無	有
	⑨作業的・体験的学習の数		230	228	310	160	268	150	116	54	90
	⑩作業的・体験的学習の方法等説明数		21	14	18	8	42	32	20	8	11
⑪歴史的な見方・考え方に関する項目数			139	94	187	199	249	128	157	93	83

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。
※③（1ページの標準文字数）：共通の単元で見開き1ページの本文のみで判断（句読点等含む）。
※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。
※⑥（写真）（図表）：表紙を除いて使用された写真・図表の数。ただし、複数の写真・図表を比較して活用することを目的としている場合は、1つと判断。
※⑥（文章資料）：本文中の用語の説明は除く、社会的現象への認識を深めるためのエピソードなどの読み物資料。
※⑨（作業的・体験的学習）：レポート作成・討論・フィールドワークなどのほかに教科書への書き込み作業なども含めた作業的・体験的学習の数。
※⑩（作業的・体験的学習の方法等）：レポート作成・討論・フィールドワークなどの具体的な方法の数。
※⑪（歴史的な見方・考え方）：社会的現象を、時期や推移などに着目して具体的に示している数。

社 会

(公民的分野)

観 点 社 会（公民的分野）

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、民主主義、民主政治の意義、国民生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、諸資料から現代の社会的現象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることについて、どのように示しているか。
- (2) 社会的現象を多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について、公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことについてどのように示しているか。
- (3) 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、国民主権を担う公民としての自覚を深めることについて、どのように示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

公民分野において身に付けることを目指す、知識及び技能や思考力・判断力・表現力等を育成するために、どのような学習の問題を追究・解決する活動を示し、どのような工夫や配慮が示されているか。

(1) 私たちと現代社会

- ・ 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについてどのように示しているか。
- ・ 現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについてどのように示しているか。

(2) 私たちと経済

- ・ 市場経済の基本的な考え方や身近な消費生活を中心とした経済活動についてどのように示しているか。
- ・ 社会資本の整備、環境保全、社会保障の充実・安定化、財政及び租税の意義、国民の納税の義務についてどのように示しているか。

(3) 私たちと政治

- ・ 日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を原則としていることについてどのように示しているか。
- ・ 国会を中心とする民主政治の仕組み、法に基づく公正な裁判の保証、地方自治の基本的な考え方についてどのように示しているか。

(4) 私たちと国際社会の諸課題

- ・ 世界平和の実現と人類の福祉の増大のための国際機構の役割や領土、国家主権、国際連合の働きについてどのように示しているか。
- ・ 地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力についてどのように示しているか。
- ・ 持続可能な社会、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述することについてどのように示しているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (公民的分野)	2	東書	新編 新しい社会 公民
一【基礎・基本の習得】	○ 単元を「課題をつかむ」「課題を追究する」「課題を解決する」の3段階に構造化し、「探究のステップ」という問いを段階的に考えさせていくことで、課題解決的な学習をスムーズに行いながら、基本的な学習内容が定着するよう工夫されている。 ○ 導入の活動とリンクしたまとめの活動には、単元の到達目標が示されており、見通しをもって基礎的な内容を学習できるように工夫されている。 ○ 基礎・基本の確認や説明など、言語活動を目的とした「チェック&トライ」が設置され、1単位時間の授業のまとめにおいて、自身の理解度を確認できるように工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 現代社会の見方・考え方を働かせる活動には、「見方・考え方マーク」と具体例が設置されており、「見方・考え方」を効果的に働かせ、より深い学びとなるよう工夫されている。 ○ 公民的分野の学習に必要な技能の確実な定着のために「スキル・アップ」が9か所設置されている。「スキル・アップ」に関する二次元コード動画は17か所、シミュレーションは3か所設置されており、動画を見て端末を操作したり、生徒同士で課題に取り組んだりすることで、個別最適な学びと協働的な学びを実現できるように工夫されている。 ○ ウェビングやダイヤモンドランキングなど生徒の思考を整理し、表現するツールが掲載されており、教科書と二次元コードを組み合わせることで、より多様な活動ができるように工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 小集団の協働的な活動コーナーとして「みんなでチャレンジ」を30か所設け、対話を通して他者の意見を取り入れ、自分の意見を調整していくことで、主体的に学びを深めることができるよう工夫されている。 ○ 社会科3分野を貫く5つのテーマ（「防災・安全」「情報・技術」「伝統・文化」「人権・平和」「環境・エネルギー」）のもと、「もっと知りたい」コーナーを設け、現代的な諸課題の解決に主体的に取り組む態度を育成できるよう工夫されている。 ○ 課題設定場面では、対話の例を示し、生徒自身で課題をつかめるように工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 本文や資料、「チェック&トライ」や二次元コードなどが定位置に配置されるなど、配置が工夫されており、学習の流れを捉えやすいように構成されている。 ○ 小学校社会科で学習した用語については、単元のはじめに「小学校で習ったことば」と明記しており、資料にも小学校マークが記載されている。また、「もっと解説」のコーナーでは、難しい用語を理解できるように詳しく解説されている。 ○ 単元のまとめでは、「知識」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」のアイコンが使用されており、学習内容と評価の観点との関連が分かりやすく示されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ UDフォントが採用され、字形を判別しやすくする配慮がなされている。また、資料の掲載部分に薄い色を付け、本文との区別が視覚的に捉えられるようになっている。 ○ カラーユニバーサルデザインに全対応している。 ○ 毎時間デジタルコンテンツを活用できるようにすることで、教科書の総ページ数を削減するとともに、軽量の紙を使用することで、教科書の軽量化が図られている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (公民的分野)	17	教出	中学社会 公民 とともに生きる
一【基礎・基本の習得】	○ 見開きページが「導入」「学習課題」「課題」の3段階で構成され、まとめとして「確認!」「表現!」コーナーが設置されており、見通しをもった上で、基本的な内容を体系的に学習できるよう工夫されている。 ○ 二次元コードを利用した「学びリンク」には、100問以上の問題が掲載されており、理解度に応じて繰り返し学習ができ、基礎・基本の定着を図ることができるようにされている。 ○ 各章終わりに設置された「学習のまとめと表現」では、単元全体の学習を振り返り、整理できるように構成されている。特に、「HOP!」のコーナーでは、重要語句をまとめるための工夫がされており、知識・技能の定着につながるよう構成されている。			
二【活用する力の育成】	○ 各章の導入ページで意識させたい視点となる「見方・考え方」を示し、それを単元の学習で何度も活用しながら、章全体の課題について考えられるよう構成されており、現代社会の見方・考え方を働かせて自分の考えを表現できるように工夫されている。 ○ 9か所に設置された「公民の技」コーナーでは、学習した知識・技能が、実際の社会で活用できることを実感できるように工夫されている。 ○ 「THINK!」のコーナーは、資料を活用した上で自分の考えを表現できるようにデザインされており、思考力・判断力・表現力等の向上につなげ、資料を活用する力を身に付けることができるように工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 本文から更に一步進んで学びを掘り下げたり、視点を変えたり視野を広げたりできる「公民の窓」というコラムが33か所設けられており、生徒の興味・関心を喚起し、主体的な学びにつながるよう工夫されている。 ○ 各ページのはじめに「LOOK!」コーナーが設置されており、写真・地図など豊富な導入資料を用いて、生徒の興味・関心を高める工夫がなされている。 ○ 各所に設置された特設ページは、全て「なぜ・・・」という、生徒の多様な考えを引き出す問いが提示されており（例：なぜ、新たな人権問題が起こるのだろうか）、生徒の興味・関心を引き出し、深い学びを実現させるための仕組みがある。			
四【説明の平明さ】	○ 授業だけでなく、自主的な学習も想定された平易な表記・表現であり、用語解説、側注なども丁寧に設置されている。 ○ 見開きページの左下に「関連コーナー」が常時設置され、小学校の学習内容や他分野（地理、歴史）との関連が視覚的に、分かりやすく提示されている。 ○ 社会の仕組みや制度など、難解なものについて解説する場面では、これまでの経緯や背景、関連する最新の情報などが、本文や資料を用い分かりやすく丁寧に説明されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 教育のユニバーサルデザインの実現に向け、UDフォントとカラーユニバーサルデザインを採用した紙面づくりがなされている。 ○ 「まなびリンク」と呼ばれる二次元コード先に、更に詳しい説明や具体的な資料を設置することで、紙面の簡素化と見やすさが実現されている。 ○ 光沢のある紙面が採用されているとともに、長期の使用や書き込みにも耐えうる丈夫な製本がなされている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (公民的分野)	46	帝国	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して
一 【基礎・基本の習得】	○ 見開きページは、「導入」「学習課題」「本文」「確認しよう」「説明しよう」という展開で統一されており、学習内容が定着しやすくなるように構成されている。 ○ 本文と資料の関連する箇所には、図・写真や他ページへの適切な参照指示が記載され、学習効果を高め、基礎的・基本的な知識が習得しやすくなるよう工夫されている。 ○ 基礎的な技能が身に付く「技能をみがく」コーナーが随所に盛り込まれ、公民としての資質・能力の基礎を育成できるよう工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 「アクティブ公民」が特設ページとして10か所、コラムとして33か所設置されており、主体的・対話的で深い学びを実践し、習得した知識・技能が活用できるよう構成されている。 ○ 見開きページの右下には、「確認しよう」と「説明しよう」のコーナー、各章末には「学習を振り返ろう」が設置されており、獲得した知識や概念を活用して、社会的な事象について考えたことを説明したり、考えをまとめたりする言語活動を促し、思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるよう工夫されている。 ○ 主だった写真・統計類には「資料活用」コーナーが設置されており、習得した知識・技能を普段の授業で活用できるように工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 導入に設置された「学習の前に」では、大きなイラストから学習内容に関連した事項を探し出す作業を通じて、公民的分野に対する生徒の興味・関心を引き出し、主体的な学びを促すような工夫がある。 ○ 単元全体に関わる「章の問い」「節の問い」、各見開きページの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、単元末の「学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、単元のまとまりのなかで主体的・対話的で深い学びが実現できるような構成がなされている。 ○ 特設ページ「アクティブ公民」では、実社会と関連した諸問題に対して、さまざまな立場から考察することを通じて、「深い学び」につなげられるよう配慮されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 難解な語句や社会的な事象については、具体的に例示したり、各事象の背景や因果関係まで分かるように説明が付されていたりするなど、丁寧で分かりやすくまとめられている。また、平易な表現が徹底されており、中学生の発達段階が考慮されている。 ○ 本文のページ下段には「小学校・地理・歴史・他教科との関連」コーナーが設けられ、既習内容や他分野、他教科との関連を確認できるよう、関連用語が提示されている。 ○ 用語解説や関連資料が本文のページの側注欄に掲載されており、ページ間を移動する時間が省け、生徒が集中力を切らすことなく読み進めることができるよう配慮されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 本文や図版などでは、文字をはっきり読み取ることができるUDフォントが使用され、誤読を防ぐように配慮されている。 ○ 見開きページのデザインや、グラフ・地図などの資料には、識別しやすい色や模様が使用され、カラーユニバーサルデザインの配慮がなされている。 ○ 図版が色で囲まれ、どこまでが同一の図版か読み取りやすいよう工夫されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (公民的分野)	116	日文	中学社会 公民的分野
一 【基礎・基本の習得】	○ 本文ページの「確認」コーナーや単元末の「まとめとふり返し」では、学習内容や重要語句などが再確認できるようになっている。また、各見開きページに二次元コードが配置され、タブレットなどで確認小テストを生徒自身で行えるように工夫されている。 ○ 導入ページで「単元を貫く問い」を提示して見通しをもたせた上で、見開きページごとに学習課題と「見方・考え方」が提示される構成で、基本的な内容を習得しやすくする工夫がされている。 ○ 二次元コードから地理的分野や歴史的分野で学習した関連資料を見ることができ、既習事項と関連付けて知識の定着を図ることができるように工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 「アクティビティ」コーナーでは、対話的な学び、協働的な学びにつながるグループ活動を想定した題材が選ばれており、学習内容を活用しながら、思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるように工夫されている。 ○ 単元末の「まとめとふり返し」では、思考ツールを使って章の問いをまとめる場面が7つ設定されており、生徒が自分の考えを整理し、表現しやすくなるよう考慮されている。 ○ 「資料活用」コーナーでは、グラフや図版を読み取る技能を高めるとともに、「表現」コーナーでは学習した内容を自分でまとめ、振り返ることができるよう構成されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 単元の導入ページに、二次元コードから利用できるポートフォリオデータが設置されており、生徒が学習の見通しと振り返りの活動を行いやすいように工夫されている。 ○ 見開きページの冒頭に、毎回「見方・考え方」コーナーが設置されており、現代社会の見方・考え方を働かせながら、学習課題の解決に向かって、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫がなされている。 ○ 各本文ページの「アクティビティ」では、具体的な社会的事象や事例、資料の読み取りをもとに、現代社会の見方・考え方を働かせることができる仕組みがあり、生徒の興味・関心を喚起して、主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 本文は抽象的、網羅的な記述を避けて、平易な文章で具体的に説明されている。 ○ 本文には、関連する図版番号が掲載され、本文と図版とを関連させながら学習できるよう配慮されている。 ○ 本文の脚注には「連携コーナー」が設置され、地理的分野・歴史的分野とのつながりをもたせ、小学校社会科との系統性を視覚的に意識できるように工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ ユニバーサルデザインの観点から、文字のフォントや図版の色彩の点で配慮されている。図版類は、形や模様、線種など色以外の情報でも識別できるよう表示が工夫されている。 ○ 重要語句は太字にして、学習のポイントがひと目で分かるように工夫されている。また小学校第6学年以上で学習する漢字には、初出の箇所には振り仮名を付け、書体にUDフォントを採用し、小さな文字でも読み取れるように工夫している。 ○ 単元ごとに色分けするとともに、見開きページの左側には、各単元名を表したインデックスを設けるなど、学習内容の全体像が常に分かるように工夫されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (公民的分野)	225	自由社	新しい公民教科書
一 【基礎・基本の習得】	○ 各見開きページの右端に、「ここがポイント！」コーナーが設置され、重要な学習項目について簡潔にまとめられており、知識の定着を促す工夫がある。 ○ 各章の最後に、「学習のまとめと発展」が設置されており、単元全体の学習の振り返りをするとともに、重要語句を用いた発展問題を設けることで、反復した学習を促す工夫がなされている。 ○ 重要語句や生徒の理解が難しい語句に関しては、常に複数の解説が設けられており、基本的な内容の理解につながるような工夫がある。			
二 【活用する力の育成】	○ 各章に設置された「アクティブに深めよう」コーナーでは、表、思考ツール、文章などを用いた言語活動が設定されており、それまでの学びを活用しながら、主体的で対話的な深い学びが実現できるように工夫されている。 ○ 終章の「レポートと卒業論文をつくろう」では、レポートやディベートプレゼンテーションなどを通して、学習を生かした表現活動が展開されるように工夫されている。 ○ 全単元に「やってみよう！」コーナーが設置されており、話し合ったり、調べたりする活動を通して、獲得した知識・技能を実際に活用できるよう設定されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ コラム「もっと知りたい」は、専門的な内容を扱う特設単元として21か所設置されており、生徒の社会的事象への興味・関心を喚起し、主体的な学習へつながる工夫がなされている。 ○ 「ミニ知識」コーナーでは、生徒が学習する基礎的な内容と関連する、より深い知識等が提示されており、生徒の学ぶ意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「アクティブに深めよう」コーナーでは、対話活動や協働的な学びができる題材や思考ツールが配置されており、単元で学んだことを生かし、他者との交流を通じて自分の考えを深めていくことで、主体的で深い学びにつながるような工夫がなされている。			
四 【説明の平明さ】	○ 新出語句や生徒にとって馴染みのない語句には豊富な説明が付けられており、別の資料を使うことなく、本文だけで理解ができるように工夫されている。 ○ 見開きページの最後にある「ここがポイント！」は、本文の内容が簡潔にまとめられており、本文と合わせて読むことで、要点を押さえて理解できるよう工夫されている。 ○ 全体で72の項目があり、項目の番号を教科書全体で連番にすることで、生徒が見通しをもって学習することができるよう工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 文字は、生徒が読みやすい間隔で配置されている。また、重要語句はゴシック体で示しており、視覚的にポイントがつかみやすくなるよう工夫されている。 ○ 落ち着いた色の紙面で、視覚的に読みやすいように配慮されている。 ○ 図表、写真などの資料は、どのページでも大きく配置されており、学習内容の理解を促す工夫がされている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	社会 (公民的分野)	227	育鵬社	新しいみんなの公民
一【基礎・基本の習得】	○ 1つのテーマにつき、「見開きページ＝1単位時間」という分かりやすい構成で、生徒が見通しをもって学習に取り組みやすく、基本的な内容の理解を促すことができるように工夫されている。 ○ 見開きページの最後には、学習内容を振り返ることができる「確認」のコーナーが設置されており、基本的な知識の確実な定着を図る工夫がされている。 ○ 写真や新聞など、具体的な社会的事象を用いた「資料活用」のコーナーが随所に設置されており、公民的分野で学ぶべき基本的な技能が身に付くように工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 「やってみよう」のコーナーが11か所設置されており、小集団による話し合いやディベート、シミュレーション、体験学習などの活動を通して、現代社会の見方・考え方を働かせながら、学習した知識・技能を活用できるように工夫されている。 ○ 「学習を深めよう」のコーナーが8か所設置されており、学習内容を基にして、生徒自身がよりよい未来を構想したり、今日的課題について話し合ったりできる工夫がある。 ○ 「資料活用」のコーナーには、読み取った内容を活用して、より深く考えることのできる問題が掲載されており、思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるように工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 「つかむ」「調べる」「まとめる・表現する」という問題解決型の学習を促す「学びのナビゲーション」とよばれるパターンが毎時間設定されており、生徒同士の対話や自己表現を促し、主体的な学びにつながるように工夫されている。 ○ 社会的事象が自分の将来にどのように関係するかを考える「人生をデザインしよう」など、具体的で身近な教材を数多く掲載することで、生徒が「他人事」でなく「自分事」として現代社会を捉えられるように工夫されている。 ○ 83か所に及ぶ、「地域事例」が豊富な資料と共に掲載されており、生徒が学習内容を自分の生活や地域と関連させながら意欲的に学べるよう、工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 平易な言葉を用いて、制度や仕組み、社会的事象の内容や事象間のつながりなどを丁寧に説明してあり、自主的な学習でも理解できるよう工夫されている。 ○ 概念的な内容を学習する単位では、生徒の理解を助けるために、イラスト等を多用する工夫がされている。 ○ ICTを活用した学習を促すための二次元コードが6か所設置されており、それぞれのサイトに、各単位と関わりの深いウェブサイトのリンクが掲載されているなど、紙面の簡素化と分かりやすい補足説明が両立されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ UDフォント、カラーユニバーサルデザインが採用されており、読みやすい紙面づくりがなされている。 ○ 振り仮名にはゴシック体を用いて、小さな文字も読みやすいように配慮されている。 ○ 紙は質の高い再生紙を利用することで、環境への配慮と印刷適性を両立しており、造本は長期の使用に耐えうる丈夫な製本となっている。			

種目 社会（公民的分野）

※「データの観点」の数値は、社会（公民的分野）で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目			2 東書	17 教出	46 帝国	116 日文	225 自由社	227 育鵬社
共通データ	①総ページ数		246	269	262	274	270	262
	②単元数	大単元	6	7	5	4	7	5
		小単元	18	18	17	16	18	14
	③1ページの標準文字数		980	900	1080	1020	1140	1160
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	212	133	207	144	44	125
		ページ数	163	137	200	170	89	188
		ページ割合(%)	68	51.9	80	64.1	49.4	66.4
	⑤佐賀県に関する項目		1	0	5	1	1	3
	⑥写真等の数	写真	472	420	280	292	240	432
		図表	337	316	343	364	138	350
		文章資料	76	81	61	72	61	53
種目別データ	⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有	有	有	有
	⑧ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有	有	有	無	有
	⑨作業的・体験的学習の数		72	44	66	61	41	81
	⑩「単元を貫く問い」に関する項目数		11	13	11	15	8	11
	⑪学び方を学ぶことに関する項目数		10	11	17	13	4	12
	⑫現代社会の見方・考え方に 関する項目数		53	76	34	85	72	73

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。

※③（1ページの標準文字数）：1ページの標準文字数は、見開き1ページの本文のみで判断（句読点を含む）。

※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。

※⑥（写真）（図表）：表紙を除いて使用された写真・図表の数。ただし、複数の写真・図表を比較して活用することを目的としている場合は、1つと判断。

※⑥（文章資料）：本文中の用語の説明は除く、社会的事象への認識を深めるためのエピソードなどの読み物資料。

※⑧（ウェブサイト等へのリンクの有無）：二次元コードやホームページアドレスが示してあるか。

※⑨（作業的・体験的学習）：レポート作成・討論・フィールドワークなどの他に教科書への書き込み作業なども含めた作業的・体験的学習の数。

※⑩（「単元を貫く問い」に関する項目数）：単元全体を貫く問いやそれに対するまとめなどの記述数。

※⑪（学び方を学ぶことに関する項目数）：調べ方、考え方、まとめ方、表現の仕方などについて具体的に示している数。

※⑫（現代社会の見方・考え方に
関する項目数）：社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点で具体的に示している数。

地 図

観 点 地 図

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまずきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

- | |
|---|
| 1 日本や世界の地理的諸事情に対する関心を高めるようどのような配慮がなされているか。 |
| 2 基本図は、地域の特色を理解しやすいようどのような配慮がなされているか。 |
| 3 地図の見方や表し方は、理解しやすいようどのような配慮がなされているか。 |
| 4 地図・分布図・統計図などの表現は、理解しやすく、活用しやすいようどのような配慮がなされているか。 |
| 5 世界の基本図は、地球儀と関連付けるなどして、立体的に捉えることができるようどのような配慮がなされているか。 |
| 6 地理的分野の学習だけでなく、歴史的分野や公民的分野の学習でも活用できるようどのような配慮がなされているか。 |
| 7 地理的事象を数量的に把握できるようどのような配慮がなされているか。 |
| 8 統計・写真・グラフなどの諸資料は、社会の変化や人々の生活を理解しやすいようどのような配慮がなされているか。 |
| 9 記号の表記、地名の表示、色彩の工夫についてどのような配慮がなされているか。 |

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	地図	2	東書	新編 新しい社会 地図
一【基礎・基本の習得】	○ 世界の各州・日本の各地方の概観をつかみやすいように、自然・産業・人口などの主題図を共通して掲載し、基礎的・基本的な知識の習得ができるよう工夫されている。 ○ 「世界の一般図」では国名、主要な都市名、自然地名などを掲載するとともに、「日本の一般図」では、全ての市町村名や主要な自然地名を掲載しており、基本的な情報が得やすくなっている。 ○ 地理的分野の学習構成に準じた配列で、「世界全体の概観→世界の各州→日本の各地方→世界や日本全体の資料→統計」の順に掲載されており、利便性を高める工夫がある。			
二【活用する力の育成】	○ 二次元コードを用いたコンテンツが充実しており（74か所）、デジタル地球儀やデジタルマップ、世界の気候景観の360° 画像や動画などを、生徒が興味・関心に応じて使うことができるなど、個別最適な学びや深い学びにつながるよう工夫されている。 ○ 巻頭に「この地図帳の地図記号・活用方法」を配置し、地図帳の構成要素や図版の読み取りの例を示すことで、自主的な学習にも効果的に活用できるよう工夫されている。 ○ 「Bee's eye」という社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせる問いが、見開き1ページに1問以上掲載されており、地図帳を活用する力と実際の社会に参画しようとする態度の育成ができるように工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ SDGsの17のゴールの一覧を示すとともに、現代の諸課題を捉え、解決をめざす態度を養うために、「環境問題」や「防災」「文化」「平和」などの諸課題に関わる資料を多く掲載し、主体的な学びを促す工夫がされている。 ○ 世界各地の生活や文化の様子を示す写真や、様々な言語の会話例など、生徒の興味・関心を高める資料が掲載されている。 ○ 巻末の「日本の周辺」地図では、日本の東西南北端や排他的経済水域を示し、近隣諸国との領土問題を抱える地域を写真も交えて説明することで、領域をめぐる問題について理解を深めることができるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 各基本図において、地球上や日本列島のどこにあるのかが分かるように、基本図の端部分に、地球儀や日本列島の位置図が掲載されている。また、日本の地方ごとの一般図は100万分の1で統一されており、距離や面積が比較しやすいよう工夫されている。 ○ 巻頭に地図帳の基本的な活用法の理解を図るため、「この地図帳の地図記号・活用方法」が設置されている。また、「ジャンプ」コーナーを設けることで、学習内容と関連する資料や比較可能な資料を検索しやすくする工夫がされている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 資料の横に「歴史マーク」や「公民マーク」を記載することで、歴史的分野や公民的分野での学習との関連が視覚的に示され、生徒の学びを広げる工夫がされている。 ○ A4判に拡大することで、豊富な資料の掲載と文字・写真の鮮明さが実現されている。適切な大きさの文字が使用され、情報が見やすく、読み取りやすくなるよう配慮されている。 ○ UDフォントが使用され、読み取りやすいゴシック体の振り仮名が採用されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	地図	46	帝国	中学校社会科地図
一【基礎・基本の習得】	○ 地理的分野の学習構成に準じて、世界は州別、日本は地方別に構成されている。資料は、地域の特色が適切に理解できる題材が厳選して収録されている。 ○ 「世界の一般図」では世界全州、「日本の一般図」では日本の全地方が網羅されており、各州、各地方の特色を具体的に読み取ることができる資料が掲載されている。 ○ 世界の州は、原則として「一般図」「鳥瞰図」「資料図」という配列で構成されている。また、日本の地方は、原則として「一般図（地方別地図）」「一般図（拡大図）」「資料図」という配列で構成されており、利便性を高める工夫がある。			
二【活用する力の育成】	○ 地図帳の構成や、方位、地図記号、縮尺、索引の使い方など、地図帳の基本的な見方、使い方などが分かりやすく解説された「この地図帳の凡例」「この地図帳の使い方」が巻頭3ページにわたって設けられており、活用への意欲を高める工夫がある。 ○ 二次元コードが随所に設置されており（計56か所、全971コンテンツ）、地図帳とデジタルを組み合わせ、生徒の資料活用能力を高める工夫がなされている。 ○ 地理的分野の教科書には掲載されていない資料が「資料図」として掲載されており、生徒が双方の図や資料を比較したり、関連付けたりして考察することで、深い学びにつながる工夫がされている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ SDGsの17のゴールが一覧で示されており、地図帳を通してSDGsについて考え、持続可能な社会の実現に向けた社会の形成者としての自覚を促すような資料が多数掲載されている。 ○ 世界各州や日本の各地方のページには、イラストや写真、図が豊富に設置されており、生徒が地理的事象を身近に感じることができ、主体的な学びを促すような工夫がされている。 ○ 個別最適な学びを実現するために二次元コードが設置されている。「NHK for school」（動画）、世界・州別の衛星画像、日本の基礎主題図など、生徒が主体的に学習し、資料活用能力の育成につながるコンテンツが多数収録されている。			
四【説明の平明さ】	○ イラストが多数掲載され、難しい語句には丁寧な解説が付けられているなど、生徒の理解を助ける工夫がある。 ○ 地域を大観する「鳥瞰図」を多数設置し、一般図での地域理解を深める工夫がある。 ○ 基本図ページに二次元コードを掲載し、生徒がタブレット等を活用して社会的事象を視覚的に理解するのを補完したり、家庭学習において、簡単に復習できたりするように工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ A4判のダイナミックな紙面でありながら、生徒が持ち運びやすいよう軽量化されている。また、3年間の使用に耐える丈夫な製本仕様が採用されている。 ○ すべてにUDフォントが使用されており、読み取りやすい丸ゴシック体が使用されている。 ○ 「地名を手話で話す」コーナーが設けられており、多様性への配慮がなされている。			

種目 地図

※「データの観点」の数値は、地図で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と併せて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目		2 東書	46 帝国
共通データ	①総ページ数	176	198
	②佐賀県に関する項目	46	48
	③写真等の数	写真	209
		図表	444
		文章資料	15
	④指導者用デジタル教科書の有無	有	有
	⑤ウェブサイト等へのリンクの有無	有	有
種目別データ	⑥基本図の数	21	37
	⑦地理的分野に関する基本図以外の地図数	224	312
	⑧地理的分野に関する統計資料の数	157	198
	⑨歴史的分野に関する地図・統計資料の数	29	52
	⑩公民的分野に関する地図・統計資料の数	47	33
	⑪作業的・体験的学習に関する記述数	155	148

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。

※③（写真）（図表）：表紙を除いて使用された写真・図表の数。ただし、複数の写真・図表を比較して活用することを目的としている場合は、1つと判断。

※③（文章資料）：社会的事象への認識を深めるためのエピソードなどの読み物資料を対象とし、本文中の用語の説明は除く。

※⑤（ウェブサイト等へのリンクの有無）：二次元コードやホームページアドレスが示してあるか。

※⑪（作業的・体験的学習）：レポート作成・討論・訪問学習などの他に、教科書との関連性（教科書への書き込み等）のある作業などを含めたもの。

数 学

観 点 数 学

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまずきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにするために、どのような数学的活動を示しているか。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うために、どのような数学的活動を示しているか。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養うために、どのような数学的活動を示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

- (1) 数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの内容や時間のまとまりを見通して学習を進められるよう構成をどのように示しているか。
- (2) 各学年の目標の達成に支障のない範囲内で、当該学年の内容の一部を軽く取り扱い、それを後の学年で指導したり、学年の目標を逸脱しない範囲内で、後の学年の内容の一部を加えて指導したりすることもできるよう、どのように示しているか。
- (3) 生徒の学習を確実なものにするために、新たな内容を指導する際には、既に指導した関連する内容を意図的に再度取り上げ、学び直しの機会を設定する工夫をどのように示しているか。
- (4) 数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの機会を設けることについて、どのように示しているか。
- (5) 必要に応じ、そろばんや電卓、コンピュータ、情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高めることについて、どのように示しているか。
- (6) 具体物を操作して考えたり、データを収集して整理したりするなどの具体的な体験を伴う学習を充実するための工夫をどのように示しているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	数学	2	東書	新編 新しい数学 ～MATH CONNECT 数学のつながり～
一【基礎・基本の習得】	○ 必ず身に付けてほしい基本的な問題に「♡ (かならず解けるようになりたい問題のマーク)」を付け、内容の理解を確実にしてから、そのほかの問題に取り組めるスモールステップの構成になっている。 ○ 「クイックチェック」問題をページ下に掲載し、繰り返し練習に取り組む機会を設定することで、基礎・基本の確実な習得につながるよう工夫されている。 ○ 節末に「基本の問題」を設け、節ごとに基本的な知識・技能の確認や習得を図り、生徒のつまづきを早期に解消できるよう工夫されている。 ○ 各学年の巻頭で基本的なノートの取り方が示されている。また、本文の「例」の解答をノート形式で示し、ノートの書き方を学ぶことができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 「章の問題B」では、全国学力・学習状況調査や入試問題に対応した「活用の問題」を豊富に取り上げ、理由や方法を説明する記述問題を通して、数学的な思考力・判断力・表現力等の育成を図ることができるよう工夫されている。 ○ 「深い学びのページ」では、「問題をつかむ→見通しをたてる→解決する→振り返る→深める」の流れを統一して示し、問題の発見、解決の過程を重視した数学的活動の場面を各章に設定し、生徒がより深く考えることができるよう工夫されている。 ○ 章末の「大切にしたい見方・考え方」では、「深い学びのページ」で働かせた見方・考え方を振り返り、数学の良さを実感できるようになっている。問題の捉え方や考え方のポイントがまとめられ、後の学習でも生かすことができるよう工夫されている。 ○ 「活用の問題」では、SDGsに関連する問題や防災の問題、他教科と関連のある問題を設定し、現代社会の問題と関連するような題材も取り上げ、数学の学びが将来につながることを生徒が実感できるよう工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 単元の導入では、日常生活と数学をつなぐような身近な題材を多く提示し、章の学習を通して解決することで数学を学ぶ意義が実感できるよう工夫されている。 ○ 内容のまとまりごとに学習課題と問題を設定し、「めあて」や「課題」を明確にすることで、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ デジタルコンテンツ「フラッシュカード」や「ヒントと解答」を用意し、個に応じた補充問題や発展的な問題に生徒自身が自己調整しながら取り組めるようになっている。 ○ 「問」を終えた生徒は側注のリンクから巻末の「補充問題」に進んで練習できるようになっている。また、難易度が高い問題には★印を付けて個人差に対応できるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 巻末「数学の目でふり返ろう」では、その学年の問題解決で働かせた見方・考え方が、小学校や高等学校とどのように関連しているかが具体的な例で紹介されている。 ○ 第3学年の「関数$y=ax^2$」では、1ページの中で関数$y=ax$と関数$y=ax^2$とを並べて提示することで、相互を比較しながら関数の特徴を見いだすことができるようにするなど、3年間の関数の学習を振り返ることのできる構成となっている。 ○ 第1学年では、負の数の導入前に「0章」を設け、かけ算九九の表のきまりを見つける活動から素数の学習につなげられており、小中の系統性が分かりやすく示されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ UDフォントを使用し、文節改行で読みやすくなるよう配慮されている。色数を絞ったり、マーク類や側注を精選したりするなどして、十分な余白のある紙面になっている。 ○ 教科書本文を総ルビ・分かち書きにしたPDF資料を準備している。 ○ 問題解決の過程で大切にしてほしい考え方の例を、キャラクターの吹き出しで紹介し、ポイントが分かりやすいように配慮されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	数学	4	大日本	数学の世界
一【基礎・基本の習得】	○ 目次に小学校や前学年で学習した内容を示したり、巻末に重要事項をまとめた付録を掲載したりすることで、前学年までの学習内容について復習し確認できるようになっている。 ○ 「活動」や「例」「例題」で学習したことと同じように取り組むことができるように「たしかめ」、学習した内容を確認なものにする「Q」を設け、生徒が段階的に学習を進めることができるようになっている。 ○ どの章も活用の前に学習内容の定着を確認することができる「たしかめよう」のページがあり、理解度を確認するチェック欄を設け、生徒のつまづきを明確にし、問題の横に学習したページを示すことで、そのページに戻って復習できるよう工夫されている。 ○ 巻頭には「ノートづくり方」として工夫の例や数学特有のノートの書き方の例が示されている。また、「例題」などの解法が板書形式で書かれており、解答の書き方も学ぶことができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 学習内容を基にして「判断しよう」や、言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を使って周りの人に考えを「伝えよう」という問題を設定し、思考力・判断力・表現力等を伸ばす工夫がされている。 ○ 生徒が間違いやすい箇所では、正しいかどうかを判断する問題を掲載することで、批判的思考を養えるよう工夫されている。 ○ 「学びにプラス」「活用・探究」など、数学で学んだ内容を生活に生かすことができる問題や工夫して利用する問題が増えており、学習した内容を広げたり、深めたりすることができるよう工夫されている。 ○ 「MATHFUL」では、他教科との関連を示したり、楽しく豊かな数学の世界を紹介したりすることで、数学が生活に生きることを生徒が実感できるよう工夫されている。 ○ 「社会にリンク」では、仕事のなかの数学を紹介する読み物やデジタルコンテンツが掲載されており、数学の学習が社会で生かされていることを実感し、学習意欲を高めるようなキャリア教育の面からの配慮がなされている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 単元の導入では、学習を始める手掛かりとなる問題として、身の回りにある題材を取り上げて生徒の興味・関心を引き出すように考慮されている。また、複数準備されているデジタルコンテンツでは、生徒が実際に操作することで、自分のペースで問題を進め、理解を深めることができるよう工夫されている。 ○ 毎時間の学習のめあてを提示し、生徒が自ら学習の見通しや目標をもち学習に臨めるようになっている。また、「章をふりかえろう」では、学びの振り返りを促す質問を設け、数学の有用性に気付くことができるよう工夫されている。 ○ 基礎的な内容の「補充問題」や発展的な内容の「プラスワン」、学んだことを生かして挑戦する問題「力をのばそう」等が数多くあり、個に応じて取り組めるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 章のはじめに、これまでの学習とのつながりやこの章でどのようなことを学習し、どのように発展していくかを示すことで、生徒が学習のつながりを意識できるように考慮されている。 ○ 既習内容を掲載した「思い出そう」では、学習内容の系統性が分かるようになっている。 ○ 第1学年では、負の数の導入前に数の見方を広げる節を設けて素数の学習につなげ、小中の系統性が分かりやすく示されている。 ○ 次学年や高等学校で学習する題材を「発展」として取り上げ、生徒の理解度や興味・関心に応じて取り組むことができるようになっている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ UDフォントを使用し、文節改行で読みやすくなるよう配慮されている。学年により文字のサイズを変え、小学校からの移行が無理なくできるよう配慮されている。 ○ 領域ごとにメインカラーを設定し、色付きのページ番号やページ端にインデックスを付けることで、利便性を高める工夫がされている。 ○ キャラクターを用いてヒントを与えたり、つまづきやすい箇所では注意を促したりするなど、生徒の理解を高める工夫がされている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	数学	11	学図	中学校 数学
一 【基礎・基本の習得】	○ 節末には、基本的な知識・技能が身に付いているかを確認できる問題が設定されている。また、問題に対応する教科書のページを示すことで、生徒が自分で確認できるよう工夫されている。 ○ 巻末には、章ごとに復習ができるような問題が設定されている。基礎・基本となる問題には印が付けられており、生徒の習熟度に応じて問題に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 巻頭でノートを使い方を取り上げ、「例題」にもノートのまとめ方のポイントを記し、問題解決の道筋が分かりやすくなるよう工夫されている。 ○ 数学的活動では、課題を見つける、予想するなどの活動の段階が明確になるよう工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 「説明する力をつけよう」では、対話の場面を提示し、話し合い活動を促すよう工夫されている。 ○ 章のまとめでは数学を活用して考えたり、判断したりする「活用問題」を設定し、いろいろな場面で数学が活用できることが理解できるようにされている。 ○ 巻末には、SDGsなどの国際的課題をパフォーマンス課題として設定し、学習後に自己評価表を活用することで、1年間の振り返りができるようにされている。 ○ 巻末には、レポートの作成や発表のポイントを示し、学んだことを整理し表現する力につながるよう工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 単元の導入では、身の回りや数学の学習の中から問題を発見し、解決の見通しや目標を確認して問題に取り組むことができるよう構成されている。 ○ 数学的活動のページでは、日常生活や社会の事象を題材にして生徒の興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 ○ 「数と式」の領域の章の節末には、計算力を高める問題を設定し、家庭学習で自主的に利用できるよう工夫されている。 ○ 章末のまとめ問題では、基本、応用、活用の3つに分類し、生徒の習熟度に応じた確認ができるようになっており、個に応じて学力を高めることができるよう工夫されている。 ○ デジタルコンテンツでは、生徒が間違いやすい問題の解説や計算問題の習熟、既習事項の確認ができるようになっている。また、分からない問題や疑問について自由に質問できるチャットボットがあり、教科書の記述をもとにした解説を見ることができるようになっている。			
四 【説明の平明さ】	○ 各単元に入る前には、小学校や前学年の学習を振り返るページがあり、既習事項と関連付けることができるように考慮されている。 ○ 第3学年では、高等学校数学の題材を取り上げ、高等学校数学の内容に触れることができるように学びのつながりが感じられるようにされている。 ○ 第1学年の平面図形の学習では、平行線の性質と同時に、平行線と面積の学習を取り扱うことで、それぞれの学習内容を関連付けて理解することができるよう工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ UDフォント、文節改行、カラーバリアフリーなどを採用し、見やすく分かりやすいものになるよう配慮されている。 ○ 学習内容に関わる様々な写真や挿絵を提示し、特に空間図形の学習では、数学的な概念をイメージするのに適した図や写真を数多く取り入れることで、生徒の理解を助けるよう考慮されている。 ○ キャラクターによる吹き出しを用い、学習内容のポイントやヒントを提示することで、生徒の学習を助けるような工夫がされている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	数学	17	教出	中学数学
一【基礎・基本の習得】	○ 「例」や「例題」と「問」の間に、例や例題に類似した「たしかめ」を設け、スモールステップで着実に学習を進められるよう構成されている。 ○ 小單元ごとの「基本の問題」や章末の「学習のまとめ」では、側注に学習したページを示すことで、必要に応じて生徒自らが確認できるようになっている。また、「学習のまとめ」が次のページにある「章の問題」を解く際の参考になるように構成されている。 ○ 定理や作図のまとめを、図を用いた視覚的な表現と動画を用いた動的な表現を組み合わせで示すことで、理解を助けるように工夫されている。 ○ 「工夫してノートを書こう」では、思考力や表現力の基礎となる、ノートの書き方が示されている。「例題」では、代表的な問題と解き方の手順をノート形式で丁寧に示すことで、生徒が模範的な解答の書き方を参考にすることができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 章末の「学んだことを活用しよう」では、章の学習内容を統合的・発展的に思考したり、方法や理由を説明したりする活用問題を設けることで、思考力・判断力・表現力等を育成できるように工夫されている。 ○ 「数学の広場」では、身に付けた数学の知識や考え方を日常社会や他教科の学習に生かしたり、更に探究したりする課題を掲載し、学んだことが実生活に生きることを実感できるよう工夫されている。 ○ 「章とびら」と関連付けて、社会で活躍している方へのインタビュー「数学しごと人」を掲載し、数学が実社会で役立っていることや数学を学ぶ意義が実感できるように考慮されている。 ○ 巻末の「実力アップ問題」では、章の学習内容を応用して更に学習を深めていける問題が設けられている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 「章とびら」では、実社会や日常生活、先端テクノロジーなどの数学に関わる話題を取り上げ、数学を学ぶことの必要性が感じられるようになっている。 ○ 章の導入「Let's Try」では、日常生活にある身近な話題を提示して、生徒が主体的に学習を始められるように、作業・観察・実験・調査などの活動に取り組みながら、本章の学習内容につなげることができるよう構成されている。 ○ 数学的活動に対応した導入課題「Q」では、問題解決の進め方を示し、主体的に未知の課題を解決する力を身に付けることができるよう工夫されている。 ○ 章の導入「Let's Try」では、生徒の課題把握を支援するデジタルコンテンツが設けられている。			
四【説明の平明さ】	○ 負の数の導入前に、1章「整数の見方」を設けたり、章の冒頭「○章を学習する前に」でその単元の学習内容に関連した既習事項を掲載したりすることで、学習内容の系統性を感じられるようになっている。 ○ 計算の方法や説明の手順を併記することで、学習内容を無理なく理解できるような工夫がされている。 ○ 基礎的な概念や原理・法則については、生徒の発達段階やその後の学習展開を考慮して、具体的により簡単な式で表される数量から学習を始めるなど配慮されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 図や表、イラストなどを穏やかな色調にしたり、UDフォントを使用したりするなど、見やすく分かりやすいものになるよう配慮されている。 ○ 小見出しの前後や指導の流れの区切りとなるところで適宜行間を空けたり、文章表現は簡潔にして文節のまとまりで改行したりすることで、読みやすくなるように配慮されている。 ○ キャラクターの吹き出しを用い、学習内容のポイントや学びを助けるヒントを提示することで、生徒の理解を助けるよう考慮されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	数学	61	啓林館	未来へひろがる数学
一【基礎・基本の習得】	○ 「例」「例題」では、基礎的・基本的な内容を取り上げ、直後にはそれにならって解くことのできる「問」を配置し、確かな知識・技能が身に付くように構成されている。 ○ すべての「例」「例題」について二次元コードでの解説動画があり、個の理解にあわせて学習ができるように工夫されている。また、補充問題では「問」と同程度の難易度の問題を掲載し、反復練習を通して基本的な知識・技能の定着を図ることができるようになっている。 ○ 章末問題の「学びをたしかめよう」では、それぞれの小問の横にチェック欄を設け、自分の理解度が把握できるようになっている。また、理解が不十分であった場合にどのページに戻って学習すればよいのかを記載することで、振り返って学習できるように考慮されている。 ○ 「学びをふりかえろう」「力をつけよう」では基本的な内容の問題にマークを付け、基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを確認することができるようになっている。 ○ 巻頭には、数学の学習におけるノートの書き方について丁寧に説明されており、復習しやすいノートづくりの参考になるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 「学びをいかそう」では、学んだ数学を使って身の回りの問題を解決する課題や、数学を発展・進化させる課題を設定することで、活用力が身に付くようになっている。また、環境問題や防災、SDGsなど社会課題に関連する話題も取り扱われている。 ○ 問題発見・解決の過程を意識できるように「○○の利用」の節には「ステップ方式」の課題が設けられている。状況を整理して問題を設定し（ステップ1）、解決の見通しを立て（ステップ2）、問題解決の過程を振り返って、気付いたことやもっと調べてみたいことを話し合い、問題を深める（ステップ3）までの流れが提示されている。 ○ 「説明しよう」「話しあおう」を数多く設定し、自分の考えを整理したり、ほかの人の意見を聞いたりして、多様な視点や考え方を取り入れながら、対話的に学習に取り組めるようになっている。 ○ 数学的な見方・考え方を働かせるために必要な、新しい問題を見つけるなどして学びを広げるときに役に立つ考え方や、問題を解決するときに役に立つ考え方が「たいせつな考え方」として示されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 身の回りの問題を取り上げ、数学が生活や社会で有用に働いていることを実感しながら、生徒が興味・関心をもって学習に向かうことができるように工夫されている。 ○ 学習の扉のテーマとその節での目標を示し、見通しをもった学習活動ができるようになっている。また、場面理解に役立つコンテンツや数学的活動をサポートするコンテンツがあり、生徒が自由に操作しながら試行錯誤して思考できるように工夫されている。 ○ 章末にある「○章のあしあと」では、その章の学習全体を振り返って、更に学んでみたいことなどをまとめる活動を設定し、生徒が自らの学びの深さを確認して、次の学びへと進むことができ、主体的に学習に取り組む態度を養うことができるようになっている。			
四【説明の平明さ】	○ 各ページの右側には、学習内容を考えるときのヒントや、既習事項とのつながりが分かりやすく示されている。 ○ 振り返りCBTでは章の学習に入る前の既習事項を確認できる問題が準備されている。 ○ 第3学年の巻末には、高等学校で取り扱う学習内容を「発展」として掲載し、個人の興味・関心に応じて取り組むことができるように工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ UDフォントを使用し、単語の途中での改行を避けて意味や文節による改行をし、文章の意味が理解しやすいように配慮されている。 ○ 「例」「例題」にはそれぞれタイトルを付け、学習内容が分かるようにされている。 ○ キャラクターを用いて、考え方のポイントを示唆したり、本文の理解を助ける説明をしたり、親しみやすく楽しみながら学習できるように構成されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	数学	104	数研	これからの 数学
一 【基礎・基本の習得】	○ 「例」と「問」をスモールステップで設定しており、基本的な知識・技能が無理なく習得できるよう工夫されている。 ○ 「問」「練習問題」「確認問題」「章末問題」「チャレンジ編」と段階的に学習を進めることができるよう構成されている。 ○ 各学年の巻頭で、学習したことを復習したり振り返ったりすることができる。また、基本的なノートづくりの具体例が示されている。 ○ デジタルコンテンツの中に、基本的な問題に繰り返し取り組む補充問題や、問題の場면을イメージできるアニメーションが収録されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 「見つけよう」や「学んだことを活用しよう」に取り組むことで、学んだことを基に思考、判断、表現する力を伸ばすことができるよう工夫されている。 ○ 「学んだことを活用しよう」では、既習内容を総合的に活用して解決できるような身の回りの問題を扱っており、学んだことが日常生活に生かされることを実感できるよう工夫されている。 ○ 全国学力・学習状況調査等で課題があると報告されている「説明すること」について、「TRY」で「ことからの説明」「方法の説明」「理由の説明」など説明する機会を豊富に設け、活用する力の育成につなげることができるよう工夫されている。 ○ 巻末には学習事項に関連したコラム「数学旅行」を設定し、生徒にとって身近な題材を載せることで、数学の有用性を実感することができるよう工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 小單元ごとに学習の目標を明示し、見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 「Q」や「TRY」は対話形式で構成し、思考過程を可視化することで、生徒自身の力で考えることができるよう工夫されている。 ○ 巻末の問題は、それぞれの章の内容を確認する問題の「力をつけよう!」、応用力を高める問題の「力をのばそう!」の2部構成になっている。また、更に難易度の高い問題には「UP」のマークが付いており、生徒が習熟度に応じて学習を進めることができるよう考慮されている。 ○ 「学んだことを活用しよう」では、リンクしたデジタルコンテンツにワークシートが掲載されており、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。また、新たに発生した疑問を探究できるようなコンテンツもあり、個別最適な学びに対応できるよう工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 章に入る前に確認しておきたい既習事項や問題が「ふりかえり」として設定されている。また、学習を進めていく段階で、「ふりかえり」に関連した内容が出てきた場合は「ふりかえり」のマークを示し、既習事項と関連付けながら学習を進めていくことができるよう工夫されている。 ○ 巻末に、それまでに学習した内容が領域ごとにまとめられており、系統性・関連性が把握できるようになっている。 ○ 第1学年の「文字の式」を学ぶ前までは、加法や乗法の交換法則や結合法則、分配法則などは、文字の代わりに□や○を使用し、小中の接続に配慮されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ UDフォントを使用し、文節改行することで読みやすくなっている。 ○ 第1学年の教科書では、問いの表現を「○○しましょう」などの小学校で使用される形式にし、無理なく学習することができるよう配慮されている。 ○ キャラクターの吹き出しを用い、学習内容のポイントや学びを助けるヒントが提示されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	数学	116	日文	中学数学
一【基礎・基本の習得】	○ 各単元の導入の前には、既習内容を確認する「次の章を学ぶ前に」があり、つまづきを未然に防ぎ、スムーズな導入につながるよう工夫されている。 ○ 節の最後には、節で学んだ基本的な問題である「基本の問題」、単元の終わりには章で学んだ標準的な問題である「章の問題」や応用的・発展的な問題である「とりくんでみよう」があり、繰り返し問題を解くことで、基本的な知識・技能の定着ができるようになっている。 ○ 「問」の問題は「例」や「例題」に類似した問題から、徐々に難しくなっていくスモールステップの構成で、基本的な知識・技能の定着が確実にできるよう工夫されている。 ○ 「例」や「問」の付近には「見る」や「ためす」などの反復練習のためのデジタルコンテンツが設けられている。また、巻末の補充問題へと促すコメントもあり反復練習ができるようになっている。			
二【活用する力の育成】	○ 自分で考え、対話を通して学び合う問題解決の過程を示した「学び合おう」が設定されている。巻末には、切り離して使える「対話シート」を付け、自分の考えを整理し、協働的な学びを通して、考える力や説明する力を高めることができるよう工夫されている。「振り返りシート」では、内容の理解を振り返り、改めて分かったことや大切であると思った考え方、また疑問に思ったことを書き、次の学習へとつなげることができるよう工夫されている。 ○ 各小節のそれぞれの学習場面において、数学的な見方・考え方が示されており、生徒がそれを認識しながら見方・考え方を働かせ、知識・技能の習得や数学的な思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるよう工夫されている。 ○ 章の扉や小節の導入場面では、日常生活や社会の中の「身近なことから」を題材として取り上げ、数学で解決可能な問題につなげやすいよう工夫されている。 ○ 巻末の「数学マイトライ」では、SDGsや「数学を仕事に生かす」の読み物資料、「数学研究室」での日常生活に関する応用問題を取り上げ、数学の有用性やそれが社会につながることを実感できるように工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 各小節が原則2ページ構成で、「Q」を学習の起点とし、学習内容ごとに「めあて」が朱書きされ、「例」から「問」を解く1単位時間の流れが分かりやすく、授業のゴール設定が明確であり、学習の見通しをもって学ぶことができるよう工夫されている。また、構成の最後には、次の課題が提示されており、主体的な学習を促すような工夫がある。 ○ デジタルコンテンツには「見る」「ためす」「身に付ける」「図形のまとめ」「調べる」「統計ツール」があり、問題の場면을イメージできる動画や反復練習のためのドリルが設けられている。また、考察を深めるためのシミュレーションもでき、個に応じて、主体的に学習ができるようになっている。			
四【説明の平明さ】	○ 各単元の導入の前には、「次の章を学ぶ前に」があり、それまでに学習した内容を意図的に学び直すことで、生徒が理解を広げたり深めたりする工夫がされている。 ○ 「例」や「問」では解法の手順を式だけでなく、矢印や図を用いて示されている。視覚的に示すことで、理解を促す手立てとなっている。 ○ 第2学年の「連立方程式」では、発展問題として三元連立一次方程式が扱われ、高等学校数学の内容に触れることができるようになっている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ UDフォントを使用し、文節改行することで読みやすくなっている。 ○ グラフや表は、カラーユニバーサルデザインに配慮した配色になっている。また、色の違いだけで表現するのではなく、形や線の種類、文字など色以外の情報でも識別ができるよう工夫されている。 ○ キャラクターの吹き出しを用い、学習ポイントや理解を助ける手立てが提示されている。			

種目 数学

※「データの観点」の数値は、数学で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目			2	4	11	17	61	104	116
発行者番号・略称			東書	大日本	学図	教出	啓林館	数研	日文
共通データ	①総ページ数		260	250	270	278	238	270	266
	②単元数	大単元	7	7	7	7	7	7	7
		小単元	17	18	13	14	16	15	13
	③1ページの標準文字数		393	360	427	355	343	314	338
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	13	6	28	27	39	8	20
		ページ数	21	8	30	30	39	8	20
		ページ割合(%)	8.2	3.2	11.8	10.9	16.6	3.0	7.6
	⑤佐賀県に関する項目		0	0	0	0	0	0	1
	⑥写真等の数	写真	37	54	32	45	37	43	25
		図表	140	138	215	313	143	163	163
		文章資料	13	16	11	15	9	10	17
⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有	有	有	有	有	
⑧ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有	有	有	有	有	有	
種目別データ	⑨日常生活や社会などで数学を利用する題材数		24	18	15	9	11	7	7
	⑩ノートのとり方や話し合いの仕方などの学び方を示したページ数		11	5	6	3	12	4	7
	⑪発展的な学習内容を取り扱った題材数		8	4	3	3	1	2	1
	⑫デジタルコンテンツマーク（WebマークやLinkマークなど）の数		190	11	79	71	111	91	108
	⑬付録の数		1	1	4	1	1	2	9

※調査対象は、各発行者の第2学年の教科書。

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。

※③（標準文字数）：各者共通の内容「連立方程式とグラフ」の2ページの平均総文字数。

※④（言語活動の充実が図られている学習）：「伝えよう」「話し合おう」や「説明しよう」などが書かれている題材数。

※⑥（図表）：問題に直接関わる図やグラフは除き、生徒の思考や理解を助けるイラストや吹き出しの数。

※⑥（文章資料）：数学に関連した話題（コラム）や数学史などの数。

※⑨（日常生活や社会などで数学を利用する題材数）：数学の学習内容の活用を図る題材（問題）数。

※⑪（発展的な学習内容を取り扱った題材数）：当該学年の学習指導要領に示されていない内容を扱った題材（問題）数。

※⑬（付録の数）：巻末の綴じ込み付録の数。

理科

観 点 理 科

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データの観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするために、どのような配慮がなされているか。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことについて、どのような配慮がなされているか。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養うために、どのような配慮がなされているか。

2 教科の内容（領域）との関連

- (1) 自然の事物・現象についての基本的な概念の形成及び科学的に探究する力と態度の育成が段階的に無理なく行えるように、どのような配慮が示されているか。
- (2) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うためにどのような工夫が示されているか。
- (3) 思考力・判断力・表現力等の育成につながる言語活動の充実について、どのような配慮が示されているか。
- (4) 観察、実験の過程での情報の検索、データの処理、実験の計測などにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用するための工夫や配慮が示されているか。
- (5) 単元など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習の見通しを立てたり、振り返ったりする場面を計画的に取り入れられるような工夫がどのように示されているか。
- (6) 観察、実験、野外活動などの体験的な学習活動や、原理や法則などの理解を深めるためのものづくりが計画的に行われるような配慮がどのように示されているか。また、学習内容と生徒の発達段階に応じて安全への配慮がどのように示されているか。
- (7) 博物館や科学学習センターなどと連携、協力を図りながら、それらを積極的に活用することについて、どのような工夫や配慮が示されているか。
- (8) 科学技術において、日常生活と関連付けた理解を図ることについてどのような工夫が示されているか。また、持続可能な社会をつくっていくことの配慮が示されているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	理科	2	東書	新編 新しい科学
一【基礎・基本の習得】	○ 「使用するキーワード」「ここがポイント」「例題」「練習」などを設けることで、学習を進めていくうえで基礎的・基本的な知識の習得ができるよう工夫されている。 ○ 二次元コードを多数配置し、デジタルコンテンツでは、基礎的・基本的な技能の習得に必要な動画に加え、思考ツールなども提供されている。 ○ 章末に「学んだことをチェックしよう」や単元末に「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」を記載し、習熟度に合わせて学習できるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 学習課題に対するまとめの例を記載し、生徒が考え表現したまとめと比較することで、思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるように工夫されている。 ○ 「活用：学びをいかして考えよう」を設けることで、日常生活や社会と結び付けて、新たな問題を見いだすなど、自然に学びが深まるよう工夫されている。 ○ 単元末に「お仕事図鑑」「学びを生活や社会に広げよう」「社会につながる科学」などの科学に関するコラムを設けることで、学習した内容を生徒が日常生活や社会に広げて考える活動ができる場面が設定されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 単元や章の始めの二次元コードからのスタート動画の視聴や「問題発見・レッツスタート」で生徒が自ら問題に気付くことで、疑問や目的意識をもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○ 「じっくり探究」では、探究の過程を矢印でつなぐことで、1人で読み進めることができ、見通しをもった課題解決能力が身に付くようになっている。また、思考を妨げない程度の対話例を記載することで、対話を広げやすくなるような支援がされている。 ○ 学習の流れを、「学びのフローチャート」としてページ左下に示すことで、学習全体の流れを自ら確認し、学習を進めることができるよう工夫されている。 ○ 各単元の始めと終わりに、「Before&After」を設け、自分の考えがどう変容したかが分かること（メタ認知）で、自己の成長を感じ取ることができるようになっている。			
四【説明の平易さ】	○ 「これまでに学んだこと」を単元の始めに設け、関連する小学校の内容を含めた既習事項を紹介することで、今後の学習内容を生徒が理解しやすくなるよう工夫されている。 ○ 「発展」の項目を設け、高等学校の学習内容などとのつながりが分かるよう工夫されている。 ○ 「数学で学んだこと」「お仕事図鑑」などを設けることで、他教科や職業との関連性を意識できるように工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 本文・注釈など主要部にはUDフォントやマークを使用し、視覚的に捉えやすくする配慮がある。また、側注幅を第1学年は、第2、3学年より大きくし発達段階が配慮されている。 ○ 本文の始まりが必ず左にくるよう配置を揃えたり、観察や実験の手順を縦に並べ注意事項がどの手順の項目を指しているかを明確にしたりするなど、流れを追いやすい構成にすることで生徒が読み進めやすくなるよう工夫されている。 ○ 見開きの指導時間数の目安を1単位時間とし、全ての節が見開き単位で構成されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	理科	4	大日本	理科の世界
一【基礎・基本の習得】	○ 公式を使って解く問題では、例題で解き方を示し、練習問題に進むことができるようにすることで、生徒が理解しやすいよう工夫されている。 ○ 観察・実験での「基本操作」を全学年に設け、基礎的・基本的な技能を身に付けられるよう工夫されている。 ○ 単元末の「まとめ」「単元末問題」で、学習の整理、復習をする構成になっており、基礎的・基本的な知識の定着を図ることができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 各単元末の「探究活動」では、単元の学習内容を活用する課題を設定し、言語活動を通して、探究活動を進めることができるよう工夫されている。 ○ 日常生活や科学の歴史、最新の科学的知見、SDGsなどに関連する資料を記載し、幅広い知識が身に付けられるよう工夫されている。 ○ 「読解力問題」を単元末に記載し、学んだことを活用して考えたり、表現したりすることで、思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるように工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 課題解決学習の過程に配慮した構成になっており、探究の過程の中のそれぞれの活動をマークで表し、生徒が主体的に活動できるよう工夫されている。 ○ 全学年巻頭で理科の学習の進め方を説明し、主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。 ○ 巻末の「探究の進め方」「ノートやレポートの書き方」で、見方や考え方の例、話合いの仕方、発表の仕方、記録・整理の仕方を示し、主体的に活動ができるようになっている。 ○ 主体的に観察・実験が行えるように、必要なものや手順を丁寧に記述するとともに、キャラクターの会話場면을掲載し、対話的な学びを促すようになっている。			
四【説明の平明さ】	○ 単元の導入部分で、既習事項と単元の学習内容のつながりが、写真や図を使い、見開きで掲載されており、見通しをもって単元の学習に臨むことができるよう工夫されている。 ○ 既習事項を「思い出そう」、発展的な学習内容を「発展」として、小・中・高の学習のつながりを示し、学びがつながり深まる工夫がされている。また、「つながる」では、他の単元とのつながりや、理科の学習と他教科との関連する学習内容を示し、単元の学習内容から更に学びを広げることができるよう工夫されている。 ○ 学習内容と関わる防災・減災、職業や国際的な動向、生命尊重や自然愛護などについて触れ、日常生活や職業への関連性をもせるよう工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 見出し・本文などにUDフォント、カラーが使用されており、生徒の発達段階を考慮して、第1学年の本文や囲み資料の文字は、第2、3学年よりも大きくされている。 ○ グラフでは、線の種類は実線や点線を用い、色の見え方に配慮して示されている。また、写真、挿絵、図表は鮮明で、効果的な配置になるよう配慮されている。 ○ 観察・実験中の安全に配慮するところを黄色枠で強調し、注意喚起が図られている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	理科	11	学図	中学校 科学
一 【基礎・基本の習得】	○ 各節で「この時間の課題」「まとめ」が記載されており、「この時間の見方」「考え方」をもとに生徒が学習内容を把握しやすくなるよう工夫されている。 ○ 観察・実験での基礎的・基本的な技能を巻末にまとめて「基本操作」として掲載し、基礎的・基本的な技能を習得できるよう工夫されている。 ○ 単元末の「学習のまとめ」は、「用語を覚える」と「基礎問題に慣れる」の構成になっており、目的に応じて繰り返し学習ができるよう工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 思考力・判断力・表現力等を向上させるために、巻末に「計算問題例題」「読解力強化問題」が掲載されている。また「思考をさらに深める」では全国学力・学習状況調査や高校入試の問題が掲載されており、生徒が多様な問題に挑戦できるようになっている。 ○ 学習内容として最低限の解説資料の他に、巻末に補充資料が掲載されている。また、「理路整然 - 智に働けば役に立つ -」では、科学に関するコラムを各所に配置し、学んだことを実生活などと結び付けて考えることができるようにされており、生徒が科学を学ぶ意義や有用性を実感することができるよう工夫されている。 ○ 各学年でSDGsとの関連に触れるなど、持続可能な社会の担い手としての意識を高めることができるよう工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 全学年の巻頭において理科の学習の進め方が示されており、科学を学ぶ意義や科学的な探究の方法を分かりやすく示す工夫がされている。 ○ 各探究の導入として「気づき」を設けており、生徒が自ら課題意識をもって探究に取り組むことができるよう工夫されている。また、各ページに二次元コードがあり、デジタルコンテンツ（チャットボットなど）にアクセスし、主体的に学習できるよう工夫されている。 ○ 「探究を深める 理路整然」では、発展的な活動例を示し、生徒が自ら活動する際の参考にすることができるよう工夫されている。 ○ 単元の始めの「Can-Do List」で資質・能力の3観点を明示し、各単元でどのような知識を身に付けるべきかの見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 各単元の始めに「振り返ろう・つなげよう」を設け、既習事項や関連する学習の系統性を意識することができるよう工夫されている。 ○ 観察・実験の手順の流れ図で示したり、多くの実験操作を実際に写真で示したりすることで、観察・実験がひと目でわかるように工夫されている。 ○ 二次元コードを教科書の決まった位置に配置し、生徒の理解度に合った表現や学習内容に対応できるよう工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ UDフォント、カラーを使用するのに加え、本文と図を見分けやすくするなど視覚的に分かりやすい紙面になるよう工夫されている。 ○ 写真、挿絵、図表は大きく鮮明で、見やすい配置になるよう配慮されている。 ○ 危険防止が必要な箇所には、目立つマークを付けたり、他教科との関連を示すためのマークを示したりして、視覚的な工夫がされている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	理科	17	教出	自然の探究 中学理科
一【基礎・基本の習得】	○ 本文中の重要語をゴシック太文字、振り仮名、色付きにして明確にし、基礎的・基本的な知識が習得しやすくなるよう工夫されている。 ○ 単元内で、学習を振り返る「要点をチェック」と、単元末に「要点と重要用語の整理」「基本問題」を設け、知識・技能の定着を図ることができるよう工夫されている。 ○ 全学年の巻末資料に、「基礎技能」「物質・試薬の一覧」「理科で使う算数・数学」をまとめて記載し、振り返り学習ができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 「活用しよう」のマークを付して、学習したことを基に考えたり、話し合ったりする場面を設定し、学んだことを活用することができるよう工夫されている。また、単元末には「活用問題」を記載し、思考力が深められるようになっている。 ○ 生活に関わる疑問などに対して「学習前の私」と「学習後の私」を比べ、単元で習得した知識や考えを活用して解決できるよう工夫されている。 ○ 科学に関するコラム「ハローサイエンス」を随所に設け、学習内容と生活、安全、歴史、環境などの関係を意識して学習することができるようになっている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 全学年の巻頭に、「自然の探究」や「探究の進め方」について掲載されている。また、生徒のキャラクターを用いることで対話的で探究的な学びを促す工夫がされている。 ○ 「考えよう」「話し合おう」「演習しよう」のマークを示すことで、思考・表現する場면을重視した学習展開ができるようになっており、主体的な学びが促せるよう工夫されている。 ○ 疑問から始まる観察・実験を各単元で1か所程度、探究の進め方にそった指導が効果的な部分に設定し、生徒が主体的に学習できるよう工夫されている。 ○ 「まなびリンク」の二次元コードやWebサイトのアドレスが掲載されており、ICTを活用した学習で、生徒の意欲を喚起し学習の補完ができるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 既習事項を「これまでの学習」、発展的な学習を「発展」として、小・中・高との学習のつながりが示されている。また、巻末資料に理科で使用する算数・数学などの既習事項の計算の仕方や単位についてまとめてあり、他の教科との関連が分かるよう工夫されている。 ○ 「探究の進め方」を折り込みに設けることで、本文ページを開いた状態でも「探究の進め方」全体のどの学習段階にいるのかをいつでも確認することができるよう考慮されている。 ○ 学習内容と関わる防災・減災、SDGs、職業などについて触れ、学習内容と日常生活との関連性をもたせるよう工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ UDフォント、カラーや統一感のあるマークを使用するなど見やすさ・読みやすさに配慮されており、第1学年の文字が大きく表示されるなど発達段階なども考慮されている。 ○ 本文や生徒が主体的に取り組む観察・実験などは常体で、読み物は敬体で記述され、平易で簡潔に表現されている。 ○ 側注をなくすとともに、文章に結びつく写真・図版を近くに配置し、探究の進め方を統一したマークで示し、読み手の視点が上から下へ流れるようシンプルな配置で構成されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	理科	61	啓林館	未来へひろがるサイエンス
一【基礎・基本の習得】	○ 「なるほど」では、間違いやすいことや勘違いしやすいことを正しく理解するための情報が提供され、基礎的・基本的な知識の確実な習得ができるよう工夫されている。 ○ 二次元コードを読み取ると観察・実験の解説動画が示され、観察・実験の基礎的・基本的な技能の定着を図ることができるよう工夫されている。 ○ 章末の「Review ふり返ろう」には、「用語の確認」などの演習問題が設けられている。単元末の「学習のまとめ」で、重要語句が図とともに整理されており、同ページの二次元コードを読み取ると、選択問題で用語を繰り返し学習できるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 「Action 活用してみよう」では、理科の知識や概念を日常生活で活用する場面を設定することで、学んだことを日常生活に関連させながら考えることができるよう工夫されている。また、科学に関するコラムの「部活ラボ」「お料理ラボ」「お仕事ラボ」では、学んだことを学校生活・食生活・実社会に関連付けて捉えることができるよう工夫されている。 ○ 単元末の「力だめし」「動画でチャレンジ」では、日常生活の場面を生かした問題が設定されており、学びを日常生活と関連付けられるよう工夫されている。 ○ 「考えてみよう」「発表してみよう」など、自然事象について考察したり、考えを表現したりする活動の場面を設定し、思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるように工夫がされている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 章の導入では、「はてなスイッチ」の二次元コードを読み取ると、章の導入動画が視聴でき、生徒が主体的に問題を見いだせる構成となっている。 ○ キャラクターを使って具体的な対話例を示すことで、生徒が主体的に理科の見方・考え方を働かせて考えることができるよう工夫されている。 ○ 各単元に主体的に取り組む活動として「探Q実験」を設定し、他者の意見を参考に自分の考えを検討する問題解決的な学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 身に付いた知識・技能を活用して取り組む「力だめし」「学年末総合問題」「中学校総合問題」には解答・解説を用意し、自ら学習できるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 「つながる学び」では、関連する既習事項が確認でき、「つながるページ」では、同一学年の別の単元でも登場する用語が相互に確認できるように工夫されている。 ○ 観察・実験では、「目的」「方法」「結果」「考察」の過程が明確に示され、見通しをもって観察・実験を行えるよう工夫されている。 ○ 「深めるラボ」「お仕事ラボ」などを設けることで、発展的な内容や職業との関連性に触れることができ、学んだことの広がりが感じられるようになっている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 本文や見出しなどにUDフォント、カラーを使用し、加えて第1学年の文字が大きく表示され、発達段階も考慮されている。 ○ 写真、挿絵、図表は大きく鮮明で、見やすい配置になるよう配慮されている。 ○ 本文の幅を一定にして、読み進めやすいよう工夫されている。また、教科書は綴じ代（あじろ綴じ）を工夫し、広げやすく、書き込みがしやすいようになっている。			

種目 理科

※「データの観点」の数値は、理科で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目			2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出	61 啓林館
共通データ	①総ページ数		314	318	304	315	324
	②単元数	大単元	4	4	4	4	4
		小単元	15	14	12	14	15
	③1ページの標準文字数		301.5	353	382	277.5	280
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	53	43	23	31	34
		ページ数	117	85	66	60	64
		ページ割合(%)	37.3	26.7	21.7	19.0	19.8
	⑤佐賀県に関する項目		0	0	0	1	1
	⑥写真等の数	写真	150	201	127	142	156
		図表	265	220	245	257	270
		文章資料	54	92	65	59	62
	⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有	有	有
	⑧ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有	有	有	有
種目別データ	⑨観察、実験の数	必修	26	30	28	25	28
		参考	45	61	28	51	49
	⑩自由研究のページ数		2	2	0	2	2
	⑪安全に関する記述		66	80	36	75	67
	⑫理科学習の流れに関する記述		3	2	4	4	5

※調査対象は、各発行者の第2学年の教科書。

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。

※③（標準文字数）：同単元で記載している本文をページ数で割った文字数。

※④（言語活動の充実が図られている学習）：主体的・対話的な学習の内容や提示の充実が図られているかで判断。

※⑥（写真）：同単元で記載されている図表、写真の数（通し番号が付されているものも含む延べ数）。

※⑥（図表）：通し番号が付されている図や表の数。

※⑥（文章資料）：科学に関連した話題や科学者のエピソード等の読み物資料の数。

※⑨（必修）：実験1や観察1などの生徒が必ず行う観察、実験の数。

※⑨（参考）：必修と自由研究を含めない観察、実験の数。

※⑩（自由研究）：自由研究が記載されているページ数。

※⑪（安全に関する記述）：本文中の観察・実験の安全に関する記述数（アイコンのみは含まない）。

※⑫（理科学習の流れに関する記述）：特に理科学習の進め方に関する内容が記載されているページ数。

音 楽

(一般)

観 点

音 楽（一般）

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまずきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平明さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をすることや必要な技能を身に付けるようにするために、どのような表現及び鑑賞の活動を示しているか。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにするために、どのような表現及び鑑賞の活動を示しているか。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うために、どのような表現及び鑑賞の活動を示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

- (1) 音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習について、どのように示しているか。
- (2) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)の指導については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」の(1)の指導については、ア及びイの各事項を適切に関連させて指導することについて、どのように示しているか。
- (3) 表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力である各学年の内容の〔共通事項〕について、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて十分に指導ができるように、どのような工夫や配慮を示しているか。
- (4) 音楽によって喚起された自己のイメージや感情、音楽に対する評価などを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けているか。
- (5) 知覚したことと感受したこととの関わりを基に音楽の特徴を捉えたり、思考、判断の過程や結果を表したり、それらについて他者と共有、共感したりする際に、適宜、体を動かす活動をどのように取り入れているか。
- (6) 生徒や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と主体的に関わっていくことができるように、どのような工夫や配慮を示しているか。

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	音楽 (一般)	17	教出	中学音楽 音楽のおくりもの
一 【基礎・基本の習得】	○ 歌唱教材及び鑑賞教材のページでは、生徒が記入できるワークシートが設けられており、知識の習得につながるよう工夫されている。特に、「旋律のまとまり」のページでは、旋律のまとまりを学習しながら、形式について理解することができるよう工夫されている。 ○ 「どんな特徴があるかな？」では、音楽を形づくっている要素について、「きらきら星変奏曲」や「アルルの女」などの音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら学習することができるよう工夫されている。 ○ 「指揮をしてみよう」では、指揮の仕方について、音楽の特徴と合わせて習得できるよう、図や楽譜を用いて分かりやすくかつ丁寧に示されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 「表現の仕方を調べてみよう」では、他の芸能と比較し共通点や相違点について考えることができるようワークシートが構成されており、音楽的な見方・考え方を働かせた学習ができるよう工夫されている。 ○ 「私たちのくらしと音楽」では、音楽著作権について、インターネット上の音楽利用において特に重要なことを例に挙げ、説明されている。また、「コンピュータと音楽」についても同様に、表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会における著作の利用について学習ができるよう工夫されている。 ○ 「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、生活や社会において音楽が果たす役割について例を挙げ、音楽と生活や社会とのつながりを理解することができるよう工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 表現及び鑑賞の教材全てに目標が明確に示されており、学習の見通しをもって活動を進めることができるよう工夫されている。 ○ 全学年において、「まなびリンク」(二次元コード) から学習に対応した動画等の資料を見ることができ、生徒自身の学習状況に応じて活動ができるよう工夫されている。 ○ 巻頭では、シューベルト、ベートーヴェン、滝廉太郎にまつわるエピソードが史実に基づいた文章や写真、資料等で紹介されており、生徒の興味・関心を引き出し、深く考えるきっかけとなるよう工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 「音のスケッチ」では、生徒が記入しやすいページの構成となっており、創作の学習への理解を深めながら活動を進めることができるよう工夫されている。 ○ 鑑賞の教材では、フーガについて楽譜中に主題と応答が色で示されたり、リトルネッロ形式について図で示されたりするなど、形式について分かりやすく学習することができるよう工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 「学習MAP」は小学校の教科書から継続して扱われており、題材の目標や見通しが明確に示されている。また、各領域・分野ごとに学習する内容が理解できるよう工夫されている。 ○ 巻末資料では、楽典や作曲者年表、その学年で学習する楽器の写真などが大きく掲載されており、生徒がいつでも確認できるよう工夫されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	音楽 (一般)	27	教芸	中学生の音楽
一 【基礎・基本の習得】	○ 「My Voice」では、歌唱に必要な発声や身体の使用方などの知識・技能について、図やイラストを用いて分かりやすく示されている。また、変声期について扱っており、思春期への心理的不安について配慮されている。 ○ 創作の学習では、「リズムゲーム／リズムアンサンブル／リズムチャレンジ」のページが設けられており、基礎的な学習内容を確認し、発展的な学習につながるよう工夫されている。 ○ 「音楽を形づくっている要素」のページでは、イラストや教材曲を用いて説明されており、生徒が音楽を形づくっている要素について理解することができるよう工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 「社会を映し出す音楽」では、ミュージカルやポピュラー音楽についてジャンル別にイラストを用いて分かりやすく示されている。また、生涯にわたり、音楽文化に親しむことができるよう、生徒の興味・関心に応じて学習することができるよう工夫されている。 ○ 「社会や生活の中の音楽」では、発達段階に応じて仕事と音楽、人と人とをつなぐ音楽、音や音楽の果たす役割について紹介されており、音楽の学習を生活や社会での音楽活動に生かすことができるよう工夫されている。 ○ 「学びのコンパス」では、手順に従って学習を進めることで、楽曲について自分の考えを整理し、更に生徒同士が主体的・対話的で深い学びができるよう工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 学習の目標や楽曲の紹介、学習活動の見通しなど、ページの構成が統一されており、生徒の主体的な学びにつながるよう工夫されている。 ○ 題材ごとに二次元コードが示されており、学習に応じた動画や創作の資料を活用することで、生徒の学習状況に応じた学習ができるよう工夫されている。創作の学習においては、読譜や記譜について生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ○ 巻頭の特集ページ、各鑑賞教材の資料や巻末の楽典事項などを掲載することで、生徒が興味・関心をもって主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 「Let's create」では、リズムについて知覚・感受したことと関連させながら音素材を選び、工夫する構成になっており、生徒のイメージと関わらせながら学習することができるよう工夫されている。 ○ オペラの学習では、オペラに関わる人々やオペラ制作に関する全体像が分かりやすくまとめられている。また、オペラと歌舞伎を比較しながら、総合芸術としてのそれぞれのよさを感じ取ることができるよう工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 各学年で学習する目標や内容に応じてジャンルごとにまとめた図や説明があり、視覚的に理解しやすく、調べたり、活用したりすることができるよう工夫されている。 ○ 写真や楽譜などが適切に配置されており、メモや書き込み等をしやすいサイズになっている。また、楽譜には、UDフォントが用いられており、歌詞がより見やすくなるよう工夫されている。			

種目 音楽（一般）

※「データの観点」の数値は、音楽（一般）で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目			17 教出	27 教芸
共通データ	①総ページ数		276	294
	②題材数		37	50
	③言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	21	22
		ページ数	29	31
		ページ割合（%）	10.4	10.4
	④佐賀県に関する項目		1	2
	⑤写真等の数	写真	94	99
		図表	41	79
		文章資料	99	105
	⑥指導者用デジタル教科書の有無		有	有
	⑦ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有
種目別データ	⑧表現の題材数	歌唱の教材数	60	53
		創作に関する教材数	8	8
	⑨鑑賞の教材数		56	56

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。全学年の教科書の合計ページ数。

※③（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。

※⑤（写真）：写真が掲載されているページ数。

※⑤（文章資料）：教材について補足的に説明してあるページ数。

※⑧（歌唱の教材数）：歌唱の取り扱いがある教材数（器楽の取り扱いがある教材も含む）。

音 楽

(器楽合奏)

観 点

音 楽（器楽合奏）

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまずきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、どのような表現及び鑑賞の活動を示しているか。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにするために、どのような表現及び鑑賞の活動を示しているか。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うために、どのような表現及び鑑賞の活動を示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

- (1) 和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を用い、その表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことについて、どのように示しているか。
- (2) 歌唱及び器楽の指導における合わせて歌ったり演奏したりする表現形態において、他者と共に一つの音楽表現をつくる過程を大切にするとともに、生徒一人一人が、他者や他の声部の音、全体の響きなどについて考え、主体的に創意工夫をすることについて、どのように示しているか。
- (3) 我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導に当たって、言葉と音楽の関係、姿勢や身体の使い方について、どのように示しているか。
- (4) 創作に当たって、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験について、どのように示しているか。

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	音楽 (器楽合奏)	17	教出	中学器楽 音楽のおくりもの
一【基礎・基本の習得】	○ 器楽の学習で扱う楽器について、基礎的・基本的な奏法を身に付けることができるよう楽器の仕組みや演奏の仕方などが図や写真を用いて分かりやすく説明されている。また、生徒の学習状況に応じて学習に取り組むことができるよう教材曲の配列が工夫されている。 ○ 「まなびリンク」(二次元コード)から学習に対応した動画等の資料を見ることで、各楽器の音色や演奏の様子などを確認し、知識・技能の習得ができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 器楽の学習で扱う楽器について習得した知識・技能を活用し、「深めよう」「表現の仕方を調べてみよう」などの発展的な学習につながるよう工夫されている。 ○ 「Let's Try」では、既習の学習内容を活用して演奏できる楽曲を紹介したり、新しい奏法を紹介したりすることで、習得した知識・技能を活用し、発展的な学習につなげることができるよう工夫されている。 ○ 「名曲旋律集」では、歌唱及び鑑賞の学習と関連する教材曲を取り上げ、生徒が親しみをもって演奏できるよう工夫されているとともに、これまでの学習がより深まるよう配慮されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 巻頭では、「ストリートピアノ」の紹介で始まるなど、生徒が楽器を介した人と音楽のつながり、人と社会のつながりを意識することができるよう工夫されている。 ○ 「弾く楽器の仲間たち」「吹く楽器の仲間たち」のページでは、鑑賞の学習で扱うオーケストラの楽器以外の楽器にも興味・関心をもち、親しむことができるよう内容や構成が工夫されている。 ○ 器楽の学習で扱う楽器について、題材の終末に「まとめの曲」を紹介し、生徒が学習の目標と見通しをもって取り組むことができるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 学習の目標や教材、学習活動の説明や解説について、分かりやすく説明されている。また、図や写真が大きく掲載されており、演奏の様子や演奏の仕方が分かりやすく確認できるよう工夫されている。 ○ 和楽器の学習では、唱歌について、楽譜に基本的な奏法とともに示されており、各和楽器の音色や奏法を想起することができるよう工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 楽譜や文字、写真などが適度な大きさを示され、基本的な奏法については、演奏の仕方を詳細に確認することができるよう工夫されている。 ○ ギターのコード表では、実際に弦を押さえている写真と鍵盤図が示されており、それらを関連させながら個人で確認し、練習することができるよう工夫されている。 ○ カラーユニバーサルデザインやUDフォントが使用されており、読みやすくなるよう工夫されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	音楽 (器楽合奏)	27	教芸	中学生の器楽
一 【基礎・基本の習得】	○ 器楽の学習で扱う楽器について、「吹いてみよう」「弾いてみよう」などのページが設けられており、教材曲を演奏する前に基本的な奏法を習得することができるよう工夫されている。 ○ 様々な奏法について写真を用いて示されている。また、生徒の学習状況に応じて二次元コードから学習に対応した動画等の資料を確認し、器楽の学習で扱う楽器についての知識・技能が習得できるよう工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 二次元コードから、器楽の学習で扱う楽器における模範演奏を視聴することができ、各楽器の音色や演奏の仕方などについて確認したり、生徒が表したい音楽表現に生かしたりすることができるよう工夫されている。 ○ 打楽器の学習では、二次元コードから動画等の資料を確認し、楽器の音色や演奏の仕方などの違いを比較しながら学習することができるようになっており、様々な地域の楽器や奏法について学習を深めることができるよう工夫されている。 ○ 「My Melody」では、箏の学習と創作の学習を関連付けながら学習することができるようになっている。また、二次元コードから創作の学習を進めることができるよう工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 器楽の学習で扱う楽器について、導入に鑑賞の活動を位置付けており、楽器の音色や教材曲などのイメージをもち、どのように音楽表現を創意工夫するかについて思いや意図をもつことができるよう工夫されている。 ○ リコーダーやギターでは、各楽器における種類やアンサンブルなどの演奏形態などの写真が示されており、基本的な奏法の習得だけではなく、楽器の演奏に関する生徒の興味・関心を引き出すことができるよう工夫されている。 ○ 打楽器では、ポピュラー音楽を取り扱い、楽譜を見たり、他の楽器とのアンサンブルを学習したりして、生徒の興味・関心を引き出すことができるよう工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ リコーダーの運指表やギターの運指表について、見開き1ページで示されている。また、ギターはダイアグラムだけではなく、指使いと合わせて示されており、確認しやすいよう工夫されている。 ○ 「問いかけ」のページが設けられており、学習の目標や見通しが立てやすく、音楽的な見方や考え方を働かせ、深い学びにつながるよう工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 楽譜の配置が見やすくなるよう考慮されており、生徒が書き込むことができるスペースを設けることで、主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。 ○ 教材における題材や学習目標が明確に示されており、学習の見通しをもつことができるよう工夫されている。また、創作の学習と関連して題材が配列されており、深い学びにつながるよう工夫されている。 ○ 紙面にはユニバーサルデザインが使用されており、全体的な紙面の色合いや文字のフォントが見やすいようUDフォントで示されている。			

種目 音楽（器楽合奏）

Ⅱ データ的観点

※「データ的観点」の数値は、音楽（器楽合奏）で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

項 目			17 教出	27 教芸
共通データ	①総ページ数		106	106
	②題材数		18	5
	③言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	8	4
		ページ数	11	8
		ページ割合（%）	10.3	7.5
	④佐賀県に関する項目		0	0
	⑤写真等の数	写真	44	50
		図表	25	22
		文章資料	48	53
	⑥教師用デジタル教科書の有無		有	有
	⑦ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有
種目別データ	⑧器楽の教材数	楽器の種類	12	22
		教材数	67	51

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。
 ※③（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。
 ※⑤（写真）：写真が掲載されているページ数。
 ※⑤（図表）：図表が示されているページ数。
 ※⑤（文章資料）：教材について補足的に説明してあるページ数。
 ※⑧（器楽の教材数）：器楽で扱う楽器の種類及び教材数（創作、鑑賞の取扱いがある教材は含めない）。

美術

観 点 美 術

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまずきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにするために、どのような表現及び鑑賞の活動を設定しているか。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような表現や鑑賞の活動を設定しているか。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うことを目指し、どのような表現や鑑賞の活動を設定しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

- (1) 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習になるようにどのような工夫や配慮を示しているか。
- (2) 各学年の内容の「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導については相互に関連を図り、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにどのような工夫や配慮を示しているか。
- (3) 各学年の内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるようにどのような工夫や配慮を示しているか。
- (4) 各学年の「A 表現」の指導に当たっては、主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようどのような工夫や配慮を示しているか。
- (5) 各学年の「A 表現」の指導に当たっては、生徒の学習経験や資質・能力、発達の特性等の実態を踏まえ、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料などを選択し創意工夫して表現できるようにどのような工夫や配慮を示しているか。
- (6) 各学年の「B 鑑賞」の題材については、国内外の児童生徒の作品、我が国を含むアジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館や博物館等と連携を図ったり、それらの施設や文化財などを積極的に活用したりするようどのような工夫や配慮を示しているか。
- (7) 事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などをどのように扱っているか。

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	美術	9	開隆堂	美術
一【基礎・基本の習得】	○ 各題材の学習に必要な知識や技能が、図版や「美術の用語」で分かりやすく提示されている。 ○ 各巻末の「学びの資料」に題材横断的な知識や技能が系統的に整理して示されている。 ○ 生徒作品や制作過程の解説などを通して、形や色の性質を正しく理解したり、見通しをもって工夫して表現したりする活動が提案されている。			
二【活用する力の育成】	○ 他教科やSDGsとの関連を意識して編集されており、題材や作家作品、活動などに該当するSDGsの目標が番号で示されている。 ○ 点字ブロックにストリートアートを取り入れた作品や地域からの依頼を受けた生徒がシャッターに描いた作品など、共に生きる社会の実現に向けて取り組む姿勢を育むために、実際の事例を取り上げて鑑賞する題材が設けられている。 ○ 地域社会と生徒の共同制作といった地域連携の事例を取り上げて、社会に開かれた教育課程を意識しており、キャリア教育に対応した紙面が第2、3学年に向けて用意されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 漫画やスポーツのユニフォームデザインなど生徒にとって親しみのある作品を掲載することで、興味・関心をもちながら、身近なものと美術の文化をつなげて捉えられるようになっており、各題材の「学習の目標」に「学びに向かう力に関する目標」が明示されている。 ○ 原寸大の図版で作家作品の一部を鑑賞することができ、鑑賞の視点が広がったり生徒自身の表現に生かしたりすることができるようになっている。 ○ 二次元コードを読み取ることで授業導入から発想の広げ方、振り返りまでサポートする各種コンテンツが紹介されている。 ○ 知的財産権について、第1学年に1ページを使って触れられている。			
四【説明の平明さ】	○ 図画工作から美術へのつながりを大切にした導入ページが設けられている。 ○ 各領域に扉のページを設定し、学習の見通しや学習内容が分かりやすくなるように構成されている。 ○ 中学校以降で習う漢字や美術の専門用語については、初出だけでなく、振り仮名を付けた総ルビになっている。また、中学生の発達段階を考慮して、簡潔で的確な文章表現に留意し、学習の目的や考え方などが読み取りやすいように工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 教科書の表紙に掲載されている作品のイメージがつかめるように、表紙に凹凸を付け、触って感じるできるように工夫されている。 ○ 折り込みという仕組みを効果的に活用した鑑賞の仕方を提案することで、生徒の見方や感じ方を広げたり深めたりできるようになっている。 ○ 年表にある作品数が多く、掲載されている作品の色味が原物により近くなるように配慮されている。 ○ カラーユニバーサルデザインの観点から、学習内容が正しく伝わるよう、配色や写真の配置などが工夫されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	美術	38	光村	美術
一【基礎・基本の習得】	○ 発達段階に応じて知識が深まるように題材が配置されている。また、中学校美術で学ぶ知識や技能の内容を「1年資料」（別冊）にまとめ、生徒が必要に応じて参照できるように工夫されている。 ○ 作品の形や色彩、材料について、着目すべき「POINT」を示し、鑑賞するときの着眼点が分かりやすく示されている。 ○ 第1学年の「発想のしかたはさまざま」や「1年資料」（別冊）の「発想・構想のために」というページで、多様な発想の仕方が紹介されている。			
二【活用する力の育成】	○ 第1学年巻頭および第2、3学年の巻頭・巻末やオリエンテーション、第2、3学年の「美術の力」などから、豊かな感性や思いやりを育み、美術の学びを人生や社会に生かすことができるように工夫されている。 ○ 作った作品を飾ったり使ったりする活動、地域や生活との関わりの強い作品などを掲載するなど、実生活で美術が果たしている役割が具体的に示されている。 ○ 平和や人権問題、環境や地域文化・伝統文化、多様性への配慮など、現代的な諸課題に対応する題材を多く掲載することで、生徒が持続可能な社会への関心をもてるようになっている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 「1年資料」（別冊）には、材料や用具の扱い方、学習指導要領に指導事項として位置付けられている〔共通事項〕に関わる内容がまとめられている。表現活動の際に生徒が主体的に参照することができるようになっている。 ○ 「みんなの工夫」をはじめ、生徒の試行錯誤の様子や制作過程を詳しく表すことで、「自分ならどういう作品をつくりたいか」と主体的に考えられるように工夫されている。 ○ 紙面の二次元コードから視聴できる動画は、字幕を付けたり、再生速度を変えたりすることができるようになっており、それぞれに応じた使い方ができるように配慮されている。			
四【説明の平明さ】	○ 防災教育・人権教育・外国人児童生徒等の教育、学習のユニバーサルに関する校閲を専門家から受けている。 ○ 3学期制、2学期制どちらにも対応できるよう、題材数や領域のバランスが工夫されている。 ○ 各学年のオリエンテーションでは、学習で大事なことや、表現方法は多様であることが理解できるように工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 図版と図版の間をあけたり、罫線を引いたりして、境界を明確に区別できるように配慮されている。 ○ 全学年を通して、文字がやや小さくなる場合は、見やすく読み間違えにくいUDフォントが使用されており、一文字の縦画が太いのははっきりと見えるようになっている。 ○ 日本美術を特集した第2、3学年のページでは、和紙のような風合いの紙を採用し、より本物に近い感覚で鑑賞できるような工夫がされている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	美術	116	日文	美術
一【基礎・基本の習得】	○ 各題材に＜鑑賞の入り口＞と＜造形的な視点＞が記されており、題材を通して、掲載作品の「鑑賞」―生徒自らの「表現」―生徒相互の「鑑賞」を行うことで学びの定着を図ることができるようになっている。 ○ 全題材の主文とセットで「造形的な見方・考え方」を軸にした二次元コードによる題材導入動画を提示することで、活動と知識が結び付き、知識の定着を図ることができるようになっている。 ○ 「学びを支える資料」で鑑賞・技法・色彩に分けて掲載し、材料や用具の扱いについて説明したり、手立てを紹介したりすることで知識・技能の習得につながる工夫がされている。			
二【活用する力の育成】	○ 道徳科の内容項目に対応した関連項目、総合的な学習やSDGsに関連する項目など多様な考え方や感じ方に触れることができるようになっている。 ○ 美術を職業としている方、美術の学びを生かしながら多方面で活躍されている方々を多く掲載することで、生徒が美術の力を幅広くとらえて将来に生かせるようにキャリア教育の視点で構成されている。 ○ 美術を通じた地域社会とのつながりや、生活の中で美術の働きを実感できる鑑賞作品や題材が設定されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 「学びを支える資料」において、技法動画や作者からのメッセージなどの動画を見ることができる二次元コードが設定されており、生徒の意欲を高める手立てがとられている。 ○ 一部の作品は原寸大図版（第1学年で2つ、第2、3学年上下で各1つずつ）で、素材や表現を細部まで鑑賞できる工夫がされている。 ○ 「学びの目標」で3観点の具体的な目標が生徒にも分かりやすい言葉で設定されることで、導入時のほか、学習途中や振り返りでも活用できるようになっている。 ○ すべての表現題材で、発想・構想の手掛かりとなる「表現のヒント」や、技能に関するヒントが掲載されている。			
四【説明の平明さ】	○ 活動や目的をイメージさせる題材により、生徒の意欲を引き出せるように工夫されている。 ○ 思考のプロセスが見えるように、発想を引き出し、構想を深める手掛かりとなるアイデアスケッチが多数掲載されている。 ○ 生徒が「造形的な見方・考え方」に着目し、活動や目的をイメージしやすい言葉で、題材紙面が構成されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 発達段階を考慮した内容で第2、3学年が2分冊されている。3年間を系統立てられた題材設定がされており、各学年相応のきめ細かい学習指導ができるようになっている。 ○ 「屏風、美のしかけ」では、作品を観音開きで大きく掲載し、実際に折って立てることで奥行きや見え方を体感することができるようになっている。 ○ 全ページを通してユニバーサルデザインの観点で配慮した編集がされている。			

種目 美術

※「データの観点」の数値は、美術で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目		発行者番号・略称	9 開隆堂	38 光村	116 日文
共通データ	①総ページ数		200	208	198
	②題材数		33	44	50
	③1ページの標準文字数		518	446	534
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	33	44	50
		ページ数	132	124	128
		ページ割合(%)	40.1	59.0	42.6
	⑤佐賀県に関する項目		4	1	4
	⑥写真等の数	写真	951	1125	1169
		図表	55	132	67
		文章資料	512	568	547
種目別データ	⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	無	有
	⑧ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有	有
	⑨「絵や彫刻など、感じ取ったことや考えたことを基に発想・構想する」題材数と割合(%)	題材数	19	25	28
		ページ割合(%)	36.8	38	35.8
	⑩「デザインや工芸など、伝える、使うなどの目的や機能を考え発想・構想する」題材数と割合(%)	題材数	14	18	22
		ページ割合(%)	25.7	19.2	24.3
	⑪「鑑賞作品」の数	生徒の作品数	170	109	186
		プロの作品数	342	368	377
	⑫美術文化と関連した作品や写真の数		189	250	194

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。全学年の教科書の合計ページ数。

※③（標準文字数）：第1学年の教科書の（絵や彫刻など）「表現」「鑑賞」、（デザインや工芸など）「表現」「鑑賞」、学び（学習）を支える資料を扱ったページの最も多い文字数と最も少ない文字数を出し、平均した数。

※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。

※⑥（図表）：制作の参考となる図やスケッチなどの数。

※⑥（文章資料）：美術作品や生徒作品、作者等についての解説などの数。

保健体育

観 点

保健体育

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データの観点

1 共通データ

- 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程をどのように示しているか。また、この学習過程により、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成することができるように、どのような工夫や配慮が示されているか。

2 保健分野の内容及び取り扱いとの関連

- (1) 保健分野に配当する各学年の授業時数が、おおよそ均等な時間を配当できるように、適切な内容の配列や分量が示されているか。
- (2) 健康の成り立ちと疾病の予防における疾病の回復について、どのように示しているか。
- (3) 生活習慣と健康における食育の観点と踏まえた健康的な生活習慣の形成について、どのように示しているか。また、情報機器の使用と健康の関わりについては、どのように示しているか。
- (4) 生活習慣病などの予防におけるがんの取り扱いについて、どのように示しているか。
- (5) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康における心身への急性影響及び依存症や薬物について、どのように示しているか。また、覚醒剤や大麻等についてはどのように示しているか。
- (6) 感染症の予防における後天性免疫不全症候群（エイズ）及び感染症について、どのように示しているか。
- (7) 身体機能の発達について、呼吸器、循環器を中心にどのように示されているか。
- (8) 生殖に関わる機能の成熟における受精や妊娠及び、異性の尊重、情報への適切な対処や行動の選択について、どのように示しているか。
- (9) 欲求やストレスへの対処と心の健康について、体育分野「A 体づくり運動」の「体ほぐしの運動」との指導の関連をどのように示しているか。
- (10) 応急手当の意義と実際における包帯法、止血法など傷害時の応急手当や実習について、どのように示しているか。また、水泳など体育分野の内容との関連について、どのように示しているか。
- (11) 健康と環境について、地域の実態に即した、公害と健康との関係における取り扱いをどのように示しているか。
- (12) 自他の健康に関心をもち、健康に関する課題を解決できるような、学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫がどのように示されているか。

3 運動やスポーツの合理的な実践や科学的知識等

- (1) 運動やスポーツの多様性について、どのように示しているか。
- (2) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、どのように示しているか。
- (3) 文化としてのスポーツの意義について、どのように示しているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	保健体育	2	東書	新編 新しい保健体育
一【基礎・基本の習得】	○ 健康・安全についての学習課題を提示し、課題解決に向けて思考する場面とグループでの学習活動を設定し、基礎的・基本的内容の確実な習得を図ることができるよう工夫されている。 ○ 読み物資料が他の学習内容と関連しており、幅広い知識や技能を習得できるよう工夫されている。 ○ 「キーワード」を設け、補足説明として関連する資料と「キーワードの解説」(Dマークコンテンツ)を示すことで、より理解を深めることができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 各小単元は「見つける」から、「学習課題」「課題の解決」の発問、学んだ知識を「活用する」活動、見方・考え方を働かせて実生活に「広げる」という流れになっており、学びを深める学習形態が示されている。(ブレインストーミングやロールプレイングの導入・Dマークコンテンツを活用した学習) ○ 章末資料として、「キーワード」「章末問題」「日常生活に生かそう」「SDGsについて考えよう」の4つを提示し、実生活に活用する力を育成することができるよう工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 巻頭資料に、教科書の使い方や学習の流れ・学習方法が示されており、生徒が学習の見通しをもって、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 各小単元には、日常経験などから自他の課題発見や思考のきっかけとなる「見つける」、見つけた課題に対して、自らが読み解き判断する情報となる「課題の解決」、学び得た知識・技能を活用して、より深く考える「活用する」、学習したことを実生活に当てはめたり、更に調べたりする「広げる」という4つの学び方を通して、生徒が自ら深く考えることができるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 各章はじめに「小学校で学習したこと」「中学校で学習すること」「高校で学習すること」を明示し、小・中・高を通じて系統性が示されている。また、小学校の内容の振り返りがDマークコンテンツで簡潔にまとめられている。 ○ 「見つける」「学習課題」「課題の解決」という問いかけが各ページに提示され、学習の進め方が分かりやすく示されている。 ○ 補足説明は、実生活や実体験に近いイラスト付き文言で説明されており、生徒にとって親しみやすいものとなるよう工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 本文や図表には、読みやすさや見やすさを優先したUDフォントが使用されており、配色及びデザインについても色覚の多様性に配慮されている。 ○ 図表や挿絵は、学習内容と深く関わるものが精選されており、配置を統一することで必要な情報を見つけやすくする工夫がされている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	保健体育	4	大日本	中学校保健体育
一【基礎・基本の習得】	○ 学習すべき章全体の目標が明確であり、各小単元の冒頭で学習のねらいが明示され、合理的な解決に向けた学習過程が示されており、基礎的・基本的内容が確実に習得できるようになっている。 ○ 各小単元の「つかもう」では、身近な題材に触れ、興味・関心を高めることができるよう工夫されている。また、キーワードとして学習のポイントが示され、学習内容を整理することで、振り返りができるよう工夫されている。 ○ 各章末では、重要語句とその説明が簡潔に示され、その該当ページが記載されており、いつでもそのページに戻って振り返りができるように工夫されている。また、Webサイトに、各章で学んだ知識に役立つ「まとめの問題」が用意されており、知識の定着を図ることができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 各小単元で「やってみよう」「話合ってみよう」「調べてみよう」や学習のまとめで行う「活用して深めよう」等、様々な言語活動やグループ活動を示すことで、思考力・判断力・表現力等を育成することができるよう構成されている。 ○ 各小単元の「活用して深めよう」や各章末の「学びを活かそう」では、学んだことを実生活に生かすことができる課題が設定されており、保健体育の「見方・考え方」を働かせ、実生活の場面をより深く考えることができるよう工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 導入時の興味・関心を高める活動である「つかもう」では、身近な題材や日常生活について取り上げることで、生徒の学習意欲を高め、自ら学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 各小単位には「トピックス」や「ミニ知識」を提示し、学習の課題や内容をより幅広く学ぶことができるよう、生徒の興味や関心に応じた学習が展開できるよう工夫されている。 ○ 実生活に即したロールプレイングやコミュニケーションスキルを養う問題解決的な学習、体験的な学習などを通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた場が設定されている。			
四【説明の平明さ】	○ 「リンク」マークを用い、学習内容が他の単元にも関連していることが示されている。また「他教科」マークとともに教科名を示すことで、学習内容が他教科に関連していることが分かり、教科横断的な視点が分かりやすく示されている。 ○ 各小単元の見開き1ページは左側のページを平易で分かりやすい文章で表現し、右側のページはその文章ごとに関連した資料を提示し、生徒が理解しやすくなるよう配置されている。 ○ 各章の冒頭では、小・中・高の系統性や関連性を「小学校で学習したこと」「中学校で学習すること」「高校で学習すること」として、ひと目で分かるよう提示されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 写真、挿絵、図表などは、学習内容や日常生活と関わるものが精選されており、生徒の学習意欲を喚起したり、興味・関心を引いたりするものになるよう工夫されている。 ○ 各小単位において、学習内容の説明と資料が関連付けられており、本文の内容を深めることができるよう工夫されている。 ○ UDフォントやカラーユニバーサルデザインを踏まえた見やすい配色となるよう工夫されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	保健体育	50	大修館	最新 中学校保健体育
一【基礎・基本の習得】	○ 巻頭資料では、「教科書の使い方」「保健体育の学び方」を示し、学習の進め方を具体的に示すことで、より深く学び、基礎的・基本的内容を確実に習得できるよう工夫されている。 ○ 各学年において、小単元の合計数が19（体育理論3、保健分野16）に統一され、バランスよく適切な内容の配列と分量により、基礎的・基本的内容が習得しやすくなるよう工夫されている。 ○ 各小単元の「保体クイズにトライ」で学習内容を振り返り、基礎・基本の定着を促すよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 「学習のまとめ」では、新たな知識や概念的知識を獲得できるよう、身近な事柄を用いた問いかけがあり、各小単元で学んだことをより身近に感じ、実生活に関連付けて考えることができるよう工夫されている。 ○ 各小単元の最後に、「学習のまとめ」を示し、習得した知識を基に言語活動等を取り入れることで、思考力・判断力・表現力等を育成することができるよう工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 巻頭資料では「デジタル教材の使い方」を示し、豊富な動画コンテンツやデジタル教材を取り入れることで、主体的に学びを深めることができるよう工夫されている。 ○ 各小単元で「きょうの学習」と「キーワード」を並べて示すことで、本時の学習の見通しと学習内容が把握でき、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 各小単元にある「ほり下げる」では、本文に出てくる言葉などを詳しく解説することで、生徒の興味・関心を引くよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 日常生活から国際社会まで、保健体育に関わる出来事を切り取り、まとめた口絵に「共に生きる」と大きい字で目立つように題して、性別や障害の有無等に関わらない共生の視点が分かりやすく示されている。 ○ 「他教科マーク」や「関連マーク」を用いて、関連する内容が分かりやすく示されている。 ○ 各章の冒頭では、小・中・高の系統性や関連性を「小学校で学習したこと」「この章で学習すること」「高校で学習すること」として、平易な文章で分かりやすく示されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 各章の冒頭は、見開き1ページで、その単元で学ぶ内容をイラストや写真、説明文などで示すことで、その章全体を捉えやすくなるよう工夫されている。 ○ 各小単元では、本文と資料を明確に区別し、目盛や罫線にカラーユニバーサルデザインを採用するなどの配慮がされている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	保健体育	224	学研	新・中学保健体育
一 【基礎・基本の習得】	○ 章全体の目標や学習内容が明確に示されている。また、各小単元の冒頭に学習の課題やキーワードが示され、学習の見通しをもちながら学習できるよう工夫されている。更に、章のまとめの「振り返ろう」を用いて、個に応じた学習支援として活用し、基礎的・基本的内容を習得できるよう工夫されている。 ○ 各章の「章のまとめ」に「この章で学んだキーワード」を提示することで、基礎的・基本的な知識の確認ができ、学習内容を振り返ることができるよう工夫されている。 ○ 「章デジ」のコードを読み取り、デジタルコンテンツを活用し、関連した内容を幅広く学習することができ、学びを深めることができるよう工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 各小単元の「ウォームアップ」では、身近な事例から学習する課題を考えることができるように工夫されている。 ○ 「エクササイズ」や「学びを生かす」では、学習した知識を用いて、資料を活用し、身近な課題の解決や学びを生かすことができるよう工夫されている。 ○ 発展的な学習ができる「探究しようよ！」では、身に付けた基本的な知識を用いて、自ら課題の解決に向けて、周囲と協働しながら学習できるよう工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 各小単元において、「わかる」「考える」の観点から学習の課題が明記されており、本時の課題をひと目で捉え、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 基本的な学習の進め方として「ウォームアップ」→「学習の課題」→「本文と資料」→「エクササイズ」→「学びを生かす」と流れが統一されており、生徒が主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。 ○ 学習内容を深く考えることができるよう、「もっと広げる・深める」「探究しようよ！」を示し、主体的な学習態度の育成が促されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 各章の扉で小単元の内容が文章や写真、図によってわかりやすく示されている。また、小学校、中学校、高等学校の学習内容を提示し、系統性がわかりやすく示されている。 ○ 身近な問題や自他の問題として取り組むことができる写真や資料、情報が提示されている。また、本文に対する資料の配置が見やすくなるよう配慮されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 「ウォームアップ」「学習の課題」「エクササイズ」「学びを生かす」などの課題は、本文と明確に区別できるよう別の色で示されている。 ○ 本文はページの左側に配置し、資料は右や下にまとめるなど、関連等が分かりやすく示されている。			

種目 保健体育

※「データの観点」の数値は、保健体育で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目			2	4	50	224
発行者番号・略称			東書	大日本	大修館	学研
共通データ	①総ページ数		198	196	206	206
	②単元数	大単元	9	9	9	9
		小単元	53	49	58	45
	③ 1 ページの標準文字数		510	581	513	670
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	71	69	48	75
		ページ数	54	53	48	64
		ページ割合 (%)	35.8	27.3	23.3	31.0
	⑤佐賀県に関する項目		0	0	0	0
	⑥写真等の数	写真	151	136	173	171
		図表	252	217	213	150
		文章資料	45	36	40	48
	⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有	有
⑧ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有	有	有	
種目別データ	⑨生活の現象・実態に関連付けた学習課題数		54	42	53	51
	⑩実験・実習の数		6	5	10	4
	⑪発展的学習の数		12	10	13	12

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。

※③（1ページの標準文字数）：小単元のタイトル等を除く、本文の文字数。

※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に、「考える」「話し合う」「伝える」に準じた内容や提示の充実が図られているかで判断し、その題材が記載されたページの合計数を表示。

※⑥（写真）：大きさの大小は問わず1つと数え、内容の理解を深めるための写真の数。

※⑥（図表）：通し番号が付いている図や表の数。

※⑥（文章資料）：「読み物」「コラム」「トピックス」など文章で説明されている資料の数。

※⑪（発展的学習の数）：生徒の興味・関心に応じて取り組む学習課題の数。

技術・家庭

(技術分野)

観 点

技術・家庭（技術分野）

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまずきやすい内容の繰り返し学習や補足的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにするために、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解が深まるような内容が示されているか。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、様々な解決策を想定し、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養うために、どのような実践的・体験的な活動を示しているか。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような実践的・体験的な活動を示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

- (1) 3年間の見通しを持たせるための技術分野ガイダンス的な内容をどのように示しているか。
- (2) 材料の加工と利用方法、材料に適した加工法を知り、工具や機器を安全に使用することについてどのように示されているか。
- (3) 機器の基本的な仕組みを知り、保守と事故防止ができることについてどのように示されているか。
- (4) エネルギー変換に関する技術の適切な評価・活用を考えることについてどのように示しているか。
- (5) 生物育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知ることについてどのように示しているか。
- (6) 生物育成に関する技術の適切な評価・活用を考えることについてどのように示しているか。
- (7) 目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培又は飼育ができることについてどのように示しているか。
- (8) 著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルを考えることについてどのように示しているか。
- (9) 生活や社会における問題を、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングにより解決する活動についてどのように示しているか。
- (10) コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みを知り、情報処理の手段を考え、簡単なプログラミングが作成できることについてどのように示しているか。

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	技術・家庭 (技術分野)	2	東書	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology
一 【基礎・基本の習得】	○ 重要語句はゴシック体で強調し、基礎的・基本的な知識を習得できるように工夫されている。 ○ 各編は、「編の導入」「基本ページ」「学習のまとめ」の構成で統一し、問題解決例や資料が適切に取り上げられている。 ○ 各節の始めには「始めの活動」と「学習課題」を設け、課題意識をもって毎時の学習に取り組めるようになっている。			
二 【活用する力の育成】	○ 「技術のめがね」や「最適化の窓」を設け、社会における技術を見ることで技術の見方・考え方に気付き、技術の工夫や技術による最適化について考えることができるようになっている。 ○ 「問題の発見、課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「評価、改善・修正」の流れを統一的に示し、問題解決への見通しをもって取り組めるようになっている。 ○ 「リンク」「他教科」「小学校」マークを用いて教科間の連携を高めたり、他教科や小学校での学習に関連する内容を示し、学習の理解を深めたりできるように工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 主体的で深い学びの実現のために、「考えてみよう」「やってみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」などの活動が多く取り上げられている。 ○ 節の最後に「まとめよう」「振り返ろう」「深めよう」を設け、学習を振り返り、次の学習に向けて、主体的に取り組めるように配慮されている。 ○ 学習への興味・関心を高められるように、写真やイラストなどの資料が効果的かつ豊富に用いられており、二次元コードも充実している。			
四 【説明の平明さ】	○ 科学的な根拠に基づく知識が習得できるように、技術の原理・法則や基礎的な技術の仕組みについて、本文の内容を裏付ける図や写真が掲載されている。 ○ 本文を補足したり、応用したりする内容は、側注や資料などのコラムで、本文とは分けて記述されている。 ○ 問題解決をするために身に付ける必要がある技能は、副題材の実践例や「TECH Lab」にまとめ、取り組む課題に応じて習得した技能が選択できるようになっている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 生徒が認識しやすいように、書体はUDフォントが使用されている。振り仮名は、可読性を高めるために、特別支援教育で推奨されている丸ゴシック体が使用されている。 ○ カラーユニバーサルデザインの観点から、配色とデザイン、図版やイラストの配置について専門家の校閲を受けている。 ○ 基本ページでは、「目標」「始めの活動」「学習課題」「まとめの活動」などが全て同じ配置になっている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	技術・家庭 (技術分野)	6	教図	新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する
一 【基礎・基本の習得】	○ 学習指導要領の目標に対応した系統的な配列になっており、技術の見方・考え方を働かせて問題解決能力を身に付けられる構成になっている。 ○ 基礎技能や作業場の安全面について掲載された別冊「スキルアシスト」を参照することで、実習・製作に必要な技能を身に付けられるようになっている。 ○ 二次元コードを実習題材や別冊「スキルアシスト」に付けることで、学習を深め、理解をより確かなものにする工夫がされている。			
二 【活用する力の育成】	○ 「見つける」の生徒同士、生徒と教師との対話によって、技術への関心を喚起し、生徒が自覚的に技術の見方・考え方を働かせられるようになっている。 ○ 問題解決の流れをつかみ、技術の見方・考え方を働かせ、見通しをもって技術による問題解決に取り組めるようになっている。 ○ 「スゴ技」「技ビト」のコラムでは、社会でどのように技術が活用されているかを考えることができるように示されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 「見つける・学ぶ・ふり返る」を基本配列とし、「学習意欲を喚起→自主的に学習→学習理解の確認」ができるように構成されている。 ○ 主体的で対話的な活動を通じて自らの設計を振り返り、深い学びが実現できるように配慮されている。 ○ 「やってみよう」に結果をまとめ、話し合いや発表などに活用できるレポートが掲載されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 各内容の分量は、授業時数、学期、学年配分などに配慮し、偏りなく扱えるように構成されている。 ○ 生徒が主体的に学習できるように、丁寧な記述、文章の充実がされており、取り組みやすい題材を取り上げている。 ○ 基礎技能や作業場の安全面について掲載された別冊「スキルアシスト」を参照することで、作業工程や時間を設定し、見通しをもって設計・計画を立てることができるように配慮されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 必要な写真・イラスト・図表などを適切な箇所に配分するなど、構成の工夫がされている。 ○ UDフォントが使用されており、カラーバリアフリーの観点から、配色等に関する専門家の校閲を受けている。 ○ 生徒が読みやすいように、本文の文字の大きさに配慮されており、重要語句は、視認性を高めるために、青太文字にされている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	技術・家庭 (技術分野)	9	開隆堂	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて
一【基礎・基本の習得】	○ 各小項目に「学習課題」が設定され、適所に配置している「実験」や「やってみよう」などの活動を通して、他者との関わりをもちながら、技術の理解を深められるように工夫されている。 ○ ガイダンスのページで、技術の見方・考え方について図表を用いて説明し、各内容において、技術の見方・考え方を働かせて既存の製品を読み解く活動が設けられている。 ○ 写真や図表を多く用い、重要語句などは強調表示することで学習内容を理解することができるように配慮されている。			
二【活用する力の育成】	○ 各中項目のまとめとして、ワークシートを活用し調べたことや考えたことを文章でまとめる活動が設けられている。 ○ 実習例では、技術の見方・考え方を働かせながら、問題解決の評価と改善まで考えられるようにしたり、技術の見方・考え方を振り返り、生徒自身が活用について考えたりできるようになっている。 ○ 持続可能な社会を実現するために、SDGsと関連させながら、技術と社会・環境との関わりを捉えることができるようになっている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見出し、課題を設定して解決を図る力を身に付けることができるようになっている。 ○ 各内容の学習課題は、小項目全体が解説されており、技術の評価・活用を適切に理解できるようになっている。 ○ 二次元コードを読み取ると、学習活動と一体化したデジタルコンテンツが表示され、個別最適な学びが実現できるように考慮されている。			
四【説明の平明さ】	○ 各内容の題材が「導入」→「基礎学習」→「展開」→「まとめ・評価」の順で系統的・発展的に構成されており、学習が見通しやすくなっている。 ○ 各小項目は、基本的に「学習の目標」「学習課題」「内容」「CHECK」で構成されており、学習の流れが分かりやすく示されている。 ○ 小学校や他教科とのつながりが各内容の扉ページで示されている。また、文中で関連がある箇所にはマークが示されており、小学校での既習事項や教科横断的な学びを意識しながら、生徒が学習を進められるようになっている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 文章と図表がバランスよく配置されており、生徒が読み進めやすいように工夫されている。 ○ 配色及び可読性に配慮されており、専門家による校閲を受けている。 ○ 写真や図版が鮮明で、必要な箇所では、生徒が自分で作業をしているように見える角度で撮影した写真が使用されている。			

種目 技術・家庭（技術分野）

※「データの観点」の数値は、技術・家庭（技術分野）で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目		2 東書	6 教図	9 開隆堂
共通データ	①総ページ	298	304	314
	②単元数	大単元	6	6
		小単元	64	28
	③1ページの標準文字数		581	473
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	4	4
		ページ数	25	11
		ページ割合（%）	8.4	3.6
	⑤佐賀県に関する項目		0	1
	⑥写真等のページ数	写真	204	225
		図表	278	274
		文章資料	297	302
	⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有
	⑧ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有
種目別データ	⑨実践的・体験的な学習活動のページ数		96	116
	⑩安全・衛生・防災に関する記述のページ数		23	32
	⑪環境・SDGsに配慮する視点のページ数		19	10

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。

※②（大単元）：ガイダンスを含む。

※③（1ページの標準文字数）：東京書籍は30ページ、教育図書は18ページ、開隆堂は36ページを共通項目として取り上げ割り出した数。

※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。

※⑥（写真等のページ数）：写真等が掲載されているページ数。

※⑥（文章資料）：教材について、補足的に説明しているページ数。

※⑨（実践的・体験的な学習活動のページ数）：記号等を用いて表記している実験や製作などに関するもののページ数。

※⑩（安全・衛生・防災に関する記述のページ数）：記号等を用いて表記している安全・衛生・防災に関するもののページ数。

※⑪（環境・SDGsに配慮する視点のページ数）：記号等を用いて表記している環境・SDGsに関するもののページ数。

技術・家庭 (家庭分野)

観 点

技術・家庭（家庭分野）

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまづきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにするために、どのような実践的・体験的な活動を示しているか。

(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養うために、どのような実践的・体験的な活動を示しているか。

(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような実践的・体験的な活動を示しているか。

2 教科の内容との関連

(1) 衣食住などに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活や社会における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実を図ることについて、どのように配慮しているか。

(2) コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、実習等における情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるように工夫することについて、どのように配慮しているか。

(3) 基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや感性の喜びを体得させるよう、実践的・体験的な活動の充実を図ることについて、どのように配慮しているか。

(4) 生徒のキャリア発達を踏まえて、学習内容と将来の職業選択や生き方との関りについて扱うことについて、どのように配慮しているか。

(5) 資質・能力の育成を図り、一人一人の個性を生かし伸ばすよう、生徒の興味・関心を踏まえた学習課題の設定、技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など個に応じた指導の充実に努めることについて、どのように配慮しているか。

(6) 学習した知識及び技能を生活に活用したり、生活や社会の変化に対応したりすることができるよう、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する学習を充実するとともに家庭や地域社会、企業などの連携を図ることについてどのように配慮しているか。

(7) 安全・衛生に留意することについて、どのように示されているか。

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	技術・家庭 (家庭分野)	2	東書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して
一 【基礎・基本の習得】	○ 各題材の初めに「レッツスタート」として活動が明示され、学習内容への関心を高めるとともに、生徒が取り組みやすいように工夫されている。 ○ 各題材の初めに重要事項がキーワードとして提示され、学習の見通しや振り返りの場面で確認することができ、語句の定着を図ることができるように工夫されている。 ○ 必ず身に付けさせたい技能は、「いつも確かめよう」のページや動画で確認することができるようになっている。また、スナップ付けの習得では、失敗例を示すことで、生徒が自分の間違いに気付き、正しい技能を身に付けることができるように工夫されている。 ○ 各題材の最後に「まとめよう」が設けられ、まとめの活動に取り組むことで知識の定着が図られるように配慮されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 各内容の初めに関連する小学校での学習内容とこれから学ぶこと、重視する見方・考え方、関連する家族・家庭の基本的な機能を示すことで、生徒が学習の見通しや視点をもって考えることができるように工夫されている。 ○ 導入や展開の場面で、自分の考えがまとめられるワークシートや思考ツールを活用したコンテンツなどによって、意見を交流し、共有し、思考を深めることができるように工夫されている。 ○ 調理の実習例は主題材と参考題材で51題材、布を用いた製作の実習例は25題材、幼児との触れ合い実習は「施設訪問」「中学校への招待」「写真・動画での観察」の3例を取り上げ、各学校の実態に応じて実践的・体験的な学習活動が行えるように工夫されている。 ○ サステイナブルクッキングの紹介や環境に配慮した調理が提案されており、実生活・実社会に生かすことができるように工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 各内容の導入において、関連する見方・考え方がマークやイラストを用いて解説されており、キャラクター「ミカッタ」のせりふは見方・考え方を示唆する内容になっており、生徒が見方・考え方を働かせて思考し、深い学びが実現できるように工夫されている。 ○ 物事を考えたり意見を整理したりする際に有効な思考ツールを活用した「主体的・対話的で深い学び」を通して、問題解決的能力を高めることができるように工夫されている。 ○ 各題材の最後に「生活に生かそう」「まとめよう」の活動が設けられており、学習を振り返り、次の学習に向けて、主体的に取り組めるように配慮されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 内容Aの幼児や高齢者の学習が後半に位置付けられ、高等学校への円滑な接続を促すことができるよう配慮されている。 ○ 「未来につながる家庭分野」を巻頭に位置付け、小学校での学習を踏まえて中学校で学習することを概観し、家族・家庭の基本的な機能を押さえたうえで学習を進めることができるように工夫されている。 ○ 他教科の関連が随所に示されているほか、他教科リンクマークのDマークでは紙面を実際に見ることができるように工夫されている。 ○ 各内容の導入には、「小学校家庭科での学習」をチェック形式で示し、学習の関連を図ることができるように工夫されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 調理実習のページでは、アレルギーを含む物質に注意マークが付けられており、アレルギー食材が確認できるように配慮されている。 ○ 実習や製作は、横流れの配置になっており、調理の手順を写真とともに横の流れで示すことによって、食品の科学的な変化が分かるように工夫されている。 ○ 栄養素の学習では、折り込みページを広げると、栄養素の働きの図表と食品群の図表がつながり、各栄養素を多く含む食品をイメージしながら学習できるように工夫されている。			

I 基本的観点

観 点 項 目	教科	発行者の番号・略称		書名
	技術・家庭 (家庭分野)	6	教図	新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する
一 【基礎・基本の習得】	○ 知識・技能が習得しやすいように、学習のめあてがはっきりと示されており、「ふり返る」でめあての内容が身に付いたかをチェックすることができるように工夫されている。 ○ 重要な語句は、青の太字で示されたり、題材ごとにキーワードが示されたりと知識習得につながるように工夫されている。 ○ 各単元の最後に学習内容を振り返るページが設けられ、知識の確認ができるように構成されている。 ○ 調理実習例の冒頭にあるクエスチョン（科学的な視点）により原理原則を知り、考えることで、学習した内容が定着できるように工夫されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 調理実習や布を使った製作では、初めに基礎・基本を身に付ける実習例、次に自分でアレンジして作る実習例が掲載されており、最後の「学びをいかそう」では、学んだ知識・技能を実生活に生かせるような構成になっている。 ○ すべての内容が問題の発見から課題の解決、次の課題へつなげる6つのステップで統一され、問題解決的な学習の流れで取り組むことができるように配慮されている。 ○ 災害時の食生活として、ポリ袋を使った調理を紹介したり、考える活動として缶詰や乾物を使用した料理や水を使用しない料理を提示したりと、実生活・実社会に生かすことができるように工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 各題材の導入「見つめる」では、写真やイラストを掲載し、生徒が身近な場面から見方・考え方を働かせて気づきを得られるように工夫されている。 ○ 実習題材は、基本の作り方をもとに、生徒一人一人が工夫を加えることができるように、工夫の例が示され、生徒が自ら考えることができるように配慮されている。 ○ 「やってみよう」「話し合ってみよう」など、実践的・体験的な活動を通して、主体的・対話的に学ぶことができるように工夫されている。 ○ 問題解決的な学習ができる「学びをいかそう」のページでは、見方・考え方の視点に沿って知識・技能を振り返ることができ、生徒が自ら課題の解決に取り組めるよう工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 他教科や小学校など、他の学習との関連がマークで示され、生徒が見通しをもって学習できるように工夫されている。 ○ ガイダンスで説明されているように、「つなぐ、つながる」をテーマとし、家族、家庭、地域へと学びがつながっていくことが的確に示されている。 ○ 食品成分表では、各食品名の左に6つの基礎食品群及びその他を表すマークが表示されており、6つの基礎食品群の分類が確認できるように配慮されている。 ○ 調理実習例は基本的な操作を含んだものに厳選されており、全てのレシピが写真付きの手順で分かりやすく説明されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 調理実習のページでは、アレルギーを含む物質に下線が引かれており、アレルギー食材が確認できるように配慮されている。 ○ AB版（210×257mm）より横が7mm小さく、縦が7mm大きいオリジナルサイズになっており、机の上で場所を取らず使いやすいように配慮されている。また、実習や製作は、縦の流れで配置されており、手順は端的な文章で説明され、分かりやすい紙面になるよう配慮されている。 ○ 野菜の切り方では、切り方の名前の由来となる写真を一緒に載せてあり、生徒がイメージしやすいように工夫されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	技術・家庭 (家庭分野)	9	開隆堂	技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ
一【基礎・基本の習得】	○ 衣食住に関して、科学的根拠による記述で「なぜそのようになっているのか」が理解できるようになっている。調理実習では、「調理方法Q&A」を取り上げたり、洗濯実習では、洗剤の働きについて原理を理解したうえで実習が進められるようにしたりと工夫されている。 ○ 実験を通して、目には見えない栄養素や衣類の汚れなどが視覚的に示されており、より深い理解につながるよう工夫されている。 ○ 各単元の最後に知識等を問う問題があり、基礎的な知識等の確認ができるように配慮されている。 ○ 教科書全体を通して、学習の案内役の4人の中学生と補足するキャラクターが登場し、生徒が「自分事」として興味・関心をもって学習を進めることができるように工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 各内容の最後に「学習のまとめ」として記述問題を含む振り返りの問題が設定され、生徒が考えをまとめ、表現する力を付けることができるように工夫されている。 ○ MLBで活躍する選手やLGBTQなど現代社会で取り上げられている事例を掲載し、生徒が関心をもって学習に取り組み、自ら深く考え、視点を広げることができるように工夫されている。 ○ 防災食として高密度ポリエチレンの袋を利用した調理を紹介し、実生活・実社会に生かすことができるように工夫されている。 ○ 弁当を例に栄養素のバランスを自分で判断できる課題が提示されており、実生活に生かすことができるように工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 生徒の身近な話題や生活の具体的な場面から各題材が導入されており、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 各題材は「学習の目標」で始まり、問題解決型学習を通して、「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」の生活の中から考えたり、実践したりする課題を通して生活に生かす力を身に付けることができるように工夫されている。 ○ 問題解決の手掛かりとなる例示や写真・図表・イラスト等が適切に記載されており、主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。 ○ 家庭科の学び方と身に付けたい力や自立と共生、生活課題の見つけ方等のガイダンスが充実しており、家庭科を学ぶ意義を生徒が意識しながら学ぶことができるように配慮されている。			
四【説明の平明さ】	○ 「小学校との関連マーク」を設け、小学校で学んだ学習を振り返り、中学校の学習に生かすことができるように配慮されている。また、高等学校に関連が深い内容は「発展」として明示されている。 ○ 技術分野や他教科に関連するページに、「他教科・他分野との関連マーク」を付けて具体的事項を示すことで、技術分野や他教科とのつながりを意識しながら学習することができるように配慮されている。 ○ アレルギー物質を含む食材を色塗りしてひと目でわかるように表示してあり、アレルギー食材が確認できるように配慮されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 「一日にとりたい食品の重量」や「年齢別の幼児の手・足」などが大きさの感覚がつかめるように実物大写真で示されており、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができるように工夫されている。 ○ 調理実習例が基本的な操作を含んだものに厳選されており、全てのレシピが写真付きの手順で説明されている。 ○ 実習や製作が横流れの配置になっており、ひと目で実習や製作の手順等がわかるように配慮されている。			

種目 技術・家庭（家庭分野）

※「データの観点」の数値は、技術・家庭（家庭分野）で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目		発行者番号・略称	2 東書	6 教図	9 開隆堂
共通データ	①総ページ数		298	296	314
	②単元数	大単元	6	3	5
		小単元	18	10	26
	③1ページの標準文字数		367	381	348
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	59	46	67
		ページ数	95	99	62
		ページ割合(%)	31.9	33.7	19.8
	⑤佐賀県に関する項目		2	3	1
	⑥写真等の数	写真	174	207	227
		図表	173	124	171
		文章資料	40	32	70
種目別データ	⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有
	⑧ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有	有
	⑨実践的・体験的な学習活動の数		96	96	103
	⑩安全・衛生に関する記述の数		16	33	30
種目別データ	⑪消費・環境に配慮する視点の数		40	27	9

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。

※③（1ページの標準文字数）：東京書籍はP34、教育図書はP80、開隆堂はP102を参照して割り出した数。

※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。

※⑥（写真等の数）：総ページ数から文字とイラストのみのページを差し引いた数。

※⑨（実践的・体験的な学習活動の数）：実験・実習・観察・見学・調査・研究等に関する記述数。

※⑩（安全・衛生に関する記述の数）：安全・衛生に関する記述数。

※⑪（消費・環境に配慮する視点の数）：消費・環境に関する記述数。

英語

観 点 英 語

I 基本的観点

1 【基礎・基本の習得】

学習指導要領に示された各教科の目標、内容に基づいて教材の内容を厳選しているか。

つまずきやすい内容の繰り返し学習や補充的な学習を指導しやすいよう構成するなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得が図られるように編集しているか。

2 【活用する力の育成】

生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、習得した知識を、言語活動や体験活動等により活用し、新たな知識や概念的知識を獲得するような単元構成であるか。また、実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題、題材は充実しているか。

3 【主体的な学習態度の育成】

学習内容について、生徒が自ら深く考えるきっかけとなるように導入や学習方法、教材を工夫しているか。また、内容は、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や体験的な学習などを行うことができるような教材が充実しているか。

4 【説明の平易さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

5 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 教科の目標との関連

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにすることについて、どのように示しているか。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養うことについて、どのように示しているか。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことについて、どのように示しているか。

2 教科の内容との関連

- (1) 実際に英語を用いた言語活動を通して、五つの領域別の目標を達成するのに必要な言語材料を理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができることについて、どのように示しているか。
- (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関して、以下のような具体的な課題やコミュニケーションを行う目的や場面、状況をどのように示しているか。
 - ① 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えることをどのように示しているか。
 - ② 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現することをどのように示しているか。
 - ③ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うことをどのように示しているか。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	2	東書	NEW HORIZON English
一【基礎・基本の習得】	○ 各単元は、「扉」(ゴールの確認／導入)→「Part 1～2」(概要を把握する読み方)→「Read and Think 1～2」(繰り返し読むことで考えを深めて表現する)→「Unit Activity」(ゴールの活動)で構成されている。単元末活動から逆向き設定で言語活動が設定されており、段階的に学習することができるように工夫されている。 ○ 「Part 1～2」の構成は、本文→新出語彙→新出文法→自己表現の流れとなっており、文脈の中で語彙や文法と出会ったり、スモールステップで英語力を身に付けたりできるように工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 各単元の最後に「Unit Activity」、さらに複数の単元を貫くゴールの活動として年3回の「Stage Activity」が設定されている。目的や場面、状況等を意識し、思考力・判断力・表現力等を五つの領域でバランスよく身に付けることができるよう工夫されている。 ○ 各単元の「Read and Think」の「Round 3」では、本文を読んで自分の考えを英語で発信する活動や内容を再構築して伝え合うリテリング活動が設定されており、深い思考を促す工夫がされている。 ○ 実生活の一場面を想定したコミュニケーション力を高めるために、「Real Life English」では、目的や場面、状況等が設定されており、より実践的な表現を身に付けることができるように工夫されている。 ○ SDGsと関連する題材を豊富に取り扱い、英語を学びながら世界の諸問題を当事者として捉え、課題解決できるよう工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 中学校3か年及び高等学校までの「CAN-DOリスト」を載せることで、教師と生徒が学習目標や各学年の英語学習を通して目指す生徒の姿を共有できるように工夫されている。 ○ 各単元の1ページ目(扉)に、写真やイラストとともに題材に関する問いや単元ゴールを示すことにより、単元を通して目的意識をもちながら言語活動に取り組むことができるように工夫されている。 ○ 学習者用デジタル教科書は、動画コンテンツが豊富に掲載されている。特に基本文解説動画では、各文法項目の解説を4人の講師が行い、何度も学び直しができるように工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 第1学年では、「小学校の単語」630語を中心に、「Unit 5」までの単元で小学校の復習をしたり、各単元を聞く活動から始めたりするなど、スムーズな小中接続ができるように工夫されている。 ○ 中学校3年間の到達目標に向けて、各単元の構成やつながりが系統立ててあり、さらに小学校と同じテーマを中学校でも扱うことで、生徒の思考を深める工夫がされている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 文字習得の負担軽減のために、UDフォントが第1学年全編で使用されている。 ○ 写真やイラストなど視覚的な資料が豊富で、生徒の学習意欲を高めたり、場面や内容の理解を促したりするだけでなく、リテリング活動などの表現活動を行いやすいように工夫されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	9	開隆堂	Sunshine English
一【基礎・基本の習得】	○ 3年間各単元を「学習の見通し」（とびら）→「知識及び技能」の習得（Scenes for Basic Dialogs、Tuning in）→思考力・判断力・表現力等の育成（Review & Retell、Action）の流れで構成し、段階的に自己表現活動につなげることができるよう工夫されている。 ○ 各パートでは、聞くこと、読むことを中心とした活動ができ、「Q&A」で内容理解ができたかの確認ができるよう工夫されている。 ○ 「Scenes for Basic Dialogs」では、場面を表す絵を見ながら、短い対話を聞いたり、話したりすることで新出文法を学び、基礎・基本の定着ができるよう構成されている。			
二【活用する力の育成】	○ 五つの領域を統合した学期末の言語活動（Our Project）が3年間で8回設定されており、各単元活動（Action）で学んだことを活用する活動の中で、段階的に言語活動に取り組むことができるよう構成されている。 ○ 「Review & Retell」では、本文内容を振り返るためにイラストに合う英語を自分の言葉で表現できるよう構成されている。 ○ 各単元に「Small Talk」のトピックがあり、即興で話す力が身に付くよう工夫されている。また、「POWER UP」では、実生活に即した具体的な目的や場面、状況などが設定されており、より実践的な表現を身に付けることができるように工夫されている。 ○ SDGsに関連した題材、異文化理解や日本文化等の題材を扱うことで、広い視野から国際理解を深め、豊かな感性を育むことができるよう工夫されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 巻末資料の「CAN-DOリスト」では、単元ごとの五つの領域において、具体的かつ簡便に自己評価ができるよう工夫されている。 ○ 五つの領域を統合した言語活動（Our Project）は、協働的な学びを通して課題解決に向かうよう構成されている。また、スピーチなどの発表後に、自己の活動の振り返りができ、次の言語活動に生かすことができるよう工夫されている。 ○ 各単元に「とびら」のページがあり、目標やどのようなことができるようになるかの確認ができ、生徒が学習の見通しを立てることができるよう工夫されている。 ○ 二次元コードを活用することで、単語学習アプリ等で自主的な学習ができる工夫がある。			
四【説明の平明さ】	○ 3年間で3種類の書体が使用されており、第1学年最初の時期は、小学校と同じ書体を使用し、スムーズに中学校への接続ができるよう工夫されている。 ○ 第1学年「Program 1」に入る前に、小学校の学びを振り返る活動「Get Ready」が全6時間設けられており、小学校とのつながりが確認できるよう構成されている。 ○ 各単元後の文法事項のまとめ（英語早わかり）では、品詞別に色分けされ、大切なところの確認しやすくなるよう工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 配色がよく、写真やイラスト、挿絵が豊富であり、場面や状況をイメージでき、学習者に配慮した工夫がされている。 ○ A4版の大きさを採用することで、読みやすくなるよう配慮されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	15	三省堂	NEW CROWN English
一【基礎・基本の習得】	○ 各単元は、目標を確認する「とびら」→新出文法事項や新出表現を含む本文を学ぶ「Part 1～2」→漫画を通して大切な表現を学ぶ「Side Story」→題材に関連したテーマに関してやり取りする「Small Talk Plus」→文を組み立てて書いたり、発表したりする「Goal Activity」の流れで構成されており、生徒が五つの領域をバランスよく学習できるよう工夫されている。 ○ 各単元のパートごとに「Check」で基本文の整理・練習をし、「Exercise」で聞くこと、話すことの活動を通して、基本文を習得することができるよう工夫されている。 ○ 各単元の本文が70語程度の短い英文となっており（第3学年）、生徒が基礎的・基本的な語句や表現方法を習得することができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 五つの領域を統合した言語活動（Project）が、各学年で3回ずつ設定されている。生徒の想像力をかきたてるテーマや目的を設定し、既習表現を活用しながら思考、判断、表現し、英語で発信する力が育つよう工夫されている。 ○ 実生活に即した場面や状況に応じて、聞いたり、話したり、読んだりする「Take Action!」や、単元の題材に関連したテーマに関して会話する「Small Talk Plus」では、話を広げるための方法などが学べるよう工夫されている。 ○ 生徒の知的好奇心や発達段階に合った題材が配置されており、身のまわりの問題や社会的な課題について考える工夫がされている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 資料として「CAN-DOリスト」が入っており、生徒自身が何をできるようになったかを確認できるよう工夫されている。 ○ 各単元の1ページ目（とびら）に、単元のテーマや目標、内容に関連した写真やイラストを示し、生徒が学びの見通しを立てやすくなるよう工夫されている。 ○ 五つの領域を統合した言語活動（Project）では、生徒が身近な話題やテーマについて情報を整理しながら、英語で発信する力の育成につながるよう工夫されている。 ○ 二次元コードを掲載し、生徒が必要に応じて、発音、単語、基本文などを学習できるように工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 「Language Focus」では、基本文の使用場面を提示し、短い文脈の中で確認しやすくなるよう工夫されている。 ○ 「For Self-study」では、英語の学び方を学ぶという目的で、生徒がつまづきを認識し、一人一人に合った学び方を見つけられるよう工夫されている。 ○ 言語材料や言語活動は、簡単なものから複雑なものへと段階的に配列されており、生徒が系統立てて学習できるように工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 絵や写真を本文の内容に沿って配列したり、英文のレイアウトを簡素化したり、生徒が内容を理解しやすいように工夫されている。 ○ A4判を採用し、イラストや写真が大きく見やすいように工夫されている。また、ユニバーサルデザインに配慮したフォントが使用されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	17	教出	ONE WORLD English
一【基礎・基本の習得】	○ 各単元の構成は、「Goal」を確認し、題材への興味を喚起する「扉」→言語材料の習得や本文を扱う「Part 1～3」→達成度の振り返りを行う「Task」→文法事項を説明する「Grammar」→五つの領域の技能を統合的に活用し課題解決に取り組む「Project」で構成されており、生徒が段階的に英語の力を伸ばすことができるように工夫されている。 ○ 「Part 1～2」では、本文を参考にやり取りを練習し、「Part 3」では、本文の概要・要点整理や本文から派生した活動に取り組むことで、段階的に話すことの力を身に付けることができるように工夫されている。 ○ 語彙については、話したり、書いたりすることができるようになる語彙（発信語彙）を太字で表記することで、確実に語彙を習得することができるよう工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 単元間には適所に「Activities Plus」や「Useful Expressions」が設けられており、即興でやり取りをしたり、現実的な場面に即した表現に慣れ親しんだりすることで、応用力を身に付けることができるように工夫されている。 ○ 「Tips」では、五つの領域のそれぞれの技能の基礎的な力を付け、さらに思考力・判断力・表現力等を伸ばすためのアドバイスが示されている。 ○ 「Project」では、各学年の発達段階に応じた活動が示されており、生徒が考えなどを整理し、伝え合うことができるよう工夫されている。 ○ 日常生活から社会や将来へ考えを広げることができるように、3年間を通して他教科やSDGsに関連した題材が多く単元で取り上げられている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 「CAN-DOリスト」において、3年間の学習目標が示されている。また当該学年のリストには、到達目標と扱う単元が示されており、自己評価ができるように工夫されている。 ○ 各単元の1ページ目（扉）では、その単元のゴールとして「内容理解」と「活動」が明示されており、生徒が見通しをもって学習することができるよう配慮されている。 ○ 学習者用デジタル教科書では、音読のスピードの調節機能や、音声録音・再生機能があり個別最適な学びができるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 「Springboard 1～6」では、小学校の外国語活動で行ったコミュニケーション活動の振り返りを行うことができるように工夫されている。 ○ 第1学年の「Lesson 1～2」は、本文をマンガのコマ割りのようにレイアウトすることで、「読むこと」への負担感を減らし、無理なく中学校での学習に進むことができるよう工夫されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 発達段階に応じ、第1学年前半、後半、それ以降の学年で書体を変える配慮がされている。 ○ 挿絵・図版・写真は、生徒の学習意欲を高めるものや文章の理解を助ける資料性の高いもの、作品世界を活かし、生徒が想像力を高めるものが使用されている。 ○ 使われている色の識別がしやすく、生徒にとって分かりやすくなるよう工夫されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	38	光村	Here We Go! ENGLISH
一【基礎・基本の習得】	○ 各単元は、「扉」（目標の確認）→「Part 1～3」（基礎・基本の習得）→「ゴール」（五つの領域を生かした言語活動と振り返り）で構成されており、生徒が学んだことを積み上げながら、英語の力をバランス良く習得できるように工夫されている。 ○ 帯教材「Active Words」はカテゴリーごとに語彙が整理され、各単元の言語活動に関連付けて語彙の習得や活用ができるように工夫されている。 ○ 発信語彙を太字で示すことで、受容語彙（意味が分かればよい語彙）と明確に区別し、発信語彙を繰り返し扱うことで確実な語彙習得につながるように工夫されている。			
二【活用する力の育成】	○ 各学年3か所に、まとめの活動である「You Can Do It!」を設け、実生活や実社会と関連付けた話題や題材が取り扱われている。既習の知識や技能を活用して五つの領域を統合した言語活動を行うことで、思考力・判断力・表現力等を育成できるよう構成されている。 ○ 各学年の帯教材「Let's Talk」は、発達段階に応じた言語材料を使い、自分や相手のことについて、その場でやり取りする力を育成することができるようにされている。 ○ 読み物教材「Let's Read」では、キャリア・情報・科学・福祉・地球環境など現代的な課題について深く考え、新たな価値を創造できるような話題を取り上げ、豊かな感性を育むことができるよう構成されている。			
三【主体的な学習態度の育成】	○ 「CAN-DOリスト」は、小・中学校5年間の構造と系統が整理され、学年全体の領域別の到達目標や目標に到達するまでの過程、この先の成長イメージなどが視覚的に把握でき、見通しをもって学習を進めることができるように工夫されている。 ○ 巻末付録「英語の学び方ガイド」は、五つの領域に関することだけでなく、辞書の使い方、単語の学び方など、中学校の英語学習でつまずきの多いものをまとめ、生徒がガイドに沿って意欲的に学ぶことができるよう工夫されている。 ○ 二次元コードを活用し、言語活動のモデル映像やスピーキングテスト問題を収録するなど、自主的な学習にも資するよう工夫されている。また、実写動画、13段階の音声スピード調節機能、再生したい箇所の選択機能など、生徒が主体的に学習できるよう工夫されている。			
四【説明の平明さ】	○ 第1学年の単元の各ページの単語リストに小学校で学んだ語彙も表示されており、既習事項の確認がしやすくなっている。 ○ 第1学年1学期前半の単元（Unit 1～3）を読み書きの準備期間とし、文字や文法の学習に慣れていくことができるように考慮されている。			
五【紙面の明瞭さ】	○ 教科書の文字は、小中接続期の手書きに近い書体から、第1学年後半には実際の英語の表記や外部試験でも使用される書体へと、発達段階に応じた書体となっている。 ○ 「Part 1～3」では、ページの構成が統一されており、学習の流れが把握しやすくなるよう考慮されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	英語	61	啓林館	BLUE SKY English
一 【基礎・基本の習得】	○ 各単元は、「Part 1～3」（基礎的・基本的な知識や技能を習得）→「Read & Think・Listen & Think」（インプット中心に思考力・判断力・表現力等を育成）→「Think & Speak・Think & Write」（アウトプット中心に思考力・判断力・表現力等を育成）で構成されており、基礎・基本の習得から段階的に取り組むことができるよう工夫されている。 ○ 各パートは、本文→新出語彙→新出文法→自己表現の流れとなっており、生徒が段階的に五つの領域の力を身に付けることができるように構成されている。			
二 【活用する力の育成】	○ 各パートの最後に自己表現（Express Yourself）が設定されており、学んだ表現を使って活動することができるよう工夫されている。 ○ 生徒が身に付けた知識や技能を活用して取り組む技能統合型の言語活動（Project）が、3年間で8回設定されている。各言語活動（Project）では、思考ツールを用いて伝えたい内容を整理し、段階的にアウトプット活動が行えるように構成されている。 ○ 各領域に特化した活動（Let'sシリーズ）が配置されており、実生活に即した場面や状況に応じた表現を身に付けることができるように工夫されている。 ○ SDGsに関連する題材を通して、日本や世界が抱える課題を知り、それらを自分のこととして捉えることができるように工夫されている。			
三 【主体的な学習態度の育成】	○ 「CAN-DOリスト」には、領域別に学習目標が設定されており、目標に関連する単元が明記されている。さらに、4段階の自己評価をすることができ、生徒が学習したことを振り返ることができるように工夫されている。 ○ 各単元の1ページ目（とびら）にインプットとアウトプットに関する単元の目標が示されており、生徒が学習の見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。さらに、単元末には、単元の目標に基づいて自己評価を行うことができるようになっている。 ○ 学習者用デジタル教科書では、新出文法の解説動画を授業の復習に活用することができ、生徒が必要に応じて学び直すことができるように工夫されている。			
四 【説明の平明さ】	○ 小学校で音声中心に慣れ親しんだ表現を、第1学年の単元を通してもう一度学習する文法配列になっており、知識や技能を確実に身に付けることができるように工夫されている。 ○ 各単元末に文構造・文法を整理する内容（Focus on Form）が設定されており、単元を通して学習した新出文法を体系的に整理することができるように考慮されている。			
五 【紙面の明瞭さ】	○ 写真やイラストなどが豊富で、各単元の1ページ目（とびら）では、写真やイラスト等を見ながら単元に関する英文を聞いて問いに答える活動が設定されており、題材への興味・関心を高めることができるように工夫されている。 ○ ユニバーサルデザインを意識した5:6:5の4線の使用や、配色やデザインへの配慮がされており、見分けやすい色の組み合わせになっている。			

種目 英語

※「データの観点」の数値は、英語で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

発行者番号・略称			2	9	15	17	38	61
項 目			東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
共通データ	①総ページ数		158	166	172	182	194	154
	②単元数	大単元	7	7	8	8	8	6
		小単元	31	42	29	24	30	30
	③ 1 ページの標準文字数		110	94	85	98	99	138
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	題材数	3	3	3	3	3	2
		ページ数	12	13	6	8	6	4
		ページ割合(%)	7.9	7.9	3.7	4.5	3.4	2.7
	⑤佐賀県に関する項目		0	0	0	0	0	0
	⑥写真等の数	写真	74	83	47	54	64	78
		図表	6	6	0	0	4	16
		文章資料	4	7	1	2	0	4
	⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有	有	有	有
⑧ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有	有	有	有	有	
種目別データ	⑨「聞くこと」を中心として設定されている活動数		18	54	37	40	50	39
	⑩「話すこと」を中心として設定されている活動数		45	54	28	42	46	49
	⑪「読むこと」を中心として設定されている活動数		35	39	28	29	38	39
	⑫「書くこと」を中心として設定されている活動数		22	45	7	21	28	46
	⑬CAN-DOへの対応		有	有	有	有	有	有
	⑭判型（教科書サイズ）		A4	A4	A4	AB	AB	A4

※調査対象は発行者の第3学年の教科書。
 ※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。
 ※③（1ページの標準文字数）：第3学年の読み物教材（6月～10月に学習予定）から取り出した総単語数。
 ※④（言語活動の充実が図られている学習）：学習指導要領の言語活動例を参考に内容や提示の充実が図られているかで判断。
 ※④（題材数）：第3学年の教科書の大単元以外で、複数技能を関連付けた統合的な活動を取り入れた題材数。
 ※⑥（写真）：第3学年の教科書の大単元の中から取り出したもので、1枚ずつカウントしたデータ（練習問題に入っている写真は除く。内容に関連付いた絵は数えるが、挿絵の登場人物などのイラストは数えない）。
 ※⑥（図表）：第3学年の教科書の大単元の中から取り出したデータ。内容的にひとくくりにとまとめられるものは1つとしてカウントしたデータ（練習問題に入っている図表やイラストは除く）。
 ※⑥（文章資料）：大単元に関連することを説明する文章。

道 德

観 点 道 徳

I 基本的観点

1 【道徳的諸価値の理解】

学習指導要領に示された道徳科の目標、内容に基づいて教材を厳選し、道徳的諸価値の意義やその大切さなどの理解が図られるように編集しているか。

2 【主体的な学習態度の育成】

生徒が、自己を見つめ物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について主体的に議論することができるように教材を配列しているか。また、生徒の発達段階に応じて、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習などを行うことができるように教材が充実しているか。

3 【説明の平明さ】

教材と内容との関係を明示しているか。内容は、他の内容や他の教科等、学年及び、小学校との系統性・関連性・発展性などを考慮し、生徒の思考過程に応じたものとなるよう分かりやすく構成しているか。

4 【紙面の明瞭さ】

写真、挿絵、図表などは、学習内容と深く関わり、学習効果を高めるものであるか。また、印刷が鮮明で、製本、体裁などにも配慮するとともに、ユニバーサルデザインを意識しているか。

II データ的観点

1 共通データ

- ・ 教科書の分量・構成及び資料等に関する項目

2 種目別データ

- ・ 種目の特長に特化した教材数と割合に関する項目

《学習指導要領の目標、内容との関わり》

1 特別の教科の目標との関連

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることについて、どのように示しているか。

2 教科の内容（領域）との関連

(1) 生徒の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用に努めることについて、どのように示しているか。

(2) 生命の尊厳、社会参画、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、生徒が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うことについて、どのように示しているか。

(3) 教材については、教育基本法や学校教育法その他の法令に従い、次の観点到照し適切と判断されるものであることについて、どのように示しているか。

① 生徒の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること。

② 人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、生徒が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること。

③ 多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること。

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	道徳	2	東書	新編 新しい道徳
一【道徳的諸価値の理解】	○ 全学年に情報モラルの教材が複数あり、文章だけでなくグラフや漫画など多様な教材で、情報モラルに関わる問題場面について、様々な角度から考えるための手立てが示されている。 ○ いじめや命に関する内容については、全学年ユニット教材として3つずつ教材があり、考える視点を変えながら連続して学習を重ねることができる配列になっている。 ○ 各教材末に、教材文に沿って考える発問と自分を見つめて考える発問があり、教材を通して感じた思いを自分自身の今後の生活につなげることができるようになっている。更に、「ぐっと深める」というコーナーが設けてあり、自分自身の生活や社会の実情などと照らし合わせて広い視野をもって考えることができる発問が提示されている。 ○ 現代的な課題に関わる教材を「道徳×○○」という表記で明示し、道徳的諸価値と関連付けて考えることができるようになっている。			
二【主体的な学習態度の育成】	○ 読み物教材に加え、写真やイラストなどのビジュアルから考える教材、漫画を活用した教材、グラフから考える教材など提示方法を工夫し、学習意欲を喚起する工夫がされている。 ○ 教材によっては「プラス」のコーナーがあり、授業の導入で意欲・関心を高めることができるようになっている。また、授業のまとめで考えを広げたり深めたりすることができ、自分ごととして教材と向き合うことができるようになっている。 ○ 全学年に「NHK for school」の教材があり、二次元コードからアクセスすることで動画でも視聴できるようになっているため、問題場面における登場人物の表情やしぐさなどをより具体的にイメージしながら考えることができるようになっている。 ○ 巻末の心情円を活用することで、自分の考えを視覚的に示すことができ、話し合い活動を活性化する工夫がされている。 ○ 全ての教材に「つぶやき」というメモ欄が設けられており、自分の考えやほかの生徒の考えが書き込めるようになっている。枠のみというシンプルなメモ欄のため、自由度が高く、使い方は生徒自身が選択できるよう工夫されている。			
三【説明の平明さ】	○ 生徒になじみが薄い語句については、下部に意味や補助的な解説があり、理解しやすいように配慮されている。 ○ デジタル教科書でGoogle翻訳（133言語）が利用可能になっており、生徒の学びに対し配慮されている。 ○ 個に応じた教材を読むことができるよう、速度調整機能付きの朗読音声二次元コードから再生することができるようになっている。			
四【紙面の明瞭さ】	○ 目次のページとは別に内容項目ごとの教材が4つの視点に分けて提示されている。内容項目について、どのようなことを学ぶのかが捉えやすいように言葉を補足して表記されている。 ○ 教材名の右側に、学習のテーマを簡潔に示し、その教材を通して何について考えるのか見通しをもてるようになっている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	道徳	17	教出	中学道徳 とびだそう未来へ
一【道徳的諸価値の理解】	○ 教材の冒頭に導入の問いを設け、教材を通して考えていく道徳的価値を意識付けることができるようになっている。 ○ 「いじめをなくそう」ユニットには全学年にコミュニケーションスキルを学ぶコラムを設定し、いじめや差別について多種多様な教材から考えていくことができるように工夫されている。 ○ 働くことの価値や尊さについて考えたり、歴史上の偉人、自らの道を切り拓いてきた先人の生き方や考え方を学んだりできる教材が配置されており、キャリア教育が学べるように工夫されている。			
二【主体的な学習態度の育成】	○ 教材の最後に「学びの道しるべ」として学習の流れを明記し、3つの発問について自分自身で考えたり、生徒同士で意見を交換したりすることによって、深い学びにつなげることができるよう工夫されている。 ○ 「やってみよう」では役割演技やリフレーミング、ケーススタディ的に演じる活動が取り入れられており、道徳的価値について生徒が自分たちの生活に関連付けて考えることができるよう工夫されている。 ○ 登場人物が判断を迫られる場面が中心となっている教材が数多く掲載されており、生徒が登場人物の立場に立って、主体的に考え、判断できる工夫がされている。			
三【説明の平明さ】	○ 教材の登場人物やイラスト・写真については、性別やジェンダーによる偏りがないように配慮され、多様性を認める意識が自然に身に付くように工夫されている。 ○ 巻頭のオリエンテーションページでは、多様な考えを交流し合って考えを深めていく学習過程や学習方法を分かりやすく例示し、多面的・多角的に考えていくことができるよう工夫されている。 ○ 巻末には全教材名を4つの視点に分けて掲載し、それぞれの教材に関わるSDGsの目標番号を表記することで、学習のつながりが確認できるようになっている。 ○ 生徒になじみが薄い語句については、下部に意味や補助的な解説があり、理解しやすいように配慮されている。			
四【紙面の明瞭さ】	○ ユニバーサルデザインを取り入れ、教材は基本的に右ページから始まるように配置されており、内容が見開きで見渡せる紙面構成になっている。また、見やすさに考慮したカラーユニバーサルデザインが採用されている。 ○ 印刷は鮮明で、読みやすい色調となるよう配慮されている。用紙には環境にやさしい再生紙が使用されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	道徳	38	光村	中学道徳 きみが いちばん ひかるとき
一 【道徳的諸価値の理解】	○ 各学年において、学校生活と生徒の成長を考慮して、1年間で複数の教材をまとめた9つのユニット構成になっている。9つのユニットを巻頭に「道徳 道案内」とユニットごとのキーワードと合わせて掲載し、道徳的価値の関連性を考慮しながら学ぶことができるようになっている。 ○ いじめ問題や情報モラルは、全学年において複数時間で取り組むユニットのテーマになっている。また、読み物教材だけでなく、具体的な活動を伴う「まなびをプラス」を設定することで、自分事として問題を捉えられるように工夫されている。 ○ 各学年で人権の教材と人権に関するコラムを取り扱っており、系統立てて学習できるようになっている。また、人権のユニットは12月の人権週間に合わせるように配置されている。 ○ 教材の冒頭に、その教材で学ぶ内容項目を示し、本時で考えていく道徳的価値を確認してから教材を読んだり、見たりすることができ、考える視点を明確にすることができるよう工夫されている。			
二 【主体的な学習態度の育成】	○ 各教材において、発問だけでなく「見方を変えて」や「つなげよう」があり、生徒が多面的・多角的な見方や考え方ができたり、他教科と関連付けても考えたりできるように工夫されている。 ○ 各学年に、生徒自身が問いを作り話し合いながら考えを深める「チャレンジ」が2回設定されており、各学年の発達段階に応じた話し合いができるように工夫されている。 ○ 巻末に毎時間の授業の振り返りを記入する「まなびの記録」があり、1年間の学びを通して、生徒が自身の考えの変化や成長を振り返ることができるように工夫されている。			
三 【説明の平明さ】	○ 各学年の第1教材に「道徳の学習を始めよう」を配置することで、生徒がどのように道徳科の授業で学んでいくのか見通しをもつことができるように工夫されている。 ○ 巻頭に内容項目のキーワードとイラストを合わせた「22のキーワード」を提示することで、視覚的に内容項目の理解を促す工夫がある。 ○ 二次元コードを読み込むと、教材の朗読だけでなく、教材を補助する動画や資料も見ることができるようになっている。また、二次元コードの横にはリンク先の内容が標記されており、必要に応じて確認することができるようになっている。 ○ 生徒になじみが薄い語句については、下部に意味や補助的な解説があり、理解しやすいように配慮されている。			
四 【紙面の明瞭さ】	○ 各教材の本文は縦書き、発問や手引きは横書きにすることで、違いが明確になり必要な情報を確認しやすくする工夫がされている。 ○ カラーユニバーサルデザインの観点から、色文字でも振り仮名は黒字にするなど配慮されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	道徳	116	日文	中学道徳 あすを生きる
一【道徳的諸価値の理解】	○ 「いじめと向き合う」や「よりよい社会を考える」がユニットとして設定されている。また、「生命の尊さ」を重点内容項目とし、全学年で複数の教材を配置することで継続的に考え、多面的・多角的に考えを深めることができるよう配慮されている。特に「いじめと向き合う」は全学年同じ時期に学習できるよう工夫されている。 ○ 現代的な課題である情報モラルの教材を全学年に配置し、コラムとして具体的な事例や課題を掲載することで、自分事として捉えて考えることができるよう工夫されている。 ○ 「学びを深めよう」では、問題解決的な学習や体験的な学習などの流れと資料が示されており、それぞれの学習過程の中で生徒同士が話し合い、考えを深めることができるように工夫されている。			
二【主体的な学習態度の育成】	○ 全ての教材が「①気づく」「②考え、議論する、深める」「③見つめる、生かす」の3ステップになっており、生徒が1単位時間の見通しをもって学びを進めることができ、主体的な学びにつながるように工夫されている。 ○ 新学期や体育大会などの学校行事、第2学年の職場体験や第3学年の部活動引退などの時期に合わせて授業ができるよう教材を配置し、生徒が教材の内容に関心をもって意欲的に学習に取り組めるように考慮されている。 ○ 各教材の末尾に発問「考えてみよう」「自分に+1」を設定し、生徒が道徳的価値を自分との関わりで考え理解し、自身の生き方に生かしていけるように工夫されている。 ○ スポーツ選手等の人物教材・地域教材・多様な意見を促す教材など、多岐にわたる教材を扱うことで学習意欲を高めるように工夫されている。			
三【説明の平明さ】	○ 各学年の第1教材に「道徳科での学びを始めよう！」と「ミニ教材で考えてみよう」が配置されており、道徳科の時間の学び方について知ることができるようになっている。 ○ 中学校で学習する漢字には振り仮名が付けてあり、下の余白には専門用語等の脚注を付けることで、生徒の内容理解を助ける工夫がされている。 ○ 多種多様なコラムが掲載されており、学習内容を発展させたり他教科と関連させたりと、実生活に生かすことができるように工夫されている。			
四【紙面の明瞭さ】	○ イラストや写真を数多く用いており、特に写真は、登場人物の心情や状況が伝わってくるものを使用することで、生徒が学習に興味をもったり、心情に寄り添ったりできるように工夫されている。 ○ 全学年別冊の道徳ノートがあり、発問欄を空欄にし、自由欄を設けることで、活用の幅が広がるように考慮されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	道徳	224	学研	新版 中学生の道徳 明日への扉
一【道徳的諸価値の理解】	○ 「命の教育」を重点テーマにおき、生命の尊さについての教材を各学年3つずつ掲載し、命の偶然性、連続性、有限性などの様々な視点を通して、多面的・多角的に考えられるように工夫されている。 ○ 内容項目だけでなく、独自に設けた命、キャリア、情報モラルなどの14の現代的な課題を教材名の下に提示することで、様々な視点をもって考えることを促すよう考慮されている。 ○ 現代的な課題について重点的に学習を深められるようSDGs、多様性、キャリアをユニット化し、学年ごとに連続して複数の教材が設けてあり、それぞれの課題について考えを深められるようになっている。 ○ 教材の後に適宜配置されている「深めよう」では、より深く学ぶための「考えを深める4つのステップ」（見つけよう、考えよう、話し合おう、生き方につなげよう）の具体的な例が提示されており、必要に応じて活用することで、話し合い活動や役割演技などを通して、道徳的価値に迫ることができるようになっている。			
二【主体的な学習態度の育成】	○ 巻頭に「考えを深める4つのステップ」を提示することで、学びを深めるためのさまざまな手立てについて知ることができるようになっている。 ○ 教材の前に主題名を置かず、多様な考えや自ら課題を発見する力が育めるような工夫がある。また、教材名の下に提示された「キーワード」が教材で学習する内容の問題提示になっており、主体的な学びへとつながるような言葉が用いられている。 ○ 特設ページ「クローズアップ」では、内容項目に即した関連情報はもちろん、異なる視点からの関連情報を扱うことで、多面的・多角的に考えることができるように考慮されている。 ○ 巻末には心の成長を振り返るための「学びのメモ」「学びの記録」が付いており、自らの成長が実感できるようになっている。また、教材ごとにメモ欄が設けてあり、気付いたことや思ったことを書き込めるように工夫されている。			
三【説明の平明さ】	○ 難読漢字については、全て振り仮名を付け、また、生徒になじみの薄い語句には脚注を付けるなど、内容理解の手助けとなるよう配慮されている。 ○ 教材名の下に二次元コードがあり、教材の関連資料にアクセスし、必要に応じて写真や動画を見ることができるようになっている。 ○ 複数の14の現代的な課題と関連付けて考えることができる教材には、教材名の下に複数のマークを表記することで生徒が関連を確認できるように工夫されている。			
四【紙面の明瞭さ】	○ 本文のページ番号に電球のイラストを組み合わせ、電球の点滅の数によって、教材の何分の何ページ目を学習しているかわかるようになっており、見通しをもつことができるように工夫されている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	道徳	232	あか図	中学生の道徳
一【道徳的諸価値の理解】	○ 本書の重点内容項目として全学年において「自主、自立、自由と責任」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」の4項目が配置されており、3つずつ教材が掲載されている。 ○ 現代的な課題について重点的に学習を深められるよう4つのテーマ「いじめを考える」「情報モラル」「共に生きる社会」「キャリア」をユニット化し、学年ごとに連続して複数の教材が設けられており、テーマについて深く考えられるようになっている。 ○ 各学年の巻末に「Thinking」というコラムページが設けられており、SDGsに関するページでは、持続可能な社会を実現するための目的が分かりやすく説明されている。また、「ふるさとに学びを広げよう」では、地域の事例を取り上げ、視野を広げる手助けとなるような工夫がされている。佐賀県に関する内容も全学年に掲載されている。 ○ 各学年、巻頭に生徒の発達段階に合わせて、「今の自分を見つめる」といった内容で、1年間の道徳科での学びの指針になる教材が掲載されている。			
二【主体的な学習態度の育成】	○ 教材の最後にねらいに迫る発問が2つ用意されており、1つ目は「自分を見つめて考える」「いろいろな見方で考える」ための発問、2つ目は「考えを深める」ための発問となっており、生徒一人一人が考えを深めていくことができるようになっている。また、この教材での考えの道筋が吹き出しで示されており、最後の「自分との対話」では、学んだことを自分自身に問い直すことができるようになっている。 ○ 教材名の下に二次元コードがあり、教材理解を助ける動画やインタビューを見ることができるようになっている。教材に登場する人物の実際の映像を見たり、話を聞いたりすることで、題材への関心が高まったり、多面的・多角的に捉えたりすることができるようになっている。 ○ 巻末に、学期ごとの振り返りができる「学習の記録」、1年間の振り返りができる「1年間の学習の記録」が用意されており、生徒が自分自身の成長を確認することができるように考慮されている。			
三【説明の平明さ】	○ 教材名の下に二次元コードがあり、教材に関する補助教材として、写真や動画を見ることができるようになっている。 ○ 難読漢字については、全て振り仮名を付け、生徒になじみの薄い語句には脚注を付けるなど、内容理解の手助けとなるよう配慮されている。 ○ 巻頭には現代的な課題のテーマに沿って、関連する教材が掲載されており、現代的な課題と関連付けて考えることができるようになっている。			
四【紙面の明瞭さ】	○ ユニバーサルデザインを取り入れ、教材は基本的に右ページ始まりで、内容が見開きで見渡せる紙面構成になっている。 ○ UDフォントが使用されており、書体や文字が大きく、濃くなっている。			

I 基本的観点

観点項目	教科	発行者の番号・略称		書名
	道徳	233	日科	道徳 中学校
一【道徳的諸価値の理解】	○ 全学年、学習指導要領の内容項目順に教材を配列し、各学校や地域の特色や方針によって、各教材を生かすことができるよう工夫されている。 ○ 教材の最後には2つの発問があり、中学生の発達段階を意識し、学年を追って教材の発問内容を深化させていく配慮がされている。 ○ 「希望」「感謝」「多様性」といったウェルビーイングのために大事なことを書いたウェルビーイングカードが巻末に準備されており、内容項目そのものについて学ぶだけでなく、自分自身が、どのような価値を大事にしているかを意識するために活用できるようになっている。 ○ 人間としてどう生きるかということの探求をしていくための哲学的視点を与える教材が各学年に設置されている。 ○ 全学年に情報モラルについて取り扱った教材が掲載されており、インターネット・コミュニケーションについて、身近に起こりうる事例を通して自分事として捉えることができるよう工夫されている。 ○ 全学年、キャリア教育の視点から発達段階を踏まえて、学年ごとに総合的な学習の時間とつながる教材が掲載されており、よりよい生き方が探求できるよう工夫されている。			
二【主体的な学習態度の育成】	○ 教材の文末に「考えよう」「深めよう」の発問を置くことで、自分の考えを深める手助けとなるよう工夫されている。また、アクティブラーニングに資するために、多くの発問で「話し合ってみよう」と対話を促すような工夫がされている。 ○ ウェルビーイングカードを活用することで、意見を伝えやすくなるように工夫されており、また、生徒同士でカードを見せ合うことで、対話しやすい環境をつくることができるように考慮されている。 ○ 各学年の冒頭に「クラスみんなと道徳授業を創り出そう」の単元が設けられており、1年間のスタートにあたって、学びの目標意識をもって授業に向かう態度が形成できるように工夫されている。			
三【説明の平明さ】	○ 生徒の興味・関心や、イメージをもって課題に向かうための素材について、漫画や動画の教材など多様な表現方法が用いられている。 ○ 教材についている二次元コードから、より知識を深めるための写真や年表、プロフィールなどの情報を見ることができるようになっている。また、動画教材では、身近な課題を取り上げ、そこから考えを深めていけるように工夫されている。 ○ 生徒になじみが薄い語句については、下部に意味や補助的な解説があり、理解しやすいように配慮されている。			
四【紙面の明瞭さ】	○ 余白や行間が広く設定してあり、見やすくなっている。 ○ 教材は基本的に右ページ始まりで、内容が見開きで見渡せる紙面構成になっている。 ○ 明るい白を基調とした用紙が使用されており、文字が映えるようになっている。			

種目 道徳

※「データの観点」の数値は、道徳で設定した基準により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的に捉えるのではなく、具体的内容と合わせて各発行者の特徴を捉える参考とすること。

Ⅱ データ的観点

項 目		発行者番号・略称	2	17	38	116	224	232	233
			東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
共通データ	①総ページ数		210	201	199	194	198	194	171
	②教材数		35	30	34	35	35	35	34
	③ 1 ページの標準文字数		833	691	727	667	734	792	679
	④言語活動の充実が図られている学習（活動）	教材数	10	3	10	5	12	3	5
		ページ数	44	16	52	34	60	16	17
		ページ割合 (%)	21.4	8.3	27.0	17.7	30.7	8.6	10.3
	⑤佐賀県に関する項目		0	0	1	0	0	1	0
	⑥写真等の数	写真	68	61	72	89	84	73	70
		図表	9	3	12	13	4	11	7
		文章資料	1	2	3	6	5	1	3
種目別データ	⑦指導者用デジタル教科書の有無		有	有	有	有	有	有	有
	⑧ウェブサイト等へのリンクの有無		有	有	有	有	有	有	有
	⑨問題解決的な学習に配慮した教材数と割合 (%)		4	1	4	2	1	1	3
			11.4	3.3	11.7	5.7	2.8	2.8	8.8
	⑩道徳的行為に関する体験的な学習に配慮した教材数と割合 (%)		4	3	1	1	3	0	0
			11.4	10	2.9	2.8	8.5	0	0
	⑪郷土の特色が生かせる学習（地域教材）に配慮した教材数と割合 (%)		2	3	1	4	2	5	3
			5.7	10	2.9	11.4	5.7	14.2	8.8

※調査対象は、各発行者の第3学年の教科書（分冊型は主たる教科書）。

※①（総ページ数）：「中学校用 教科書目録（令和7年度使用）」より転記。

※②（教材数）：補充教材や付録、巻末資料等を除いた、教科書本編の教材数。

※③（標準文字数）：長編の読み物教材を基準教材とし、一番文字が多いページの文字数。

※④（言語活動の充実が図られている学習）：生徒一人一人の考え方や感じ方を表現する話し合う活動や書く活動、または表現活動を取り入れることを教材末の問いで明示しているかで判断。

※⑥（写真等の数）：大きさの大小は問わず1つと数えた、内容の理解を助けるための写真、図表、文章資料の数。

※⑦（デジタル教科書の有無）：令和7年4月にデジタル教科書を発刊予定であるもの[令和6年6月現在]。

※⑨（問題解決的な学習に配慮した教材数）：道徳的価値に根差した問題や課題について、対話したり話し合ったりする学習を取り入れることを教材末の問いで明示しているかで判断。